

国づくりと研修

48
1989.

新しいまちのかたち

商業空間

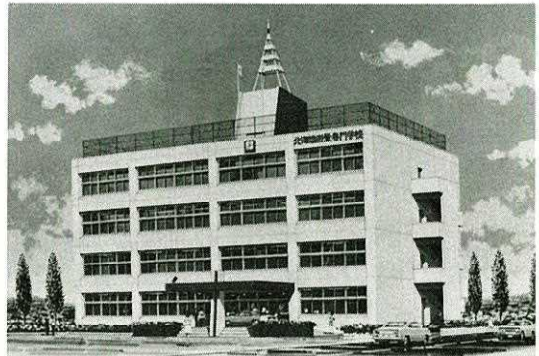
望月照彦のまちづくり美女対談
加賀まりこ ● 宮田みどり

建設大臣
労働大臣 指定校

北海道測量専門学校

本校は、測量並びに土木・情報に関する基礎理論と実際に役立つ専門技術を系統的に教授し、あわせて心身ともに健全にして旺盛な実践力をもった測量、土木、情報処理技術者の養成を目的とする専門学校です。

昭和48年道内関係各機関の要望によって開校して以来、その独自の教育方針をもって北海道開発第一線の担手となる測量技術者の養成と人間性の育成につとめ、関係方面の期待に応じて今日にいたっており、将来一層の発展が期待されています。



◎設置学科

工業専門課程

測 量 科 (1カ年)	測 量 工 学 科 (2カ年)
土 木 工 学 科 (2カ年)	情 報 測 量 工 学 科 (2カ年)
製 図 科 (1カ年)	

◇募集人員	測 量 科 100名	測 量 工 学 科 60名
	土 木 工 学 科 80名	情 報 測 量 工 学 科 70名
	製 図 科 40名	

◇応募資格 高等学校卒業（卒業見込）以上。

◇試験科目 数学(I)・作文・面接

◇推せん入学 高等学校長、地方公共団体の長、および測量・土木・建設会社社長の推せん制度あり。
製図科は書類審査のみ。

◎特 典

測 量 科	}	測量士補（国家試験免除）実務経験2年で測量士
測 量 工 学 科		土地家屋調査士（法規のみ要試験）
土 木 工 学 科		測量科と同資格取得・1・2級土木施工管理技士受験資格（短大卒同等）
情 報 測 量 工 学 科		測量科と同資格取得・情報処理技術者第二種（国家資格取得目標）
製 図 科		2級地図製図士（日本測量協会認定）

(〒069) 北海道江別市野幌若葉町85-1 TEL 011-386-4151(代)

新しい まちの 商業空間 かたち



▲吉田川親水遊歩道

▼やなか水小径



郡上八幡は、岐阜県のほぼ中央に位置し、地域ぐるみの商業近代化を進めている

(本文、郷土シリーズ参照)

下町に

○学校から生徒もいなくなり／昔の景色が変わってきた
○下町には商店街がいっぱいあって

／生活、仕事、遊びが一緒になった
○子供にとって何が幸せ？／まち全体が遊び場だった

「まちらしさ」があったころ

——自分の空間を大事にしたい——

多摩大学教授

女優

望月照彦・加賀まりこ

望月 加賀さんは、お生まれはどこですか。

加賀 生まれたのは、御茶ノ水の浜田病院。お母さんが言うには、「いきなり防空壕に入っちゃったから、あんた何時に生まれたか、朝だか昼だかわからない」って、いかげんなのよね。それで、まさかだめだろうなと思って、いままある浜田病院に電話をして、「万が一そういう記録があれば、私が何時に生まれたかをちゃんと知りたいんですが」って言ったら、二、三日して、カルテがあったっていうんですよ。

望月 すごいね。
加賀 そういうところも、やっぱり下町なのか

○ヨーロッパにはエレガントで珍しいものが同時にあった
○まちにおい、感じますか？
すてきなまちの条件で何だろう

○やっぱりほっとするのは、自分の空間がもてるまち

な。

望月 当時、駿河台に住んでいたのは、お金持ちだとか、多かったですよ。

加賀 テレビが二十八年ごろから始まって、テレビのある家っていうと、「お大金の家」という感じでね。何か見たいというと街頭テレビの時代だものね。だから、お金持ちも限られてたわよ。

望月 御茶ノ水っていうのは、歴史からいうと大体屋敷町ですね。だから、一つのブロックが大きいわけ。あの辺、高台でしょう。高台にはお大尽が住んでいた。

学校から生徒もいなくなり

昔の景色が変わってきた

加賀 うちの母も、おばあちゃんも、私も同じ駿河台下の小川小学校っていうんですけれども、どうも今度、廃校になるらしいんですよ。

望月 生徒がいなくなっちゃったの？

加賀 いまや、もうほとんど住んでいる人がいないもの。あの界限に行ってみると、全部、スキーとかゴルフのスポーツ道具屋さんばかりになっちゃって、昔のよさは何も無い。



私はすぐ上の姉と一回り違うんです。だから、きょうだい遊ぶんでくれたっていうのはないから、いつも一人遊び。近所の子と遊んでたっていうのも、駿河台に住んでいたころまでね。

望月 次に引つ越したのはどこなんですか。

加賀 二十一歳になって、おやじと約束して、私はどうしてもひとり暮らしをしたかったのね。それで、伝通院の川口アパートメント。

望月 引つ越しされたまちの中で、一番気に入っているまちはどこですか？

加賀 私は、下町っ子のくせにわりと無関心になれる方が好き。それは職業上の関係もあるんだろうけれども。川口アパートの次が麴町の一番町。「天皇陛下の家の隣よ」という感じで。あの辺は、本当に「隣は何をする人ぞ」というころがあるでしょう。

望月 あそこもいいところだね。あそこは、それこそお屋敷町だよ。

加賀 そうですね。

望月 そうすると、最初のところは、下町の、周りに商店街なんかがいっぱいあったところですか。

下町には商店街がいっぱいあって

生活、仕事、遊びが一緒になつてた

加賀 そうよ。だから、クラスメートというのは、みんな商売屋の子で、うちみたいにサラリ

ーマンの子は少なかった。

何となく懐かしくて、昔の家があった辺に行ってみると、お豆腐屋だったところとか、床屋さんとか、材木屋とか、うなぎ屋の息子とか、文房具屋の子とか、みんな、表通りに面している家の人達はスポーツ用品店に土地ごと取られちゃってないけど、ちよつと奥だと、まだいるわね。

望月 小さいころは、そういう周りに商売のお店ばかりがあるとところに住んでいて、どうだったの。やっぱり楽しかったかな。

加賀 しょつちゅう自転車を乗り回したり、本当に日が暮れるまで遊んでたわね。

望月 時代劇の、池波正太郎っているでしょう。かれも下町なのね。彼の本を読んでいると、「下町っていうのは全部自己完結的であつた」と言うんですよ。自分の町内だけで、客席はある、うまいそば屋はある、映画館はある。だからよそに行かなくても、そこだけで生活できる。店のおやじは、全部生業店、自分で店を持ってやっているから、特に通勤なんかはしないわけでしょう。だから、生活と、仕事、遊びが一緒になつてたつて言うんですよ。そういう感じはありましたか。

加賀 私はそんなに実感としてないんだけど、お母さんたちの話を聞いてると、まさにそうね。

望月 いまの生活と、その当時の生活ではどっちがいいと思う？

子供にとつて何が幸せ？

まち全体が遊び場だつた

加賀 どうかしら。戦後の、がちやがちやしてつていう、時代そのものがまた違うでしょう。だから、あのときは小さくて、おもちゃもなければ、自分たちの知恵で遊ぶしかなかったでしょう。そういう方が、いまみたいにものが豊富などときよりも、子供らしく遊べるわね。路地で缶けりするのでもさ。

望月 あの当時、路地がいっぱいありましたよね。

加賀 だから比べられないよね。いまの子が幸せか、私達が幸せか、それはわかんないわ。

望月 だけど、少なくとも、当時はまち全体が遊び場だつたじゃない。

加賀 それはもちろん。友達の家でご飯を食べるなんてこともね。

望月 かなりあたりあたりまえだつた。佃はいまでもそうみたいね。

加賀 あのまちは、本当そうよね。自分のご飯茶碗とおはしを持って、人の家に行つて食べてるものね。

望月 神田で学校に通っていたときの一番のまの思い出みたいなのはあります。

加賀 やっぱり神保町の本屋さん街が一番印象に残っているわね。長い時間立ち読みをして、

いい加減お腹がすいたかと思って、家に帰るのよね。それで、次の日また読むんだけど、本屋のおやじが怒んなかったものね。

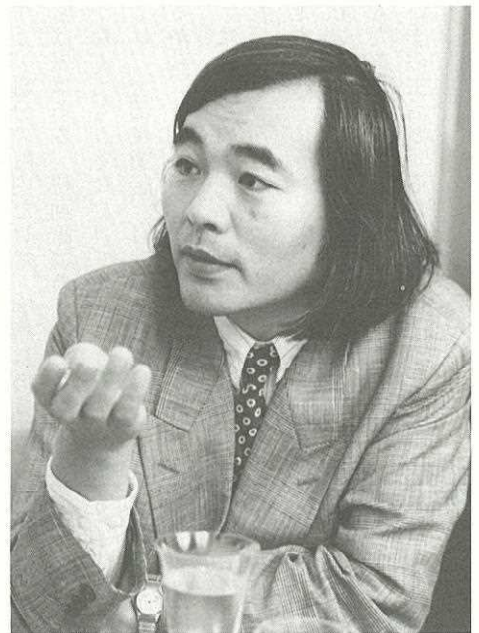
望月 それは大したもんだな。そういうのは何なのかな。一種の、下町の人情みたいなものなのかね。それで結局、何回移り住んだの。

加賀 駿河台でしょう。神楽坂でしょう。一人で川口アパートのあった伝通院でしょう。それから麴町。それまでまた戻ったの。

望月 加賀さんの場合、機能的には、青山にいたり、そういうイメージの方がいいんじゃないの？

加賀 たとえば高速道路を使うのでも何でも、一番町のあたりはとても便利だし、いまちよつと神楽坂に引っ込んで、東京都の地図をまん丸くすると、ど真ん中って神楽坂なのね。だから、どこに行くのでも、全然不便を感じたことがないから。いまままブラザーの方が開発されていて、TBSの仕事だって緑山スタジオなんかに行くでしょう。お菓子でできたような、幸せの見本みたいなお家が建ってるじゃないの。あんなところを見ても、幾ら、何億、お金をつけて住んでくださいって言っても嫌だね、あんなとこ帰るの。

望月 ショートケーキハウスって言うんだね。やっぱり自分が住んでいるところが一番よかったんだ。ただこれだけ世界的な都市になって、やっぱり都市の中に加賀さんみたいな人が、



望月 照彦

Toruhiro Mochizuki

静岡県清水市生まれ。
多摩大学教授。
著書「マチノロジー街の文化学」
「都市文化の仕掛人」
「都市のロビンソン・クルーソー」
ほか多数。

まちのよさを持ってずうっと住みついていて、そういうのも、ある意味では東京の魅力かもしれないよね。

僕は、加賀さんのイメージっていうのは、いつもニューヨークに行ってるというのがあったけど、最近あまり行行ってないですか。

ヨーロッパにはエレガントで

珍しいものが同時にあつた

加賀 三年前に行つたぐらいかな。去年はミラノとフィレンツェに行つた。久しぶりでヨーロッパに行きたくなったの。ヨーロッパも、二〇代のときはすごく楽しかったんだけど、あまり日本人がふえてからはもう全然行ってなかったから。

望月 月並みな質問だけど、どのまちが好き？

加賀 ロンドンなんか結構好き。

望月 僕は七月にロンドンに行つたばかりなんだけど、この数年ぐらい何か明るくなったね。イギリスの経済がわりとよくなったから、まちもきれいになったんじゃないかな。

それから、一番違うのはストックね。歴史的な重みっていうのがあるじゃない。加賀さんの住んでいた神田とかにも歴史的な重みがあったでしょう。特に神楽坂はそうだよな。

加賀 両方ともそうだよな。夏目漱石さんの小説にも出てくるし。

望月 一番新しく行かれたというミラノはどうでした？

加賀 ミラノっていうのは、二〇代のときにイスのサンモリッツというところでスキーをし

て、レンタカーで国境を越えて、初めて「ああ、これがミラノ……」っていう感じで見直したのね。それまでイタリーって、わりとばかにしてたのね。着いた時間がちょうど午後5時のティータイムっていうか、そういう時間で、「何てきれいな、エレガントなまちだろう」って思ったのね。つまり、きちんと盛装したご婦人が、犬の散歩も兼ねて、お茶を飲みにわざわざ外へ出てらして。それで、いまこんな言葉を使っているのかどうかかわからないけれども、乞食がないのね。ローマに行ったり何かするとすると、そういう意味ではまだすごく荒れているんだけれども、ミラノっていうのは、すごくお金持ちのまちなのかなと。それはそうよね。工業的にも発展してたし。

望月 ヴイスコンティのまちだからね。

加賀 そういう意味で、こんなにエレガントで、しかも新しいものが同時にあってね。だから、二十三、四歳のころにとっても好きなまちになったのね。

望月 ヨーロッパでもアメリカでも、加賀さんにとっていいまちとか、すてきなまちっていうのは、どんな条件がありますか。

まちのにおい、感じますか？

すてきなまちの条件てなんだろう

加賀 まず、おもしろい芝居が見れるところ。

それはロンドンもニューヨークも当てはまるでしょう。

望月 それは、やっぱり一つの文化だね。

加賀 それと博打ができる。

望月 文化とギャンブル。スリル……。だけど、本来は貴族の遊びだもんね。ロンドンなんかそうだもんね。なるほどお芝居が見れる、ギャンブルができる、それから？

加賀 おいしいものが食べられる。

望月 まちのにおいってどう？たとえソウルに行くじゃない。金甫空港におけると、何となくニンニクのおいがするとか、あれは不思議だね。昔の神田なんかには、何かまちのにおいがあったかな。

加賀 そうね、大人になってからはやった歌だけど、「神田川」っていう歌があって、銭湯に

行く二人連れなんていうのは、思えばあったわよね。小っちゃいとき、自分の家におふろがあったのに、銭湯に行きたがったりしたわね。

望月 僕は静岡でしよう。千駄ヶ谷におばがいたんですよ。それで、子供のときの楽しみの最大なものは、上京して、おばのところに逗留する。それでどこに行くかという、伊勢丹に行くわけ。伊勢丹でおみやげを買ってもらって、中村屋で肉まんを買う。その肉まんを食べながら映画を見て、その後、実演があった。

加賀 きっと最大級の満足でしょう。

望月 そう。要するに、都市の幸せのにおいっていうのは、肉まんのおいなんだよ。(笑)
加賀 私、小っちゃいときによく言ってたんだって、「私、大きくなったら、デパートを丸ごと買ってくれる人のところにお嫁に行く」って。



加賀 まりこ *Mariko Kagawa*

東京生まれ。

女優。

映画「夕暮れまで」(ブルーリボン助演女優賞)

「泥の河」(キネマ旬報最優秀助演女優賞)

他、テレビ、舞台等多数。

そのぐらいデパートというのは、……。

望月 あこがれだったなあ……。

いま、家族はどういう構成で住んでいるんですか。
 加賀 一階が母、二階が私、三階が兄夫婦。それで、階段もゆったりつくってあって。年取っても転ばないように。というのは、母が、ことし八三歳、丙午の人だから。お元気なの、またこれが。だから、母が楽なようにつくってある。ということは、自分が年を取っても楽。何たって、遠くに住んだら、空気はいいかもしれないけれども、羽田についても、新幹線で帰ってきても、車が都心に入ってきて、銀座の明かりとかを見たときに、やっぱり「帰ってきた」っていう感じがするのね。

やっぱり、ほっとするのね

自分の空間がもてるまち

望月 僕はいろんな都市計画で都市をつくっているけれども、設計でなかなか出てこないのは、暮らしやすさとか、いま加賀さんがおっしゃられたような、ほっとするとか、そういうものが出てこない。僕は生まれたところじゃないけれども、二葉というお寿司屋さんなんかによく行く。あの坂を上がっていくと何だかすごくほっとするんだよね。ああいうものは、デザインしてもできてこない。やっぱり歴史だとか、文

化とか、長い人間の関係が磨いたものがそこにあるんだろうな。

加賀 そうなのね。だから、神楽坂なんかを歩いていると、とにかく昭和二六年からいるわけだから、代替りしても、ご主人がほとんど私ぐらいの年でしよう。「お元気ですか。見てますよ」とか、必ず声をかけてくるのよ。それがちよつとうちやわしいときもあるわけね。なるべくなら、そういうときであるでしよう。

望月 それはしょうがないな。みんなに愛想するわけにいかないものね。

僕なんかも、もう東京に住んでいる方が長くなつちやつたけど、やっぱりふるさとじゃないんだよね。僕は代々木上原だから、すごくいいところなんだけど、何か……。僕の息子の世代になれば違うんだろうけど。僕は、静岡の自分の家の方が、いまでもやっぱりほっとするね。それは、生まれたということもあるし、幼いときに、自分の生活環境がそこで育まれたっていうこともあるし。母親がまだ静岡なんですよ。だから、それもあるかもしれないな。

加賀 それはあるわね。

やっぱり自分の空間の中で、楽なかつこうをして、見たいものを読むなり、ビデオを見るなりしている方が、疲れは取れるわね。

望月 リゾート、リゾートって言うから、海に行ったり、山に行ったりするじゃない。だけど、本当はホームリゾートといって、要するに自分

の家でゆっくりするのが最高のリラククスだね。加賀 それは、ずいぶん前から私はそう思っている。職業柄、常に何十人かのスタッフと一緒に行動してものがつくられていくわけでしょう。

だから、そういうふうによくの人といる時間が長いから、よけいそうなのかもしれないけど、一人の空間っていうのがものすごく大事ね。

望月 やっぱり自分の空間がもてるまちっていうのが一番いいね。ふるさとというのは、自分の空間なんだろうな。だから、普通の顔をしていられるし、普通の生活ができるのがやっぱり一番リラックスするよね。

加賀 そうですね。寒過ぎてがまんするとか、そんな必要もないし、自分の好きな温度で、自分の好きな絵だけが飾ってあって。私は、「これが女優さんの家？」って言われるぐらい、何もない部屋が好きなのね。家らしくなるのがいやなの。よけいなものが置いてあると嫌なの。お花ですら、存在感が嫌なときがあるから。だから最小限度。

望月 しかし、われわれの世代より下の人達はもうあまり下町なんかに住みたくないだろうね。加賀 そうね。でも、いま三井不動産が建てた佃島のそばの、すごい大高級らしいじゃない。

望月 あそこはすごく人気があるみたいね。

加賀 眺めはいいだろうと思うけど。あそこに住むっていうのは、私にはどうもあまり考えられないわね。

(平成元年8月28日に)

望月照彦の●まちづくり連続○美女対談

新しい

望月照彦 ● 宮田みどり

● 商業が生まれてくる

- 地方中枢都市に果たす商業機能の役割は
- 商業そのものが観光資源となるような
- 新しいまちのかたち／商業空間に求められるもの
- 地方都市の可能性／情報をいかにうまくつかむか

- 産業を導くマンパワーが、まちの将来を左右する
 - 有形無形の資源を生かす／
- まずは地域に根ざした発想で



望月 宮田さんはどこで生まれたんですか。
 宮田 私は、山口県の萩市です。
 望月 萩というのは、伝統的な城下町ですね。
 商店街なんかは、どうい様子ですか。
 宮田 ちょっとさびしいですね。地元の人々の風土というものもあるんでしょうけれども、人口が五万人だと、やっぱりサービス業というのはなかなか満足のいくように成り立ちにくいんじゃないかなという気がするんですね。そういう大型店を入れることによって活性化しようという意見と、そっちに食われちゃうと小さな店がつぶれちゃうという意見とでがっぷり組んじやって、結局流れていくというのを子供のころから何回か聞いて、私達としては、やっぱり大きいお店がほしいですから、「残念だなあ」なんて。(笑)

地方中枢都市に果たす

商業機能の役割は

望月 大体、市になるのは三万人が一つの基準でしょう。大体三万から五万人という都市の規模は、日本の中でも大変多いゾーンですよ。ただ、ちょうど衰退傾向にあるか、いろいろ発展していくかという流れからいうと、どっちかというところ、いま地方都市の中では、力を少しずつなくしていく傾向にありますよね。だから、大体大型店とか百貨店というのは一〇万人規模以上でないと成り立たないという意見があるわけです。そのぐらいになると、独自の地域の産業だとか、大きなインフラになるような産業がはりついて、それが活力の源泉になっているんですけど、大体三万から五万人というところ、かつて城下町があったとか、広域の地域の人達が集まって商流通の拠点になっていたところでしょう。それが一気に大きくなるという可能性は非常に少ないわけです。逆に言えば、そういう都市での商業機能というのは、これから非常に大事な点になってくると思うんです。

宮田さんはお生まれは昭和三〇年代ぐらい？
 宮田 三五年です。

望月 まだずいぶんお若いんですね。
 その時代の商店街、いまは東京にお住まいになっっているんでしょうけれども、ときどき帰っ

たりするときの差というのはありますか。

宮田 最近、ちよつとがんばってきているなというのが見えますね。商店街が明るくきれいになりました。私、三年ぐらい前に、青年会議所に呼ばれて、講演に戻ったときがあったんですけども、そのときに青年会議所の人達というお話したんですが、非常に前向きなんですよ。取り入れてやろう、がんばってやろうという気持ちはずごく持っているんだけれども、どうしたらそれを具体化につなげていけるかというのを彼らも非常に悩んでいらっしやる。市は市で、観光が衰退してきているというので、何とかしなきゃいけないというので、また一生懸命、新しいキーワードをつくったり、代理店を入れたりしてやっている。その辺、もつと組み合ってやったら効率的に展開できるんじゃないかと思うんですけどもね。

望月 青年会議所というのは、いまだんなことをやろうとしているんですね。

宮田 最近はどうでしょうね。イベントはわりと打っているようですね。風船をギネスもの数だけ飛ばしたりとか、ケーブルテレビなんかに取り組んでいるようです。ちよつと違うんじゃないかなという気がしますよね。長い目の基礎づくりというか、あまり人間の動きのないところだから、やっぱり五年、一〇年たつて、味が出ていくような、まず地元の間が「これはいいな」と思うようなスペースをつくっていい

かないと、観光客にしろ何にしろ、決してインパクトはないだろうなと思いますしね。

ただ、そうは言っても、私も外に出ているから言えるのであって、一緒になって考えていると、自分も閉塞状況になつちやうんですけどね。

商業そのものが

観光資源となるような

望月 いま宮田さんがおっしゃっていた観光政策は、観光という部分だけでやっているという傾向が非常に強いですよね。本当は、やってくるお客さんというのは、歴史的な資産も見たいし、明治を起こした人々の人物像、その周辺のいろいろな歴史的な資産を見たいという意向もあるけれども、それだけじゃなくて、都市の持っている雰囲気だとか、味だとかを味わいたいたいというのがあると思うんですね。そのときに、その地域における商業の役割というのは非常に大事でして、僕は以前から、「観光商業」じゃなくて、「商業観光」と言っているわけです。要するに商業そのものがこれからは観光の対象にならなければいけないと思っっているんですね。

だから、日本で言うと、たとえば盛岡だとか、弘前、それから下つて彦根、こういうところが歴史資産と地域の商業資源をジョイントして、

歴史的な流れと現代的なアミューズメント（娯楽）を導入して総合的にまち起こしをしていることを考えているので、方向としては、そういうことが一つあると思うんですね。だから、商業自体が地域の中でかなり重要な観光の資源になつていかなければいけないという傾向もあるんじゃないでしょうか。

たとえば盛岡では、古いまち並みを再生したり、会津若松では、つくり酒屋がそのまま、観光客にいろいろなお酒を飲ませてくれたり、非常におもしろいサービスをやっているわけです。だから、商業の資産がそのまま観光資源になっている。しかもそれが、いま問題なのは商店街があつて、その商店街がみんなさびれちやうと言っているんだけれども、会津若松の場合はそうではなくて、おもしろい店がネットワークを組んで、一つの通りじゃなくて、地域に分散しながら、しかしそれを回っていくと地域の歴史的資産やおもしろさがわかるというような雰囲気です。

宮田 それはわりと狭いエリアに置いて、たとえば倉敷のように、歩いて全部回れるぐらいのエリアなわけですか。

望月 そうですね。まあ、ちよつと離れたところもありますけれども、歩けない範囲じゃない。地域の商業を考えていく上では、一つはそういう新しい産業の形態に商業が転換していく。特に、他の産業の領域とジョイントして展開し

ていくというやり方があるんじゃないでしょうかね。

宮田 いまおっしゃった地域というのは、もともと商業の比較的盛んだったところですよ。

望月 かつては城下町だけれども——城下町というのは流通の拠点でしたから、地域における権力の集中しているところであると同時に、商流通の拠点でしたからね。だから必ず、呉服町だとか、紺屋町だとか、そういうのがありますよね。

萩なんかもそういうふうに分かれていましたか。

宮田 分かれていました。やっぱり道がきれいに碁盤の目になっていて、米屋町とか細工町とかがありましたね。萩城は、外様大名である毛利の殿様が一番不便なところに押し込められたという、そういう経緯のところですから、城下町といっても、商業の拠点とまではどうもいかなかったんじゃないかと。まあ、お膝元ということである程度の栄はあったと思うんですけども。

新しいまちのかたち

商業空間に求められるもの

望月 暮らし向きとか、暮らしぶりと言えば、さのう、加賀まりこさんに話を聞いたら、彼女は神田に住んでいて、神楽坂に行つて、麴町に



宮田 みどり *Midori Miyata*

山口県萩市生まれ
科学プロダクション(株)コスモビア代表取締役
科学技術庁技術予測検討会委員、
日本商工会議所収入事業委員会委員などを歴任。
講演、シンポジウム、執筆等も多数。

行つて、また神楽坂と、要するに都心三区だけなんです。だから、非常にそこを離れたくないという感じをずうっと持っているんですね。だけど、いまはどんどん近代化しちゃっているから、古い商業空間はなくなってきたわけなんです。東京のような大都会に住むのと、萩での暮らしぶりというか、比較して、どっちが暮らしやすさがあったと思いますか。

宮田 そうですね……。やっぱりいまは仕事も家庭も持っていますから、東京を離れられないというのがありますね。ただ、ときどき帰ると、非常に心が洗われるというか、いまの私のベースである自分自身をつくってくれたのは、おそらく萩だという意識はすごく持っているんです。

異常なほど、それは最近感じるんですけども、自分の表面を覆っているのは、もう完全に東京だなという感じがしています。

望月 僕の出身は静岡県の清水市で、これは港町ですけども、やっぱり真ん中に小さな商店街があつて、地方都市にしてはかなり大きな本屋もあつて、高校時代なんか、学校の帰りに必ずそこに寄つたりね。それから、その本屋の近くに、いまでも名前を覚えてるんだけど、「カップ」という小さなコーヒーショップがあつた。そのママが、かつては演劇を志して上京したけれども、夢が達成せずして戻つてきて、喫茶店のママになっているという感じなわけね。やっぱりそういうシチュエーション(情況設定)

というのが、地方の高校生にとつては、何というか、非常にいいんだよね。

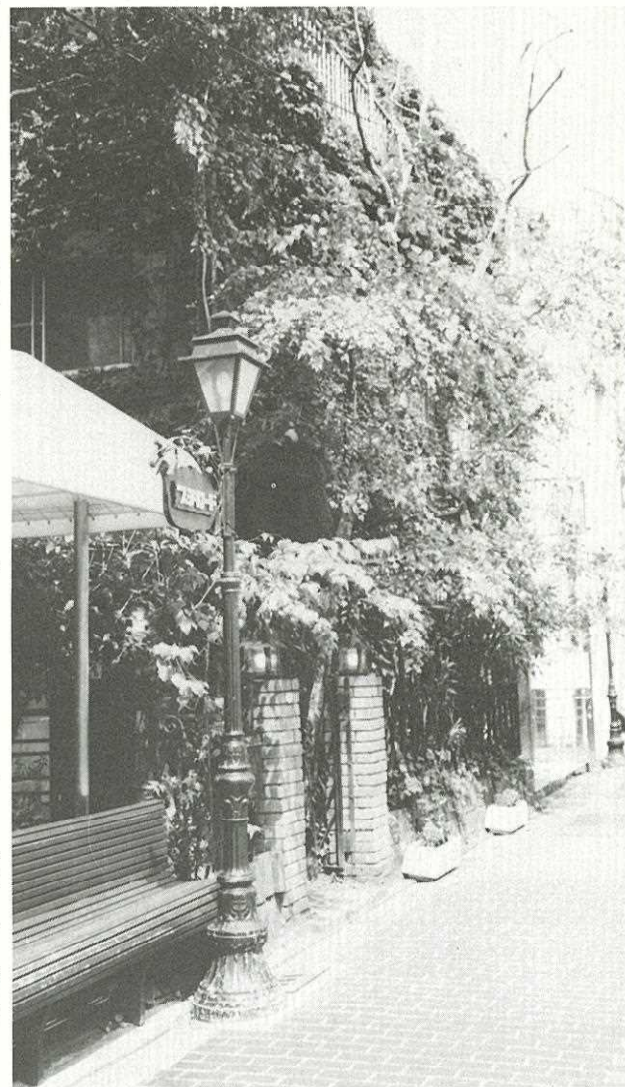
僕はいま上原に住んでいるんだけど、そういう感じっていうのはないんだな。やっぱり都会の中の一つの商業空間——商店街もありますけどね。何かそういう、じわじわとくるような人間くささというのがなくてですね。

作家の村松友視さんが、僕のすぐ近くで生まれ育ったんですね。同じ神社で遊んだりした経験があるわけだけれども、彼は清水のことを物語の中に非常によく書くんですね。いまでも年何回か行っているのかな。だから、いま新しく、都市の中で商業空間が変貌しなければいけないという産業としての構造はあるけれども、一方では、地域における生活を支えていた役割というのを忘れちゃならないと思うんだけど、その辺の実感はどうでしょうか。

地方都市の可能性

情報をいかにうまくつかむか

宮田 私はさつき萩での生活を思い出している。不満に思っていたのは、確かに情報が少なかつたことじゃないかなと思うんです。まず、高校時代に大学を受験するに当たって、私なんかは共通一次第一期なんですけれども、あの辺になってくると、受験、イコール情報戦みたいな感じになってきますでしょう。その中で、



自分達は非常に不利な状況に置かれているというのを痛感し、学校の先生もそれを毎日のように言うわけです。そういうことに対する欲求不満というのがまずありましたし、いまおっしゃった本屋というの、小さくて、ほしい本がすぐ見つからない。図書館も、やっぱり小さくて、非常に幅広い分野で常に新しい本が補充されているという印象があまりないというふうなあたり。その辺の知的な補充というのは、それほどお金をかけなくてできるのではないかなと。

たとえば自治体あたりがある程度予算を組めば、大きな体育館をつくるのか何だとかに比べると、わりと廉価でできるんじゃないかなと。そういう知性的な部分と商業をつなげていく、それを市民がバックアップしていくというのが、市民

のそういうものに対する欲求を常に満足できる状況に、商店主なり自治体なりがバックアップしていくというか、そういうことがあるともっといいなと思うんです。

望月 いまお話の中で、商業というのはやっぱり知的なインフラの一つだと思っただけで、食べ物だって、みんなものに情報がくっついてくるわけでしょう。だから、萩であろうと、清水であろうと、東京であろうと、情報の位相というのはほぼ同じですよ。昔だったら伝播のラグ（遅れ）があったから、ファッシュンであれば二年遅れとか、三年遅れとか言っただけでも、いまは全くそうじゃないですね。そういう情報の受発信機能を持っていない店舗とか、商店街

というのは、やっぱり落ちこぼれていく。だから、地方に行っても、そういうことに非常に敏感なところというのは盛んになりますよね。

たとえば熊本市にある「シヤワー通り」。これはいろいろな本にも出てきますけれども、上通り、下通りというか、あれは日本のアーケードでいえば一番広いんじゃないかな。一番広いところで、三〇メートルか四〇メートルぐらいの道路があるんです。そこにメインの商店街があるんだけどね。だけど、そこは黙っていて人が来るから、最近では商店街の再活性化で一生懸命やっているけれども、若者が集まるのはそこじゃなくて、昔ながらの古いアーケードじゃなくて、ちょっと外れたところなんです。それはどんなところかという、東京なんかでいろいろ勉強をした若い連中が帰ってくる。そうすると、田舎の商店街に自分の店を持つと、自分で裸一貫でやろうというのは、そういう既存の、保証金や何かが高いところじゃなくて、そういうものが何もないようなしもた屋のところを借りて、自分でスタートする。それはまあ外れなわけ。だから、アーケードもないから、雨が降るとみんな濡れちゃうというので「シヤワー通り」にしたということがあるわけです。

そこで最初にイノベーターになったのが、有田君という一人の若い男の子なんだけど、いまは、普通は青山とか、あの辺のブティックだとか、ファッションメーカーで勉強して帰ってくる

んだけど、彼は蒲田の洋品屋で働いていたわけ。そこで勉強して帰って行って、きわめて新しいファッションの情報局になった。最初は、東京をつないで、彼と彼の店を通してファッション情報をどんどん出してたわけですけども、それじゃだんだん飽き足りなくなって、自分自身でメーカーになって、むしろ自分のファッションに合わせて情報そのものをつくってしまふ。そういうこともできるんですよ。

これから東京でスタートアップするベンチャービジネスは非常にむずかしいけれども、地方だと、むしろそういうソフトな産業というのはものすごくスタートアップしやすんじゃないでしょうか。どうですか。

宮田 その、蒲田で勉強なさったというのは、何かとつてもうなすけますね。ビジネスって、採算に乗るか乗らないかとか、利益をちゃんと上げられるかというのが、まずスタートです。ね。だけど、東京で勉強して持ち帰ると、やっぱりセンスをそのまま出しても、それは採算ベースに乗らない場合の方が多いと思うんですよ。いかに利益を生み、採算ベースに乗せ、さらにまた新しいものを生産していくかという、やっぱりその場その場なりの規模とか、時限とか、スピードがあるだろうなと思うから、青山などを横目に見ながら、蒲田で勉強なさったというのは、すごいなづけるなと思っただけです。望月 そういう意味で言うと、地方の都市とい

うのは商業そのものがどんどん衰退しているけれども、じゃ、新しい商業が生まれてくる可能性がないかという、むしろ大都会でスタートアップするより、いろいろなものが凋落傾向にあるからこそ新しいものがそこから出てくる、一種の、次の何かの苗床になっているという傾向が強くないでしょうか。

産業を導くマンパワーが

まちの将来を左右する

宮田 会社をやっているつくづく感じるのは、そういうときの若い世代と言いますか、創業期の人間の出すパワーというのは大きいと思うんです。そういうパワーをいかに地元に反映させるか。どうしてもそういうパワーが腐っていつちやう方が、地方都市だと多いような気がするんですけども、そういうのを引き出してあげるプロデューサー的な役割の人が、その都市その都市に必ず一人ぐらいいないといけないんじゃないでしょうか。

望月 これは商業のようないわゆる流通産業だけじゃなくて、ハイテク産業とか、コンピュータに絡んだソフト型の産業、みんなそうですね。

北海道の恵庭というところで、むしろKSP（カナガワ・サイエンス・パーク）なんかよりも先に、ビジネス・インキューションセンター

を日本で一番早くスタートしたんですよね。KSPの場合は、川崎の溝ノ口ですけれども、周辺に研究施設があるでしょう。だから、いろいろな刺激を受けますよね。ところが、恵庭のリーチ・ビジネスパークだったかな、これは非常に早くスタートして、周りにそういうものがないんです。なぜそういうものができたかというと、恵庭開発公社という、まちそのものをつくった公社があって、その社長の本村義弘さんが、最初に住宅ゾーンをつくったんだけれども、住宅そのものをレベルアップするためには、中央にいい商業と、いい研究開発機能がなければだめだというのが、七、八年ぐらい前からアメリカに行って——実は私も一緒に行ったんだけれども、注目をして、その誘致とか、それ自体をつくる仕掛けをしていたんです。

だから、いまおっしゃったように、必ずそういうものを先に読んで、仕掛けている人がいるんですね。やっぱりそういう人が先駆的に存在しているまちというのは、いろいろな産業が出てくるポイントになりますよね。

そんな例で、宮田さん何か紹介したいようなものがありますか。

宮田 私は反対の例で、大手代理的にその種のコムセプトづくりを任せて、その土地に愛情も思い入れもない人達につくってもらったこともとにして地元の人々が一生懸命やっているのを見ると、ちよつと違うんじゃないかな、いい

のかなという気がするんです。コムセプトをつくったり、実行するに当たっているいろいろなテクニクは確かに必要だと思うんです。ただ、テクニク、方法論を持ち込んであげるのはいいいんだけれども、コムセプトとか何だとかというものは、地元の人間達が、自分達の問題として本当に考えてつくり上げていくべきじゃないかと。それで、多分、広告代理店に支払われる謝礼の部分で、結構いいものができちゃうんじゃないかなと思ったりすると……。(笑)

望月 それはさっきおっしゃっていたイベントの問題とも非常にかかわってきますよね。一〇年も二〇年も前だったら、あまりお祭りもなかったし、見るものがなかったから、イベントを打てば、みんなおもしろ半分て来たわけだけどもうこんなふうに博覧会やイベントになっちゃうと、それが日常化しちゃうんだよね。だから、いかに同じようなものをたくさんやつてもだめだし、まちおこしでもそうだけれども、やっぱりそういうものを動かしていく実体をしつかりつくっていくような視点を持つていかないと、こけおどかしていろいろなことをやつてもだめな社会状況がきたんじゃないでしょうかね。

宮田 何か目的がはっきりしていないところが多いですよ。そこから利益をもたらしたいのか、たくさんの人間を集めるところが目標なのかというのがどうも混同していて、お粗末なことをして人々にたたかれて。

ただ、私もそういうところの一端にかかわっていますから、自己批判も含めながら考えるんですけれども、東京から地方に向けてイベントとかセミナーを行うとすると、予算規模が少ないうえに確かに経費が非常にかかるんですね。だったら、地元から見ると逆に、必然的に高くなって、かつ価値が薄れてしまうのが目に見えるでしょう。やっぱり地元がもっと主体的にその辺をシビアに見ていかなければいけないんじゃないかなと。

たとえば神戸市とか、大きな都市はやり手だから、大手広告代理店などと丁丁発止でできますでしょう。だけど、一部の大クライアントたり得る都市を除くと、恐らくビジネスで対峙して、交渉してというようなことはあまりできないんじゃないかと思うんです。であれば、やっぱりはなからやらない方がいいんじゃないかなと。そういうむだな例とか、開発しかけてやめてしまった跡地みたいな、残骸のようなものをあちこちで見ると、やっぱり悲しいなと思いますから。

望月 まちおこしでも何でもそうだけど、火花をバーンと上げて、それを一つのきっかけにしようという。それも意識を高揚させるとか、やればできるんだという、あるインセンティブを与えるという意味では大事だけど、根も葉もないようなところにそういうことをやつてもむだなことが確かに多いですよ。だから、いまの

時代だからこそ、しっかりと足元を見つめるような地域政策を出さなければいけない時代が来て、われわれのような都市計画家も、いまそういう局面にあると思うんです。だから、「緑と太陽のまち」とかいろいろあるけれども、緑と太陽はどこにもあるわけだから、むしろその地域に根ざしてきたものとか、それに何らかの形で刺激を与えて成長するものを見極めてサポートしていくのが非常に大事ですね。

有形無形の資源を生かす

まずは地域に根ざした発想で

望月 僕がいまやっている例を一つ申し上げますと、山形の日本海側のところに遊佐というのがあるんですけどね。これは庄内平野のところ、かつては米どころですが、いまは米は全然だめでしょう。それから、農産物もいろいろあるわけだけでも、みんなだめなんです。それに海産物もあるけれども、これもあまりよくない。人口数千人のまちなんですけどね。やっぱりどうしたらいいのかという相談がありまして、数年前に、海岸にわりあい近いところに相当の湯量を含んだ温泉が出たんですよ。菅原町長さんはそれを見て、「これは非常にいい。こういうものは地域の資源だから、いまはクアハウスみたいなものが盛んだから、ぜひクアハウスみたいなものを作って、村おこしをやりたい」と

言ってきたんです。

僕はそれを見て、無論資源を生かすという発想は大事だけれども、中途半端にやっていたんじやだめですよ。もつと本質的にまちの考え方を生かすような発想をしなければいけないかなと。「じゃ、一体どうしたらいいんだ」というので、まず、お湯というのを考えながら、それがイメージとしてもつと広がるようなことをやったらどうだろうか。無論、お湯を使った施設そのものを本格的なクアハウスにするということも一つあるけれども、せっかくお湯が出たんだから、それをまちの一つのアイデンティティにしていくというやり方もあるだろう。どんなことだと言いましたら、向こうで、たとえばおばあちゃんと孫と一緒にお風呂に入るとき「あぼんに入ろう」と言うんです。それで「あぼんの湯」という名前にしたんです。僕はこの名前はとてもいいんじゃないかと。非常にぼわ

っとした感じでしょう。

そのとき僕はばつと思っただけです。このイメージを国際化する必要があると。非常に突飛な意見だけれども、何を言ったかというところ、イギリスにストラトフードというのがあって、アポンエーポンってあるでしょう。あそこと姉妹提携をしたらどうか。同じような「アポン」という考え方です。「そんなのは突拍子もないあれだから、根も葉もない……」、「いや、そうじゃないんだ。名前も呼び方も同じようなところがあるけれども、実は非常に大事な点がある」と。何が大事かと言ったら、いま「芭蕉生誕三〇〇年祭」でしょう。この遊佐にも来ているわけですよ。遊佐にも来て句を残しているわけですね。アポンエーポンは、ストラトフードは何かといったら、シェークスピアの生まれ故郷です。だから、「ふるさとづくりと文学」というので「芭蕉とシェークスピア」というシンボ



ジウムをやったらどうだと。「いや、それはすごいですねえ」と言っているわけですよ。

それに合わせて、そういうイメージをもっと集約するために、地場産品を全部集めさせたわけ。そうしたら、米が取れるし、いい水が取れるから、お酒がおいしいわけです。ところがブランド名を見たら、一番売れているブランドが「初孫」というわけ。おじいちゃんは「初孫」を喜ぶけれども、二〇歳ぐらいの人が「初孫」なんていう酒を買って喜ぶわけがないわけね。全然古くさいわけです。だから、せっかかないイメージが出てきたんだから、大分のように一村一品というのもあるけれども、村で出てきた産品全体に遊佐のブランドをつくらせようか。要するに「遊佐町ブランド」、共通のブランド。カキも取れるんですね。山の柿も取れるし。酒もいいし、鮭も上がってくるんです。それはかけ言葉じゃなくて、すごくいいものがたくさんあるわけよ。陶芸もあるわけ。じゃ、何にしたらいいのか。私はこれからこの「遊」というのが非常に大事になるから、いまのリゾートブームに乗らないで本格的なリゾートをやりなさいと。そのときの一つのテーマを何にしたかというと、「遊」という字を使って、芭蕉、シェークスピアのイメージを導入して、「吟遊詩人」というブランド名にしたらどうか。「初孫」という酒じゃなくて、「吟遊詩人」としたら全然違うわけですよ。

宮田 おいしそう。(笑)

望月 すごくいいでしょう。無論「初孫」って入れていいんですよ。だけど、トータルな、共通のブランドは、遊佐町で取れた「吟遊詩人」。これは「遊」というのが入っているし、しかも芭蕉、シェークスピア、みんなつながる。これがあるメーカーに話をして、大都会で遊佐町ブランドの商品を全部入れて「吟遊詩人」というパレストランをつくらせようだろうと、いま話を進めているんですが、乗りそうなんですよね。

「吟遊詩人」というのは「遊」ということが一つのコンセプトになっていくわけ、それで全部展開しているわけですけども、町長さんは一生懸命なんです。この前、僕が行って、町の人を集めたら、おばあちゃんが出てきて、そのおばあちゃんが「吟遊詩人」という米をつくりたいというのね。どうだろうか。「新しい品種改良が必要だけれども、そういうことは自分のところでやれるんだ。だけど『吟遊詩人』というのはどうか」と、僕は「最高だ。そのイメージでつくったらいいんじゃないか」と。要するにおばあちゃんがイノベーターになって新しいものをやろうという動きが出てきているわけ。

そういうものを一括して地域にデリバリーする機能を地元の商店街が持ちなさいと。ものを中央から仕入れて地域の人々に売るだけじゃな

くて、逆のやり方もあるわけですね。地元で取れるものを全国的にデリバリーするセンターになるということになれば、これは新しい。農業組合というのがあるけれども、商業組合ですよ。つまり使われるんじゃないかと、こっちが使って、むしろ中央に進出していく、こういうやり方なんです。一つのモデルとしてこういうみんなすごく燃えてやっているわけ。

宮田 やっぱり住民が楽しんで、満足できないとだめなんですよ。

望月 われわれはこれだけすごく豊かになっちゃったから、海外に行ったり何かしているんだけど、帰ってくると本当に貧しい生活しか残っていないんだよね。東京だって、地方都市だって同じですよ。これからはやはり、リゾート時代というけれども、外側にそういうものをつくるんじゃないかと、自分の生活そのものをエンjoyできるような、あるいはエンjoyできるようなグレードに高めていく時代が来ると思うんだ。そのときに、そういう地域でのまさにリゾート化、これは「ホームリゾート」とか「コミュニティリゾート」と言っているけれども地元で買い物したり、商店街の連中と話をしたりということ自体の楽しみを生み出すことが、商店主の非常に大事な点じゃないかな。そういう意味で非常に大きな可能性を持っているんじゃないでしょうか。

新たな商環境

まちをどう演出するか



サエグサ都市・建築設計事務所
代表取締役

三枝 公一

都市商業の指向変化

現代社会における都市は、人々のライフサイクルにおける多様化に伴い、生活者ニーズの変化が日々の行動において多角化し、また情報等の混乱、資質の違った都市機能が入り混ざり、短期サイクルの中で、都市は脈動と新陳代謝し、交互に重なり、急速な変化と展開が要求されてきている。

過去における都市商業や各種商業施設は、効率を最も高くし、顧客を最も多く集め、物をいかに沢山売るかという指向であり、量感を求め、経済的、機能的能率評価基準で測られ、その評価基準に達した商業施設や商業集積（商店街）が最も優秀であると評価されてきた。

また現代社会における都市商業は、人々の身近なライフサイクルの場としての位置に変化し、「生活者のコミュニティの場」、「生活におけるエンジョイの場」、「都市生活の中のレクリエーションの場」というように自己のニューライフ環境の延長線におき変えられ、「まち」は人々にとっての生活のオアシスとしての環境と機能が要求され、より人間的なアメニティの場としての都市機能、都市環境が求められてきている。

我々の生活環境の中に、より良い都市の環境、商業環境といったものが重なり、ライフスタイル



クロスモールのショッピング街。
自然光と各個店のコントラストが美しく、楽しさを加えている。

ルの中にとけ込み、ライフサイクルと一体となった中に自己主張（個性）・感性を求める姿勢が広がりつつある。

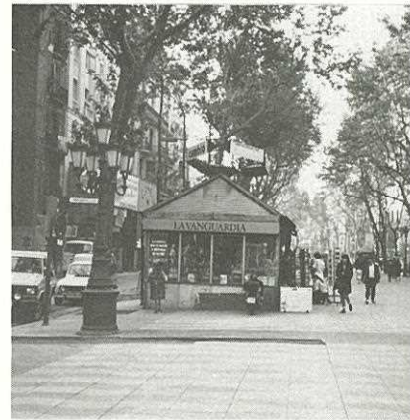
以上のように過去と現代の都市商業、商環境のあり方は、首都圏都市、地方都市を問わず時代の流動と共に、経済主導型指向から、生活・環境主導型指向へと変化してきており、これらの現象や状況が従来の商環境のあり方や、基本的理念を大幅に変え、従来の商環境の資質を変え、生活者ニーズに合った「まちづくり」が各地で展開されつつある。

また今後、これらの都市商業、商環境の指向変化は、都市の中の重要な位置づけを荷ない、都市機能及び都市環境づくりにおいて、重要な部分を構成するものと考察される。

新しい商環境の構成と役割

今、首都圏都市、地方都市を問わず、商業地の受持つ地域的役割が高まり、生活者ニーズに応えられるものとして、商環境の改善が各方面から要求されている。

過去においての都市環境、商環境のあり方はさまざまな形で、ソフト、ハード両面から数多くの提言や提案（都市再開発・まちづくり・商店街活性化等）が出されてきたが、それらの多くは、全国画一化されたワンパターンのものであり、その地域の持つ特性や個性的環境を無視した、単なるコンクリートの箱づくりであり、経済効率を高めるための手法に終始し、その地域環境全体と一体となった全体的視野からの考察に欠け、またトータル的な都市環境のマネージメントに欠落しているものが多く見られる。また各地の商店街の近代化や活性化は、一般論までは到達するが、各論となると、行政、民間の諸団体の勉強不足や発想の貧困が先向し理論の上の理論で終り、眼先の利益追求や、法的範囲のチェックの中をさまよう状況となり、何の目的で近代化や活性化を図るのかというポイントから離脱し、地域的な環境や地域特性等と遊離し、その地域、その都市の持つ地域性や地域文化と離別した所で考えられている事が多く見られる。



商業街区の中に自然を取り入れ、本格的なショッピングモールとして機能。
（スペイン・バルセロナのメインストリート）

このような狭い視野や画一化された範囲の中でとらえられ計画された「まちづくり」や商業地の近代化・活性化の諸計画は、計画などの理想と現実が大幅に遊離し、大きなギャップが発生し、何のための再開発なのか、何のための近代化や活性化であったのか、問題点を数多く残すことが多く見られる。

今後これらの状況から脱皮し、本来の求められている都市環境や商環境を達成させるためには、従来の手法や指向を変えた発想の転換を図って行く事が必要であり、行政や民間の思い切った姿勢が最終的には必要となる。

都市における商業地や商店街はその都市の都市環境や商環境における「環境適応業」の一つである。したがって市場における環境の変化、生活者のニーズに伴う変化にいかに対応した環境づくりを図り、計画して行くかが重要な要素となる。

現在、生活者の多様化、個性化が進み、消費に対する市場を的確につかむことが出来ない状

況が多く見られる中で考察する場合、生活者は自分の存在や価値観を表現する場が各人の生活の中にあり、また「まち」の中に個人の指向を求めてきていると判断される。したがって「まち」となる商業環境の場は「物」を消費するための利用の場から、その商業環境なり都市環境の中にある。情諸や空間となる「まちのシーン」に対して消費していく傾向が高まってきていると云える。

まちにおけるシーンとは、人々がその都市やまちを自由に歩き楽しむということによって、その都市の文化や歴史、また自然との出会い、そんな中からその都市や地域の持つ空気や、風の気配を知り、またその地域の人々の暮らしの気配を感じる事が出来る。まちを歩くということは、自己開放の道にもつながり、感動的なまち角や、まち並みのシーンとの出会いがあったり、強く心に焼付く地域の界限性や、たたずまいの発見によって、その息づかいや、息吹きが数多く感じられるものである。

これからのまちづくりは、先の理論上の理論でのまちづくり計画ではなく、その都市、地域の持つ特性や個性を生かした感性・情緒をまちづくりのコンセプトとして持ち、具体的な計画の中に表現する事が必要であると思う。

私が数多くの「まちづくり」計画の体験より得た中から整理すると、次のような「まちづくりキーワード」が考えられる。

まちづくりコンセプトと都市における商業街区のキーワード

<p>①まち並み</p> <p>「人と人」「人と物」「人とたたずまい」のハーモニー空間</p>	<p>●まち並み</p> <p>まち並みとは、「人と人・人と物・人とたたずまいのハーモニー空間」である。都市におけるまち並みとは、単なる箱ビルや、メタリックな店舗、ガラガラと光るネオンなどの建ち並ぶ道ではない。</p> <p>その都市の持つ特性や、まちの個性、感性などを十分に取り入れられた都市環境や、まちの風情が都市空間を構成し、その地域の環境と人々の生活が調和したまちの姿がその都市のまち並みとして映し出されるものである。</p> <p>したがって、都市の中心となる商業街区こそ、その都市を象徴するまちのミュージアムである。</p>
<p>②まちのコンコース</p> <p>まちの発見回遊路</p>	<p>●まちのコンコース</p> <p>まちのコンコースとは、「まちの発見回遊路」である。</p> <p>各都市にはそのまちを象徴するメインストリートや、裏通り、路地裏などがたくみに構成され、そのまちの構成がこれらの道路によって適正な範囲の広がりとして図られ、都市機能と街区分離を図り、地域の界限性を形成している。</p> <p>このような街路を「まちの探険路」としてフラフラと回遊することによって、その都市の風情やまちに住む人々の臭いや、生きざま、人情などが身近に感じられ、そのまちの個性や感性が多様な魅力となって発見することが出来る。街区における道路は、そのまちの物語を数多くエキサイティングに教えてくれるものである。</p>
<p>③まちの広場</p> <p>まちにおけるパフォーマンスの場やまちの「日だまり空間」</p>	<p>●まちの広場</p> <p>まちの広場とは、「まちにおけるパフォーマンスの場や、まちの日だまり空間」である。</p> <p>まちの広場は最近、巨大なコンクリートとガラスの箱に囲まれて、まち中のスペースが減少しどこの都市へ行ってもコンクリートジャングル化され、まちのスペースが都市効率・都市経済という美名によって疎外されてきている。</p> <p>本来、まちの主演は我々人間である。まちの広場は常にヒューマンスケールを持ち、シテライフを優雅に楽しく過ごすことが出来、人々に開放された「都市のリビング空間」であり、また「まちのオアシス空間」、「お祭り空間」であるはずである。まちの広場は都市の中に自然の陽光や、風の通りぬけが感じられ、「肌のぬくもりを求める日だまり空間」であらねばならない。</p>
<p>④まち角の空間</p> <p>まちのランデブーポイントであり、まちの回遊の道しるべ</p>	<p>●まち角の空間</p> <p>まち角の空間とは、「まちのランデブーポイント（待ち合せの場）であり、まち回遊の道しるべ」である。</p> <p>本来まち角とは数多くの人間模様が見られるシーンの場所である。人と人の出会い、人と人の別れなど、胸のトキメキを感じさせるドラマがあり、ロマンがつくり出されるまちのスポット空間である。</p> <p>これらのまち角における人間模様の prestage は、見過せばただのまち角の空間となる。まち角とは都市空間の結節点であり、都市回遊における重要な拠点としてとらえることが出来る。まち角の空間の魅力はその都市の時間、空間、ロマンを創造するクロスロード(十字路)としての位置づけを持たねばならない。</p>
<p>⑤まちの演出</p> <p>個性・知性・感性の共演空間</p>	<p>●まちの演出</p> <p>まちの演出とは、「個性・知性・感性の共演空間」である。</p> <p>まちの演出を図る手法は、ビニールの造花の花びらや、街区のまち並みを構成する店舗の看板サインやワンパターン化された大売出しなどのイベントではない。</p> <p>“まちを演出。するということは多様化されたシテライフの生活情報の発信・提案などを楽しく提供するための仕掛けや演出をどのようにするかテーマであり、人と人・人と物との共演を生活者に対して魅力あるものとして表現することにある。</p> <p>まちは人々にとってカーニバル気分がただよう都市のコミュニシアター（ふれあいの場）として機能しなければならない。個性の違った人々が主演となり、楽しいひとときを演じ合う都市空間、多様な個性と知性そして感性が共演する環境空間としてまちを構成することである。</p>

「テーマを明確にした オリジナリティのあるまちづくりを

首都圏都市、地方都市を問わず都市の活性化策として、また二十一世紀を目指した都市整備が各地で計画され促進されているが、これらの計画に伴い都市間競争が発生し、特に地方都市においては、モータリゼーションの発達に伴い、都市中心商業街区における経済の保持政策として激烈な綱引きが発生し、都市産業の安定を図る一つの手法として、その都市の中心となる中心商業街区の再開発や活性化対策が求められている。しかし各対策を立案する事は良いが、その中には活性化を行うための「問題点は何なのか」が不明確であったり、また「どうしたいのか」という希望や目標が不明確である事が多く、このような中で思考錯誤が行われている例が多く見られる。ゆえに必要以上の時間のみが経過し「どうすべきである」という結論に到達出来ない例が行政側にも民間側にも存在し、計画立案のみで終る実例が多い。



まち角のシーン。
花屋さんがまち並みや、まちの広場に暖かいアメニティを提供している。

本来、まちづくりや商業街区の近代化・活性化対策の促進には先の「問題点は何なのか」を第一に整理し、「どうありたいのか」を各層の人々から希望を求め、まとめとして「どうあるべきである」という結論を持つ事が必要である。その中で、その都市、地域を持つ特性や文化、歴史や自然条件を加味し、地域性や特色、個性



商店街の中の小さな店舗であっても、まち並みを演出する。
まち並みとショーウィンドを豊かに演出する花の群衆。

をどのようにアレンジして活性化するかを提言する事が必要である。

また商業街区の近代化・活性化は、単なる街区の環境整備や都市整備としてハード面のみで推進する事ではなく、その都市の都市経済をどのように発展させていくかという都市経済基盤となる商業政策も同時に考察して行く事が大切である。ゆえに「まちづくり」や商業街区の近代化・活性化の推進には、商業経営、都市経済の方針を明確にした上で計画促進を行うという事が基本となる。

したがって、環境の整備等のハード面と都市経済、商業経営等のソフト面が車の両輪のごとく始動し、それがうまくかみ合うように指導し提言していく事が重要である。

地方都市における商業街区の近代化・活性化は、ややもすると東京に顔を向け「リトル東京づくり」が先向する場合が多い。また各地区の参考事例を見て、表面的なコピーで終わる場合も多い。これらの指向を持つての開発では全国画一化された「まち」ばかりとなってしまう危険性が高い。

結論として先のまちづくりのコンセプトやキーワードを明確に持って当る事こそオリジナリティのあるまちづくりが可能となる。また「まちづくり」に当る総ての人々が、その都市や地域に対し、誰よりも強い郷土愛を持って参加し、推進する事が成功を図る秘訣である。

ドラマチックな街づくりに学ぶ

～魅力的な商業空間づくりへの挑戦～



流通産業研究所
研究事業部長

福田 順子

今、多くの商業者が悩んでいることの一つは、いかにしたら売上げが上がるか、つまり、いかにしたらモノが売れるかということであろう。ところが困ったことに、買い手の側ではすでにモノは持ちすぎる程に持ってしまったているから、モノに対する消費意欲を失っているのである。

『もし、今五千円持っていたら私は迷わず美容院に行くわ。シャンプーしてブローして気持ちよくなるほうがモノを買うよりよほど価値があるもの。』といった物的充足よりも、気持ちよさを選擇する消費者、『こんなにたくさん店があるけど、どれが自分の入る店かちよつと見ただけで分かるわね。』店に入る前にすでに店舗選擇が行われているという実態。

こうした鋭い感性を持った現代の消費者を相手にしなければならなくなると、単にモノを売るといった考え方の商業者はいかに時代に背を向けているかを実感せざるをえない。モノを売る前に気持ちの良さや楽しさを売ることが、いい品揃えを考える前にいいサービスの提供を、そして人に集まってもらうためにいい商業空間を作り出すことを心がけなければならぬ時代になったのである。

ところで、街づくりと店づくりとは共通する部分が多い。第一に、ハードとソフトの両方が揃って初めて人を集めることができるということである。いかに立派な施設を作ったところで、それを生かすようなソフトやサービスがなければ



アメリカ、サンディエゴ、ホートンプラザ

ば人は集まって来ない。東京デイズニールランドを訪れる人が引きも切らないのは、ハードとソフトの両方の魅力が相乗効果を生んでいるということを示している。

第二に、メンテナンスを必要とするということである。たとえどんなに立派な施設を作ったとしても、何も手を加えずほっておけば老朽化するだけである。それをくい止めるためには何らかの工夫が必要になる。

第三に、テーマ性が必要になる。湯布院、小布施、原宿、元町、神戸北野町、つかしん、ホートン・プラザ、マイカル本牧、すぐにこれらの街や商業空間についてはそのテーマを思いつく。

第四に、街も店舗も魅力的な「劇場」空間で

なければならぬということである。いいドラマが上演される劇場には、自然といい客が集まってくる。ドラマチックな街づくり、店づくりは永遠のテーマといえよう。ことに店舗や商業施設を単なるモノ売りの場とするのでなく、素晴らしいドラマの舞台に作り上げるような能力が、これからの商業者には求められているのである。

そこで、ドラマチックな街づくりに挑戦し、話題を作り人を集めているようないくつかのケースを紹介しながら、ドラマ性の商業への応用について考えてみたい。

山の中におとぎの国を作った アルパイン・ビレッジ「ヘレン」

ジョージア州アトランタから車で二時間、突如、山の中にヨーロッパのアルプスの麓の村のような光景、もしくはおとぎ話かおもちゃ箱をひっくりかえしたような村が目の前に広がる。それがアルパイン・ビレッジ「ヘレン」である。村の面積は三万坪、人口わずかに三六五人のこの小さな村が、今ではアメリカ中から観光客を集めるほどのリゾート地になった。この不思議な村は、すべて村人達自身の手になる村おこしによって変身したリゾート地である。

もともとは農業や縫製などで細々と生計をたっていた村であったが、資源がない上に立地も悪いために訪れる観光客もなく、さびれる一方

であった。村民は村を救うための方策について毎日話し合いを持った。そして、国や州をあてにするのでなく、自分達の手で村起こしをしようとして決めたのが二十年前のことである。

まず、アーチストのコーリック氏を呼んできて彼が住みたい村のスケッチを描いてもらった。彼が描いたイメージは、何とドイツのパバリア地方のイメージであった。村人たちもコーリック氏の描くイメージに合わせた村を作り出すことに力を合わせた。どこからも資金援助を受けず独力で村おこしであった。それが結果としてヘレンらしい風土や文化を作り上げていったのであった。

この村では一つのコンセプトが忠実に守られている。即ち、建物はもちろん、道路もベンチも、村人たちの着けているコスチュームもすべてがドイツかオーストリアの雰囲気ですべて統一されている。例えば、「アルペンホフ・モーター」「ハイジ・モーター」「アルパイン・クレスト」といったホテルやロッジ、「アルト・ハイデルベルグ」「シェフ・ハンス・レストラン」「レストラン・エーデルワイス」といったレストランの名前でもそれが十分に伝わる。加えて、ファジー（名物のキャンデー）のファクトリーショップや、一日二千人が列をなして順番待ちをする一年中クリスマス用品を売っている店など、ヘレンにしかない貴重な商業・サービス施設があることも魅力の一つになっている。狭い村の中

にこうしたヨーロッパアン・タイプやユニークな商業施設が一六一も用意されているのである。そうしたハードの施設で驚かせた上に雰囲気をもさらに盛り上げるのが、毎日のように行われているカーニバルやダンスパーティー、レースやショー、といったイベントである。コスチュームを着けて迎える村人、店で働く店員、カーニバルの参加者、この村で過ごす人の誰もがいつでもおとぎの国の雰囲気を味わえるように村全体が構成されている。村の真ん中をながれるチャタホク川と動物が出没するくらいの自然に恵まれた山の中に、おもちゃ箱をひっくりかえしたような賑やかで楽しい村ができあがった。

この村は手づくりながらしっかりとシナリオによって生まれた村である。そしてそのシナリオをよりいきいきとしたものに仕上げたのは村人の熱意とセンスであろう。いかにいい筋書きのドラマでも、演じ方が下手なら見る人を感じさせることはできない。恵まれた自然を舞台にしておとぎ話を展開し、そのおとぎ話を生かすために村人は自らセットを作り、登場人物を演じ、一方で広告・宣伝や切符を切る劇団員の役割を立派に果たしたのである。小規模でしかも手づくりの村であるが、そこに行けば暖かい人がいて楽しいおとぎ話の世界が体験できるのである。どこにもない町、現代版のおとぎの国を作り出したのが「ヘレン」である。

高次元農業と「NPC運動」による生まれ変わった「大山町」

日本にもヘレンに負けない素晴らしい町づくりの事例がある。いささか旧聞に属するが、日本の一村一品運動の発祥の地大分県の「大山町」は、何もない町に人材と財産と名産と名声を作り出したことで有名である。

大分県日田郡の中央に位置する大山町は、人口四七〇〇人の小さな農業の町である。昭和二十九年当時は、村民（当時はまだ村）の暮らしは貧しく「カネもない、暇も無い、希望も意欲もない、あるのは他人に対する強いそねみ（しつと心）だけ」であったという。この村を日本でも有数の高次元農業の町に作り上げたのは、一人の熱意ある人物であった。

昭和三十年、村長に選出された矢幡治美氏がまず取り組んだのは所得倍増であった。すべての産品別に小組合を作り生産指導と販売強化と



大山町農協

を図った。そして狭い耕地を有効活用するには高次元農業に発展させる必要があるということを書いて回った。これが村起こしにつながった「NPC運動」の第一弾であった。

昭和三十五年から始まった第一次NPC運動は、New Plum Chestnut 運動と名づけられ、省力化、軽労働、快適労働を条件に、一日八時間、年間一八〇日という労働基準を原則として、文化的生活を営むに足る「所得の確保」が主眼であった。農業、林業、漁業、商工、の振興と観光開発の五本の柱を中心に運動は進められた。

最初の三年間は農業中心の傾斜生産方式がとられ、それをバックアップするために村からは資金援助が、そして「梅栗植えてハワイへ行こう」のキャッチフレーズによって夢を与えるという物心両面の促進策がとられた。このキャッチフレーズはマスコミに大きく取り上げられ大山町ブランドの梅・栗のイメージアップにつながっていった。もちろん、多くの村民が昭和三十年代後半に実際にハワイ行きが実現したのである。

第一次NPC運動が三年目に危機を迎えた時、運動促進の担い手となったのは若者達であった。とくに「アグリ・パートナー」と呼ばれる八名の若者が活躍し、彼らは大山青年農業研究会を発足させ、ここで育った農業後継者たちが、以降のNPC運動の原動力となった。

昭和四十年から始まった第二次NPC運動は、

Neo Personality Combination、即ち、豊かな教育や知識と暖かい心を持った人格者の養成という「人づくり」が主眼であった。そのために実施されたのは人づくりのための年間十五の行事と不定期に開催される三つの活動であった。これによってオピニオン・リーダーとなる人材の養成が行われたと同時に施設の整備も選んだ。

昭和四十四年からの第三次NPC運動は、Neo Paradise Community、即ち健康で明るい豊かな生活を営むことのできる「環境を整備」であった。誰もが住みたくなる農村らしい町、町らしい農村を作ることが目的であった。そのため、環境整備とくに文化の集積に努めたのであった。そして、昭和五十年を目標に、自然的・社会的条件を整備して、文化集積団地の整備を行うというものであった。

こうして、所得、人材、環境をより次元の高いものにするという最初の目的は十年余で達成されたのだが、それ以降も、この運動を繰り返して繰り返し実行して、よりよい町にしようという考えかたは受け継がれている。

運動としての大山町の村（町）起こしをバックアップしたのが、高次元農業の考えかたであった。農業を第一次産業に止める事なく、加工から流通まで一貫して行う高次元農業にまで高めようという考え方に立ち、そのため、農協は直営の加工工場を持ち、農協内には農民的加工（一・五次産業）担当と農民的外商（二・五次

産業、大手メーカーや県外流通企業との交渉）担当が作られ、町の内外をネットワークすることで、農業の高次元化に大いに貢献した。

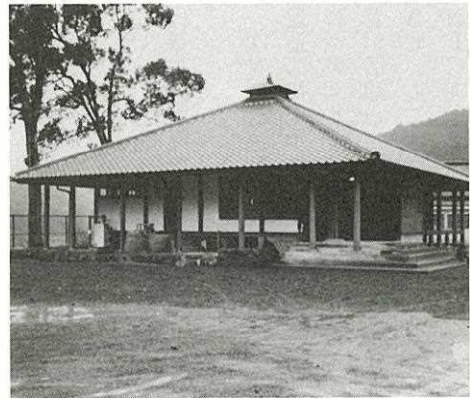
この小さな町を訪れた人は、山に囲まれた農業町でありながら町全体も町民自身も都会的なマナーとセンスを持っていることに驚かされる。それは異国を経験したことに拠るところ大であるといえよう。なにしろ、全人口の7割がパスポートを所有しているのである。

大山町の場合、熱意ある優れた指導者の存在があったことが大きい。彼の素晴らしさは、優れた先見性、ものごとを相対化してみる目、労働環境の整備と動機づけ、リーダーシップの発揮などの経営能力、キャッチフレーズやアイデアを作り出す創造性、といった街づくりのリーダーに必要なあらゆる能力を兼ね備えていたことと、彼の意をここまで実現させた村民の向上心にあるといえる。

美しいものには無限の価値があることを理解させた春野町「植田公民館」

静岡県春野町は二十年前に三つの村と町が合併してできた町である。その最北にある気多村のその最北に位置する豊岡に七十戸の集落から成る植田（うえった）という地域がある。今年三月に完成した「植田（うえった）公民館」はいろいろな点でユニークである。

豊岡も全国の小さな町や村が抱える問題と同



うえった公民館・全景

じ問題を抱えていた。つまり、町から若者がいなくなり、小学校が昭和五十一年をもって統合されたのである。その跡地の有効利用を考えていたのだがなかなかいいアイデアがなかった。そこで町会議員の天野眞宏氏は、町の名産である材木を使った美しい建物を作ってこれを町起こしの起爆剤にしたいとかねがね考えていた。前々から知り合いだった木造建築の専門家の辻垣正彦氏に依頼しようと考えたのだが、まず、設計に金をかけることを住民に理解してもらうことは大変なことだった。しかし、辻垣氏と住民とが接触する機会を多く作り、本人と彼の作品を住民に紹介しながら、いいデザインのいい公民館を建てようということ呼び掛けて、コンセンサスを得るのに半年ほどかかった。辻垣

氏の人間性やデザインの優秀さを町民が理解したことで氏に一任することが決まった。

辻垣氏の考え方は、この地域は素晴らしい天然のきや樺や杉やしおじという銘木の産地でありながら、それを見ようとすると東京の林野庁まで行かなければならないというのはおかしい、住民がわが町で採れた木でこんなに素晴らしい公民館ができたということを誇りに思うような建築物にしたいというものであった。そこで天野氏と辻垣氏とで営林署を説得し、地元のために格安にて材料を手に入れることになった。それでも、設計に高い金額を払うことに対する抵抗は予想できたから、紙で完成予定の建築物の模型を作り、これを持って関係各所や住民を説得して回った。そうすると、設計図ではわからないような美しさが立体的な模型ではよく理解でき、次第にいい設計に対する理解が深まっていた。二百年以上の樹齢のつがという材木を構造材として用い、他には百年の杉やしおじなどの、この地で採れる美しい広葉樹を素材として使いながら、昔のように子供が床下にもぐって遊べるような床、回り廊下の美しさ、夜は張りから明かりがもれて灯台のような感じ、といった昔ながらの暖かいイメージを、住民と建築家とが酒を酌み交わす中で作り上げ、それがデザインに生かされることになった。

資金は、住民が六百万円を用意すれば、県と町が六百万円の補助金を出資して、合計千二百

万円でこれを有効活用するという制度があったので、それを利用することにした。

計画が具体化すると、それまでは住民が毎月五百円の積み立てをしていたのが、千円、二千円、三千円、と増やしていった。三年かかって三百万円が積み立てられた。そうなる目標準額は目の前なので住民の意識も高まっていった。彼らは資金面での協力を惜しまなかったばかりでなく、毎日三時間、全住民が仕事の終わった後に石積みのための夜間作業を十日間行つて協力し、住民全員参加の公民館が完成した。夜間の作業はもちろん楽な作業ではなかったが、月明かりの中での石積みはロマンチックでもあり、新しいものを生み出すという熱意もあふれていたから、生産的であった。何より、自分達も参加して作った公民館という意識が醸成されたこととの意義は大きかった。

さらにこの公民館に特徴を出すために、スペインから帰国中の画家、堀越ちあき氏に依頼して、ふすまに絵を画いてもらった。画風は抽象画であるから、常識的には昔ながらの木造建築に合わないと考えがちだが、これが見事にマッチした。玄関を入ったところに一枚とふすま絵が十三枚、これがこの公民館をデザインのエニークさとともに特徴づけている。

完成した「植田（うえった）公民館」は、木造で建坪五十坪弱の小さな公民館である。しかし回り廊下があったり、中に十五畳の台所があ

り、仕切りのふすまをはずすと三十畳の広さになる集会室があること、高床式になっていること、などが特徴であろう。

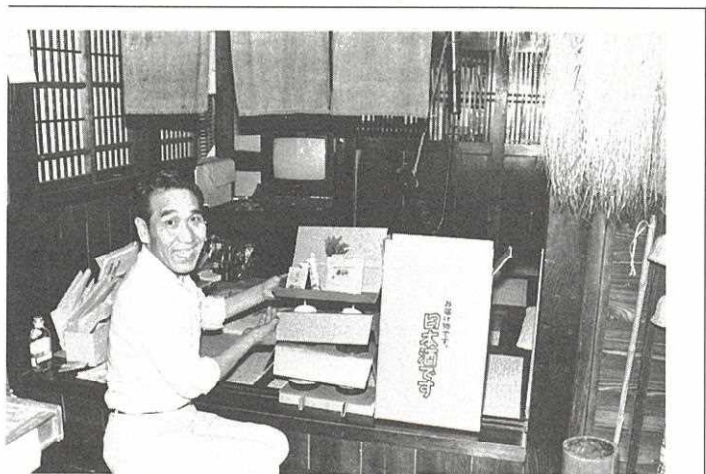
この植田公民館の完成によって得られたものは大きかった。住民の意識がまとまったことももちろんだが、彼らが異質の文化に触れることができたし、無味乾燥な公民館でなく美しいデザインの公民館で集会を開くことの喜びを知ったし、これがきっかけになって、都会の人々との交流も生まれた。こうした自発的な町づくり、村づくりでないと、本物にはなりにくいということであろうか。

今後は、都会との交流をさらに深め、地元の人にとっては当然のことでも都会の人にとっては非常にぜいたくな暮らしを提供し、また、逆に都会のぜいたくなものを地元を持って来てもらう、といった交流の輪を広げるような仕掛けを作っていくことの試みを天野氏は持っている。

立地の悪さを逆に利用し、酒にこだわつた 超専門店「春日や」

最後の事例は、街づくりではない。では本当にドラマチックな店づくりに挑戦した店主の話である。

千葉県我孫子市に「春日や」という酒屋がある。年商三億円のずば抜けた繁盛店の酒屋である。しかしこの店がここまでになるのには店主の血のにじむような努力があった。



酒を送る際の段ボールにも「春日や」の店主、中村国夫氏の工夫がこらされている。

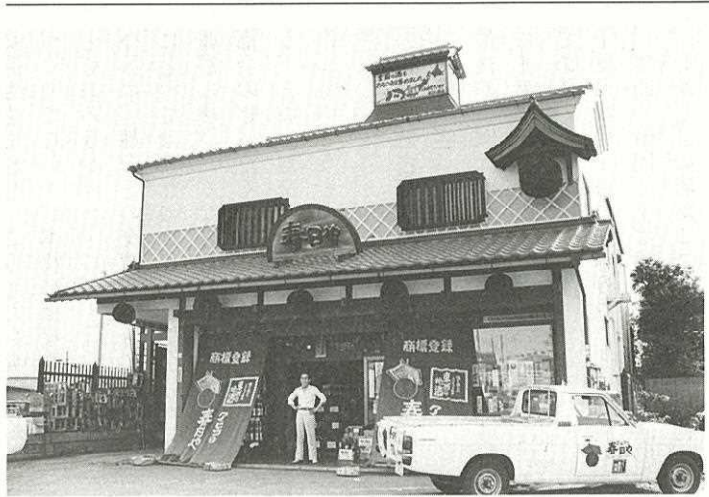
春日やは中村国夫氏が昭和三十八年十月に千葉県我孫子市で創業した。ここは国鉄我孫子駅から北へ十分ほど歩いた国道六号線に面し、立地としては極めて悪条件であったために、売れ行きはさんざんであった。当時の通行量は一日わずか三、四人。それでも安売りはしないとの哲学から、結局、差別化戦略によって店を維持していくと決心して、情報収集からスタートした。

その情報収集の過程で清酒本来の作りを踏襲

し、全国的には知られないままごく一部の地域でしか販売されていない地方の銘酒があることを知った。店主の地方銘酒の蔵元回りが始まった。蔵元を訪ねては現金で買い取るという地道な努力を重ねたにもかかわらず、そのほとんどが売れない。一定期間を経過すると清酒の品質は劣化するから、迷った末に、廃棄処分にはざるをえなかった。せつかくの努力が水泡と化したのである。

次に思い付いたのが腐らない酒、焼酎であった。当時は焼酎といえば安酒のイメージが強く、焼酎を扱うことは酒屋としてタブーに挑戦するのと同じであった。しかし、思い立つとじっとしていられない店主は、九州の焼酎メーカーを訪ねて回り、そこで本格焼酎こそこれからの酒であるということを実感した。そして清酒の時と同じく現金で買い取ってきたのである。前の失敗に懲りた彼は今回は九州出身者をリストアップし、彼らにDMを発送したが、これもうまくいかなかった。

困り果てて最後に思い付いたのは看板を利用した販売促進であった。国道六号線はダンブやトラックが頻繁に通る。通行量は一日二万台にも達している。そんな中で目を引く看板を立てることを思いついた。大きな木枠を分けてもらい、それに「ふるさとの酒」と大きく書き、日本全国の地酒と焼酎の地図をそれに加え、この看板の上に緋の着物を着せたかかしを立てせて



「春日や」全景。店のカンバンは酒ダルの大ぶた。

道の両側に立てた。両方で十六畳ほどの巨大看板であった。

これが大評判を呼んだ。店を開ける前から店の前に客が並ぶようになった。結局、いくらいの商品を集めても情報があまく行き渡らなかつたことが売れ行きにつながらなかつたということであった。その証拠に遠くから出身地の地酒や焼酎を求めて人々がやってきたのである。かれはさらに国道の上下線に「あと〇メートルい

くと本格焼酎と地酒の店がある」と書いたかかしの看板を何枚も置いた。そうすると各マスコミが次々に店のことを取り上げてくれて、かかしの酒屋”はこの地の名物になった。

感心するのはこうした販促のアイデアばかりではない。商品への深い愛情である。例えば、酒の品質の劣化を促進する原因は揺れることと空気との接触による酸化である。そのため棚は頑丈に作り地震にも耐えられるように作ってある。また、蛍光灯の光りも劣化を速めるから、店内は裸電球による照明である。そして温度管理も常に一定の温度に保つために、店内の温度変化を極力抑えるように気を配っている。

また、一本一本に酒の履歴書ともいべき店主の一言メモ”が書かれている。商品に情報を付加することで価値が高まるとことの好例である。その他、酒を送る際の包み紙や段ボールにも彼らしい工夫がある。包み紙については、酒のラベルが包み紙のままでも見えるようにその部分だけ切り込みが入れられているし、段ボールについては、酒びんの口の部分を固定してかなりの衝撃に耐えられるような仕掛をした特別の箱を作った。

顧客との結び付きも大切にする店主である。来店するすべての客にはお茶で来店店の労をねぎらい、店内には季節の花々が常に飾られ訪れた人を慰める。最近、店の改装に当たって店主が実行したことは、店内に茶室を作って地元の人

に自由に利用してもらおうことと、地下のワインセラーの中にミニ・コンサート会場を作ってこれも開放したことである。こうした努力のお陰で、顧客が中心となった消費者の会「春日会」が十年前から組織され、事務局も消費者が担当している。

今回、ここで取り上げた四つの事例は、それぞれ異なる条件の下でのドラマチックな町づくり、店づくりのケースであるが、そのいずれも、最初からドラマ性を考えての町づくり・店づくりではなかったことが四者に共通することである。これではいけない、何とかしなければ、と困り果てた末の町づくり・店づくりであったといえよう。にもかかわらず、あたかも美しいドラマのようにわれわれ（少なくとも筆者）を感動させるのは、それに携わった人々が、町(村)や店、土地や商品に対するあふれるばかりの情熱と、愛情を感じさせるからである。誰のものでもない、自分達の町なのだから、自分の店なのだから、というひたむきさが感動を呼び起こすのに違いない。

町づくり・店づくりは筋書きのないドラマなのかもしれない。映画やテレビのドラマとこうした実話が異なるのは、前者がシナリオライターによってストーリー展開されるのに対し後者は生きている人間、現実生活している人間がシナリオを作りつつ物語を演じるというところ

この店は店づくりの過程においても十分にドラマチックであるが、現実の店舗はまさにそれを象徴するように劇場の舞台の役目を果たしている。店主は主人公を演じ、顧客は酒と主人と店の魅力に引かれて訪れるのである。まさにドラマを地で行く店づくりといえよう。

にある。いかに、きれいに筋だてて作られたシナリオでも、演じる人が演じつゝ、自ら作ったシナリオにはかなうはずがない。町づくり・店づくりのドラマは、町や店を舞台に、そこに住む人が自らシナリオを作りつつ演じるところに面白みとドラマ性が生まれるということはこの四つのケースに限らず、幾多の町づくり・店づくりの事例は数えてくれる。

そこで最後に、こうした感動的なドラマチックな町づくり・店づくりの実例から、店づくりへの提案としてそのドラマ性のポイントをまとめてみたい。

第一に、低迷・衰退の商業であればある程、店づくりの軌跡はドラマチックになる可能性が大であるということである。事例はどれもそのままドラマになるくらい劇的で美しいところが見る人、聞く人、訪れる人を感動させるのである。いずれもかなりどん底からの出発であった。

第二に、店づくりにはエネルギーが必要であるということである。寂しく暗い街や店は二度と訪れる気は起こらないが、明るくエネルギー

シユな所なら、再び訪れようと誰しも思うはずである。また、やる気のない店や商店街が外からの協力や圧力で活性化しようとしても、多分、一過性のものに終わってしまう可能性が大きい。

第三に、相対化できる目や感覚を持つことが大切であるということである。小さな範囲でしか物事を考えられないようでは成長は望めない。外の世界と相对比较できることによって、個性的な街や店ができあがるのである。

第四に、ハードの施設を作るだけでなく何らかの工夫やアイデアや仕掛けが人を呼ぶということがある。形だけ整えてじっと待っているも誰も来てはくれない。ハード以上に人を集める仕掛けは重要なのである。

そして第五に、しっかりと経営哲学を持つことである。もしくはそれを持った店主や街づくりリーダーの存在は大きいといえよう。経営哲学はそのままメッセージとして顧客に伝わるから、それに共感を覚える人はファンになっていつのまにか集まって来てくれるだろう。

人まねでない、独自の街づくり、店づくりは、こうした条件やそれを作り出す努力によって生まれる。世界に一つしかない街・店は、じっとしては生まれえない。情熱と愛情と努力あるのみということ、こうした先進的事例は教えてくれる。



「シエイプアップ・マイタウン計画」に

おける商業空間整備について

建設省都市局都市政策課
地方都市開発整備係長

古木 岳美

一、はじめに

地方都市の中心市街地は、行政・商業業務等の主要な都市機能が集中しているばかりではなく、市民の意識の中で重要なシンボル空間でもあり、その盛衰は大きな意味を持っている。また、地方都市の活性化を図るためには、産業振興という面からも、地域における商業活動等を活性化する必要がある。そこで、中心市街地の活性化を図ることにより、都市全体の活性化を図る必要が生じている。

ところが、近年、地方都市の中心市街地においては、モータリゼーションの進展により郊外部における大規模店舗の立地、都市基盤施設や

公共公益施設の老朽化、多様化する消費者ニーズへの対応の遅れ等のため、商業活動が停滞し、相対的に活力が不足している状況が多く見られる。

このような状況を改善し、地方都市の活性化を図るため、近年においては、数多くの独創的なまちづくり、村おこしの動きが全国的に広がりつつある。そこで、建設省においては、昭和五十九年度に、都市の顔である中心市街地を対象として、地方都市それぞれの個性や独自性を生かし、また、民間の活力を活用しつつ、再開発、都市基盤施設、公共公益施設の整備等各種の施策を効果的に実施することにより、都市の総合的な魅力の増進と活性化を図ることを目的とする独創的・総合的な計画―地方都市中心市

街地活性化計画（シエイプアップ・マイタウン計画）―を提案し、同計画を昭和六十年から六十二年にかけて、地方公共団体から募り、地方都市中心市街地活性化のモデルとなるすぐれた二十六都市の計画を認定したところである。

二、計画の内容

(一) 人口概ね二十五万人以下の地方都市を対象として、市町村が計画を策定する。

(二) 計画の内容

① 活性化の核となる事業

〈例：市街地再開発事業、土地区画整理事業、商店街近代化事業〉

② 都市のアメニティの向上や新たな魅力の創出に資する各種関連事業

〈例：道路の整備、公園・緑地の整備等〉

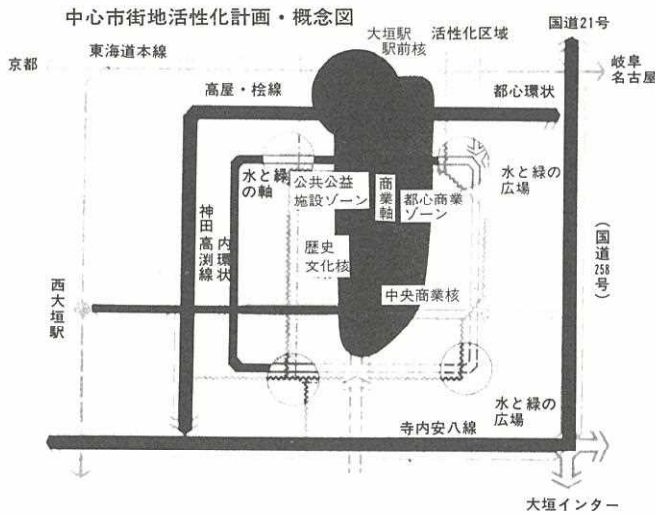
③ 民間活力活用 of 具体的手法

④ 地区計画・緑化協定等のソフトなまちづくり方策

を総合的・一体的に定めるものである。

三、商店街の活性化方策の事例

現在、「大規模小売店舗における小売業の事業活動の調整に関する法律」の運用の改正等により、地方都市における商店街等を取り巻く状況が変化の中で、本計画を推進し、中心市街



地の活性化を図るためには、商店街等の再構築・再整備が必要となってきた。

従って、ここでは、大垣市（岐阜県）の商店街の活性化方策を紹介することとする。

四、大垣市における中心市街地の抱える課題

大垣市は、古来から交通の要衝にあり、大垣都市圏の産業・経済・文化等の拠点都市として発展をとげてきた。

また、本市の中心市街地には、歴史的に培わ

れた産業・経済・文化等の資産が多々あり、現在の経済・社会情勢と来るべき二十一世紀への動向を見極めたうえで、その再編・強化を図ることにより、都市圏の中心都市として期待される役割を十分に発揮する必要が生じてきている。

現在、中心市街地においては、以下のような課題が指摘され、これらへの対応に迫られている。

- (一) 人口の郊外及び周辺町村への流出
 - (二) 拠点商業地としての活力の低下
- 郊外部での大型店の出店が進み、自家用車利用が中心となりつつある今日の交通状況

五、都心づくりの“五つの柱”

(図参照)

- (一) 密度の高い都心機能
- 都心活性化のため、第一に、人々を吸引する密度の高い都心機能が必要となる。
- ① 二つの商業核の形成
- 既存の商業集積があり、かつ再開発事業の機運が活発化している駅前地区と商業近代化を推進している中央商店街地区を、二つの核とし、機能分担を明確にし開発整備を進める。
- 駅前核
- 交通結節点であり市の玄関口であるため、ステーション・ショップとともに観光・産業・生活情報の拠点機能の配置に努め、玄関口

況に対し、個店の改善のみならず、商業環境の改善等により、中心市街地が拠点商業地としての機能を有することが必要となってきた。

- (三) モーターゼーションの進展に伴う都心部の交通網再編の立ち遅れ

中心市街地においては、モーターゼーションの進展に対し、外部からの車によるアクセスが容易にはなされない構造のままとなっている。このため、道路機能の再編、交通施設間の連携等の交通網再編が必要となってきた。

にふさわしい修景を確保する。

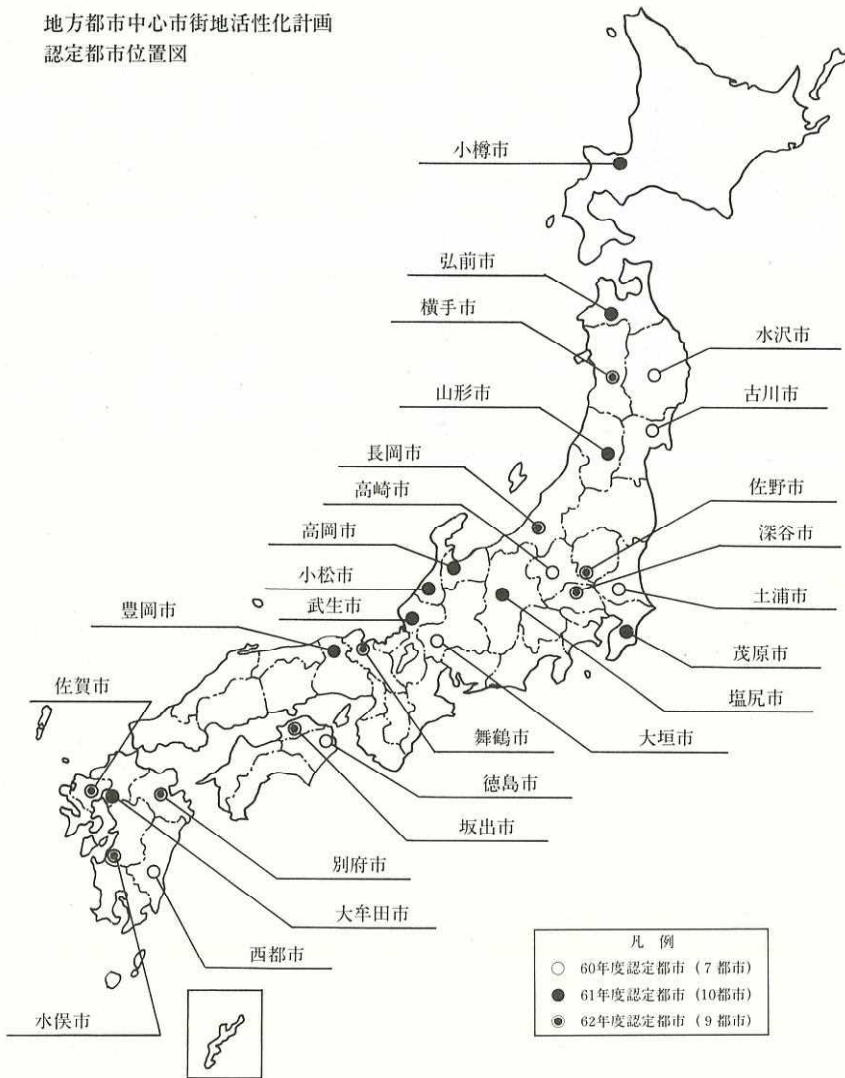
● 中央商業核

この地区の周辺は、市の歴史的な発展の礎であり、中心的な商業の歴史を持つ土地柄で、かつ、界限性の高い環境にあるため、歴史・文化のイメージを活かし、個人サービスの拠点機能を強化し、盛り場性、慰楽性の豊かな商業核とする。

② 核を結ぶ商業軸の形成

二つの核の形成により、都心中心部は密度の高さとその広がりを得ることができる。また、そのためにも二つの核を結ぶ軸が極めて重要となる。これを商業軸として整備を図り、二つの核を補完する機能を集約し、高密度でコンパクトな都心商業エリアとする。

地方都市中心市街地活性化計画
認定都市位置図



③商業ゾーンの明確化

①、②を中心に、既存商業集積のある商店街などを含むエリアを商業ゾーンとして明確にし、このゾーンを中心に都心商業機能を強化する。

④都市の防災性の向上

(一) 歴史的文化遗产を活かした複合的魅力の創出

(三) アクセスしやすい交通網の形成

(四) 変化に富んだ楽しい歩行者環境の形成

都心を訪れた人々が長時間滞留するような(一)、(二)の条件整備を前提に、それらをつなぐ変化に富んだ楽しい歩行者環境を形成する必要がある。

(五) 理解しやすい都心景観の形成

六、おわりに

五、で述べた都心づくりの「五つの柱」を具体化するために、以下のような施策の推進を図ってきており、にぎわいのある商業空間の形成が徐々に進みつつある。

(一) 大垣駅前地区改良事業

(二) 中央商店街再開発事業

(三) 大垣城周辺整備事業 等

また、他の認定都市においても中心市街地においてにぎわいのある商業空間の整備に鋭意努力を図っているとある。

「吉野ケ里」特集号



吉野ケ里

特集
ジュニアズ臨時増刊

九州地方建設局・編集

広報誌「シーンズ」

臨時増刊

(社)九州建設弘済会・発行

二〇〇円

九州地方建設局が、広報誌「シーンズ」の臨時増刊として「吉野ケ里」特集号を発行しました。全国的な古代史ブームを巻き起こした佐賀県神埼郡の吉野ケ里遺跡は、私たちに耶馬台国へのロマンと知的好奇心をもたらしました。「耶馬台国はどこに」「魏志倭人伝は語る」など一般的な記事もありますが、建設局らしい特色のある記事もあります。

この遺跡からは、日本最大の環濠や墳丘墓、奈良時代、そして中世までの膨大な遺跡群が存在していることがわかり、土木にかかわっている我々に一種の感動を抱かせます。

まず、この遺跡の目玉、環濠。延長約1km、幅6m以上、深さ3m以上もあり。V字形に深く掘られています。本来はもつと大規模なものであったと思われる。

試算によると、掘り下げた土量は約四万m³以上に達し、人力を使って掘ると(手掘り)延べ

五千人以上。現在の金額に換算すると、約五百億円以上、今、この工事を施工するならば機械掘で三千万円でいどの工事になります。

環濠に城柵、桜観。当時としては想像を絶する大工事でした。当時の支配者の権力をうかがい知ることができます。

そしてもうひとつの目玉が墳丘墓の工法です。この墳丘墓は、赤土や粘土掘りの土を、交互に層にして押しかためていく版築に似た、当時では高度な工法を用いて築かれています。この土を押しかためるために、せつかく埋葬したかめ棺を、押しつぶして割ってしまったているものもあるようです。現在の墳丘墓の上に立つと、下から見ているよりも思いのほか高く、周囲をよく見渡すことができます。

この吉野ケ里遺跡からは、弥生時代前期から奈良・平安時代、さらに中世にかけての長い時代にわたる遺構が見えています。

この遺跡の大きな特色は、やはり大規模であるということです。

そして当時、おそらく幅6m、深さ3m以上あったと推測される外濠があり、その内側の一角に内濠が掘られていました。

さらに内濠の一角に、溝で囲まれた宮室に相当する部分があります。

ともかく二〇haを超す大規模な外濠で囲まれた集落の存在が確認されました。

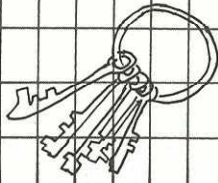
これまで近畿地方でも、吉野ケ里と同規模もしくは、三分の一か四分の一程度のものはいくつかありましたが、北九州、なかでも佐賀平野の一角にそれらと並ぶ大規模集落があったことになりました。

なかでも、特に問題になったのは、この集落の存在した時代が、一部で耶馬台国の時代と重なり、魏志倭人伝の記載と合致する遺構が数多く出てきていることです。

いづれも先人の知恵と技術が時代に応じ駆使され、今日に伝えられ、私たちの生活と土木のかかわりが古代も今も切り離せないことがわかりました。

また、九州の遺跡マップをみても、旧石器時代から古墳時代までの主たる遺跡の位置から、川の周辺が多く水と人の暮らしのかかわりがふかかったことが伺えます。

この冊子の編集は、九州地方建設局企画課が担当し、監修には九州大学の西谷正教授、佐賀県教育委員会、朝日新聞社の協力を得て、社団法人九州建設弘済会が発行しました。



平成元年版建設白書より

—ソフト化トレンドと国土建設—

今回は、去る七月十一日に発表された建設白書について解説をする。

経済・社会のソフト化がもたらしたライフスタイルの変化と住宅・社会資本整備

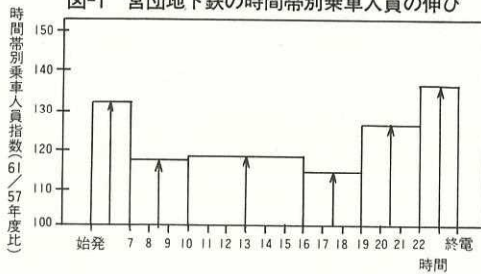
経済・社会のソフト化に伴い、仕事、居住、余暇、交流といった日常生活の活動においても、それぞれに内容やパターンが変化し、快適性、多様性等への欲求がより高まってきている。住宅・社会資本整備においても、このような欲求に対応していくため、より高度で多様なものを整備していく必要がある。

仕事活動に着目してみると、個々の快適空間の確保や、経済・社会のソフト化に伴う情報の価値の上昇によるオフィス自体のインテリジェント化は、重要な課題である。また、オフィス環境のみならず、その立地についてより恵まれた自然環境を指向する動きの試みとしてサテライトオフィス、リゾートオフィス等がある。さらに、労働者自身について、仕事活動が多様化し二十四時間化しつつあると考えられる。夜間の交通需要に注目すれば、営団地下鉄の乗車人員は二十二時以降の伸びが著しい(図1)。このような労働時間の多様化は、街そのものに多様なニーズをもたらしている。これに対しては、道路照明の拡充等道路の夜間利用を考えた施設整備等を進め、

二十四時間都市の基盤を整えていかなければならない。また、夜間利用されないオフィス地域についても、オフィスと商業施設等を併存させ、昼夜にわたり生きた場所とする時間の多重利用を図ることも重要であろう。

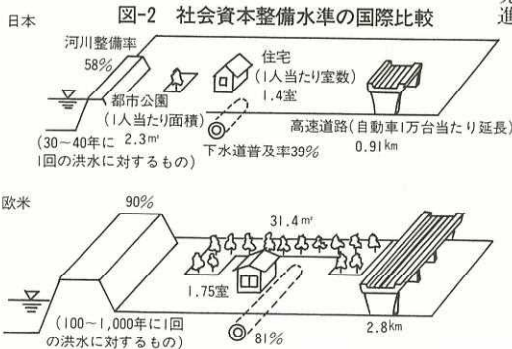
ソフト化社会実現の前提である生活の基礎水準と生命財産の安全を守る観点においても、我が国の住宅・社会資本整備は立ち遅れている。住宅・社会資本の整備状況を欧米先進諸国と比較してみれば、日常生活を支える各公共施設について、大幅に立ち遅れていることがわかる(図2)。我が国は、豊かな経済力を背景として高度な消費水準を享受しているものの、住宅・社会資本については欧米先進

図1 営団地下鉄の時間帯別乗車人員の伸び



- 注) 1. 建設省資料。
 2. 原データ：(財)国際交通安全学会「ATSS(Dec, 1987)」
 3. 銀座線、丸ノ内線、日比谷線、東西線、千代田線、有楽町線、半蔵門線の合計
 4. 57年度を100としたもの。

図2 社会資本整備水準の国際比較



- 注) 1. 建設省資料。
 2. 欧米の諸数値は、イギリス、西ドイツ、フランス、アメリカの4ヶ国平均。ただし、河川整備率等については、イギリス、フランス、アメリカの3ヶ国平均。
 3. 河川については、日本は大河川、イギリス、フランス、アメリカはそれぞれテムズ川、セヌ川、ミシシッピ川の数値である。
 4. 都市公園については、日本は東京区部、イギリス、西ドイツ、フランス、アメリカはそれぞれロンドン、ボン、パリ、ワシントンD.C.の数値である。

諸国に比べ大きく立ち遅れており、生活における真の豊かさ感を減殺している。したがって、これら基礎的課題について、整備目標を定め、計画的効率的に各種事業を進めていかなければならない。

また、基礎水準と安全を確保する基礎的機能と新たな生活欲求等に応じた高度なソフト機能を両方を有する「多重多層的複合インフラ」を建設するとともに、基礎的機能をより地域に密着したものとし、高度なソフト機能を十分発揮させるため、高度なソフト機能を的確に把握し、地域の自主性に基づく住宅・社会資本の整備を支援していく必要がある。

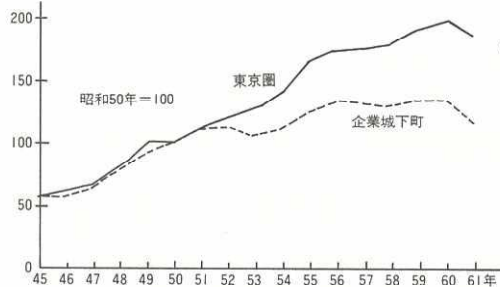
ソフト化トレンドと地域開発

経済・社会のソフト化は、国土利用面に新たな変化をもたらした。産業構造の重心が重厚大型から軽薄短小型へと移行するにつれて、これまで重厚長大産業に依存してきた地域経済、特に企業城下町といわれる地方都市が受けたダメージは大きなものであった。工業製品出荷額の伸びを見ても、特に五十年代以降、東京圏と地方企業城下町の格差は開いてきている。(図1)

これまでも、全国総合開発計画に始まり様々な地域開発の施策を講じ、各地域の経済基盤の確立と人口の定着を進めてきたにもかかわらず、昭和五〇年代半ば以降、地方経済の停滞と人、機能の大都市集中がもたらされた。新たな地域間格差が生じている。まさに経済・社会のソフト化は新たな流れとして、国土利用面における政策転換を求めてきていると言えよう。

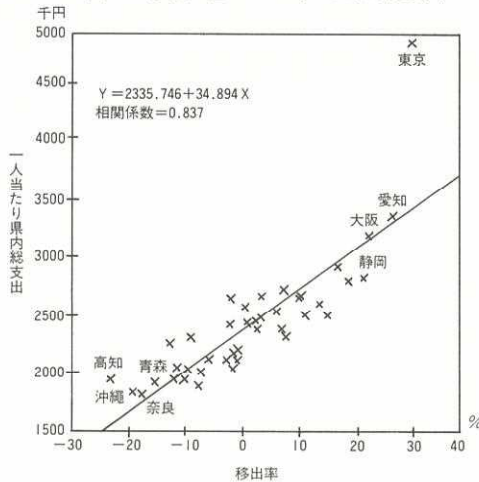
今回の建設白書は、このようなソフト化トレンドの下で地域活性化を進めていくためには、地域活性化の引き金となる「移住型産業」の立地が必要であることを述べている。地域経済の動向をみるならば、経済・社会のソフト化に対応した地域が経済的發展を遂げ、自

図-1 東京圏と地方企業城下町の工業製品出荷額の伸び



注)1.建設省資料。原データ：通産省「工業統計表」
2.東京圏：東京、埼玉、千葉、神奈川県1都3県
企業城下町：産業構造転換円滑化臨時措置法の特定地域のうち以下の都市(夕張、室蘭、函館、大館、能代、釜石、相生、因島、呉、高知、大牟田、佐世保、長崎、延岡)

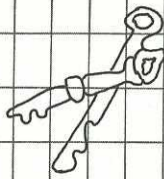
図-2 移出入差と一人当たり県内総支出



注)1.建設省資料。
2.原データ：経済企画庁「県民経済計算年報(平成元年版)」
3.データは全て昭和61年の暦年ベースの数値。
4.移出率 = $\frac{\text{県際収支差(移出-移入)}}{\text{県内総支出}}$
(県際収支差には、統計上の不適合を含む)

立的経済圏を形成していることがわかる。本来、自立的経済力は、自地域での生産による財・サービスを他地域に移出する移住型産業が地域のリーディング産業となつて、確保されるものである。これは、移出率の高い地域がより高い所得を有していることからみてもとれる。(図2)

このため、地域活性化を進めるには、まず先行的に住宅・社会資本投資を行い、その基盤を整備し、地域経済への波及効果が期待できるハイテク産業等高付加価値型産業やリゾート産業等の「ソフト産業」を誘引立地させていく必要がある。



平成元年版建設白書より

—ソフト化トレンドと国土建設—

ソフト機能の東京集中

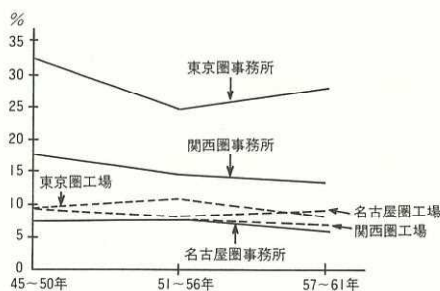
経済・社会のソフト化とともに発生した国土利用上の歪みのひとつとして、東京への人、機能等の再集中と東京における生活環境の悪化が挙げられる。ソフト化社会における情報やサービスの価値の上昇は、ナショナルセンターとしての東京における事務所等のソフト機能の集中をもたらし、地価高騰の一因となり勤労者の生活上重大な問題をもたらした。

昭和五〇年代半ば以降の大都市、特に東京へのソフト機能の集中は、事務所機能の集中としてとらえることができる。事務所、工場全体の立地状況のうち、製造業を中心とした工場については東京圏における立地件数のシェアが減少しているが、逆に事務所については集中傾向にある。(図1)

情報・通信手段の整備等により、どこでも一定レベルの情報を享受できるようになったが、これが情報獲得競争を激化させ、生のフェイス・トゥ・フェイスの情報を求めるようになり、東京集中をもたらした。こうして高まってきたソフト機能の東京集中は、言わば「情報を求めての集積のメカニズム」と考えられる。

均衡ある国土の発展を実現するためには、

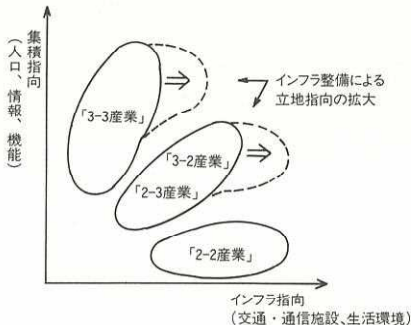
図-1 3大都市圏における工場および事務所の新規立地件数(対全国シェア)



注)1. 建設省資料、原データ：通産省「工場土地動向調査」、総務庁「事業所統計」
2. 事務所とは、事業所統計における、事務所及び営業所を指す。
3. 地域区分は以下の通り。

東京圏：埼玉、千葉、東京、神奈川
関西圏：京都、大阪、兵庫、奈良
名古屋圏：岐阜、愛知、三重

図-2 産業立地特性による立地イメージ図



ソフト機能を東京圏の周辺部や地方のブロック母都市等に分散させる必要がある。産業別に立地動向を見ると、管理機能以外については、市場、知識・情報、生産部門等との結びつきの深さによって、東京を中心とした大都市に立地が必要な業種、地方に展開が可能な業種がある。そこで機能、産業別に分散立地を進めていかななくてはならない。

サービスを直接提供する純ソフト産業(3-3産業)や管理機能等のソフト機能は集積を求めて立地してきている。そこで、既に広域的な集積となっている東京圏の周辺部にお

いて、業務核都市を育成し都市インフラの整備を進め、環状ネットワークの整備を行うことにより分散を図らねばならない。また、ハード機能を有するソフト産業(2-3、3-2産業)は、部門によってハード機能の結びつきも必要であり、地方への分散も可能である。そこで、地方のブロック母都市等を分散の受け皿とするため、生活環境を高める都市インフラの整備と、高規格幹線道路等の全国的交通・通信ネットワークの構築を進めていく必要がある。(図2)

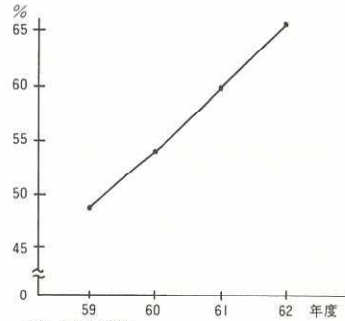
ソフト化社会に対応した建設活動

ソフト化社会に対応し、「真に豊かな社会」を実現するためには、その手法である建設活動をどのように行うかも重要である。すなわち、ソフト化社会に対応した住宅・社会資本等の整備のため、建設活動への十分な資源の確保と効率的な活用、建設技術の向上、建設産業・不動産業のソフト化対策等が必要である。

一、建設活動における資源の確保と有効活用
ソフト化に伴う住宅・社会資本等への高度な欲求に対しては、建設活動への資源の十分な確保と効率的な活用が必要となっている。特に、限られた資源としての土地については、大都市圏における地価高騰にも対応して(図1)、公共用地の円滑な確保のための施策と空中・地下や遊休地等の有効活用のための施策が必要である。このため、土地収用制度の円滑な運用のための税制改正、道路と建築物等との一体的整備手法の創設等が行われた。大深度地下の公共利用に関する制度の創設も検討している。

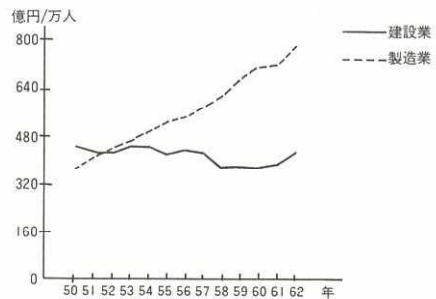
また、施設完成後においても、高いサービス水準を維持するため、維持更新費を十分確保し、その耐久性を保つ必要がある。

図-1 公共事業費に占める用地補償費比率の推移



注)1.建設省資料。
2.原データ:東京都建設局資料
3.東京都実施の道路事業、河川事業、都市公園事業分

図-2 建設業の労働生産性の推移



注)1.建設省資料。
2.原データ:総務庁「国民経済計算年報」「労働力調査報告」
3.労働生産性(億円/万人)
=経済活動別国内総生産(実質)/就業者数

さらに、住宅・社会資本の着実な整備のためには、建設活動への資金供給の拡充、特に豊富な民間資金の活用が必要である。公共事業への民間資金の導入のためには、NTT-A型貸付けのほか、「不動産の証券化」に関する研究が行なわれている。開発者利益負担制度としては、インターチェンジ設置費用を周辺の開発事業者に負担させる開発インター制度等を設けている。

二、建設技術の向上
効率的な資源の活用のためには、建設技術の高度化が不可欠である。そのため、施工の省力化策としての建設ロボット等メカトロニクス導入や明石海峡大橋等大規模プロジェクト実現のための先端技術の活用を進めるほか、海洋、地下といったニューフロンティア開拓のための技術開発が必要である。

三、建設産業、不動産業のソフト化対策
経済・社会のソフト化の中で、「真に豊かな社会」の実現主体である建設産業、不動産業についても、低コスト・高付加価値化等を進めていく必要がある。建設産業においては、低い生産性(図2)を克服し、高付加価値化、人材の確保・育成等高度化に努めなければならない。また、不動産業については、都市環境創造産業や高付加価値型サービス産業等を

目指し、業務の多様化・総合化を進めることとしている。

都市と農山漁村を情報で結ぶ

シリーズ⑤

ふるさと情報センター

今回は、情報ホットラインで実際に
どのような情報が得られるのか……
いくつか紹介いたします。

東京本部センター
03-501-4307
大阪センター
06-204-0776



北の大地のロマンを食卓へ

北海道・滝上町

滝上町は、オホーツク観光の中継地点であり、緑萌える北見山脈のふところにある、「花と溪谷のまち」です。五月中旬から六月中旬にかけては、ピンクのジュータンを敷きつめたように芝ざくらが見事に咲き乱れ、やさしい香りを漂わせます。

全国で初めて取り組んだ「ジャガイモ株主制度」が今年で六年目を迎え、大勢のオーナーたちから心暖まる激励等をいただきながら支えられてきました。その他にも、いろいろとユニークなオーナー制度がたくさんあります（七面鳥スイートコーン、かぼちゃ、豆畑、町ぐるメなど）。

この町の制度の特徴は、たんに農産物を届けるというだけでなくオーナーとの心の交流を重視している、ということですが、その一環として、クイズなどのイベントも行われています。

あなたの食卓にも是非、北の大地のロマンの香りを添えてみませんか。

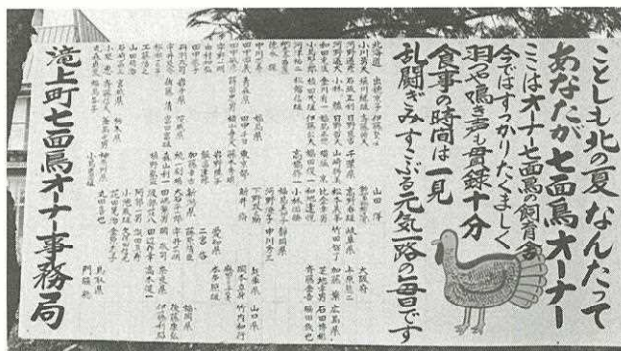


★七面鳥

毎年七月末日までにお申し込みいただくと、十二月には、七面鳥が一羽そのままくん製（生肉も可）にされて送られて来ます。豪華で本格的なパーティーにおすすめです。

また、自分の七面鳥の成長が気になりというオーナーのために、成長途中の状況をお知らせする「オーナー通信」と、現地写真も届けられます。

ちよっとかわいそうな気もしますが、半年後のクリスマスに向けて、楽しみにお待ちになっていますか。



七面鳥飼育舎前の看板
オーナーの名前が一人一人書いてあります。

●お問い合わせ先

北海道紋別郡滝上町旭町
滝上町役場 TEL.(015829) 2111



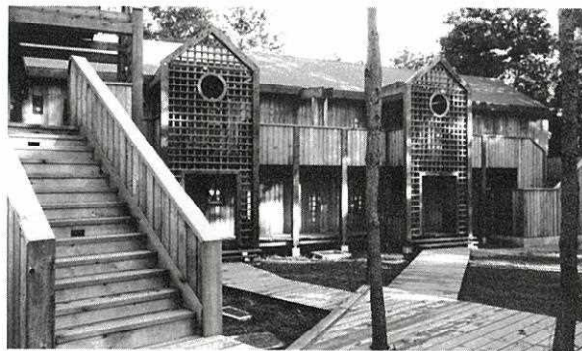
開催時期	名称	内容
3月下旬	ゆかりの森「きこり組合」	のこぎりであかまつの間伐作業を体験。倒した木で炭焼きも行う。
4月下旬	野草を食べよう会	野山を散策して野草を摘み、調理して食べる会。
5月下旬と10月中旬	森の音楽会	あかまつ林の中で生のシンフォニーを楽しむ。室内では味わえない自然に包まれた音楽会。
1月中旬	たこあげ大会	幼児からお年寄りまで手作りのたこで競い合う大会。
4月下旬(募集)	カブト虫の里親	希望者にカブト虫の幼虫(1対)を配り、その成長過程を学んでもらう。そのカブト虫が卵を産み、幼虫になった秋ごろ、幼虫を返却してもらう制度。

「ゆかりの森」

茨城県・つくば市

豊かな自然を守るため平地林の活用をしながら、高齢者の生きがい・世代間交流の場・新旧住民の交流の場・都市と農村の交流の場・国際交流の場として、教育文化の向上と地域の活性化をめざして設置された「ゆかりの森」は、広さ十二畝、昭和六十二年十一月の合併により「つくば市」となった旧豊里町にあります。

施設は全て木造建築です。特に宿舎「あかまつ」は、木の香り豊かな2×1工法によるカナダ風宿泊施設。ここは科学万博の際、カナダ館コンパニオンスタッフの宿舎でした。現在では、



森の木をふんだんに使った宿舎「あかまつ」
1ユニット 3LDK。キッチンでの自炊可能。



- お問い合わせ先
茨城県つくば市大字遠東676
宿泊施設「あかまつ」 TEL.(029747) 5121

♥ふるさと宅配便であたたかセット

商品名	内容	価格	申し込み先	申し込み方法
馬肉みそ漬「相坂漬」	珍味というだけでなく、コレステロールが低い肉。900gと1.3kg入(クールボックス入り)。他に「十和田牛のみそ漬」「馬肉ジャーキー」など。	900g入 3,500円 1.3kg入 5,000円 (外税・送料別)	有限会社「ティファーナ」 〒034 青森県十和田市大字三本木 字稲岩121-84 TEL 0176-22-8571	電話かかがき。 必ずお問い合わせ下さい。
秋田の和きりたんぼ鍋セット	1人前から各種。きよにしきのきりたんぼ。比内地鶏のスープ。舞茸。芹。ねぎ。ゴボウなど。	1人前 1,600円 (外税・送料別)	有限会社 住田商店 〒011 秋田市土崎港中央1-1-1 TEL 0188-45-0755	電話で申し込む。 前払いなので振込方法を確認のこと。
ひらた味噌汁セット	ふるさとセット：みそ、しみ豆腐、しめ大根、いもがら、干しいたけ、小麦こうせんなど。	1セット 3,300円 (内税・送料別) 63年度価格なので変更あり。	平田村役場 あぶくま高原ひらた便 〒978-02 福島県石川郡平田村 大字永田字広町34 TEL 0247-55-3111	電話かかがき。 前払いなので振込用紙を送付します。 出荷時期 11月中～3月上
朴葉味噌コンロセット	みそ(240g×3袋)。朴葉(2～3枚)豆コンロ。アミ。炭。木のコンロ台。	1セット 2,600円 (内税・送料込)	船津醤油株式会社 〒506-11 岐阜県吉城郡神岡町船津 TEL 0578-2-0071	電話。 現物と振込用紙を同封して送付。
すっぽん切身セット	1セット5人前。すっぽん切身、缶詰スープ、タレ、生血(30ml×1本)、ゆずこしょう(小1袋)など。	1セット 5,000円 (外税・送料別)	塚崎スッポン本舗本家活宝安心院亭 〒872-05 大分県宇佐郡安心院町 大字新原59-1 TEL 0978-44-2122	電話かかがき。 パンフレット及び申込書を送付。

(注)注文及び詳細については、各申し込み先にお願い致します。

生まれ変わった商業空間で
豊かな暮らしを



西都市にみるショッピングゾーン



市民生活の質的向上は商業機能の充実から

——文化の薫る若人と緑の街“西都”——

地方都市中心市街地活性化計画の推進を図る建設省の「シェイプアップマイタウン計画」に認定された西都市。その商店街近代化事業について、ここに紹介する。

西都市商工観光課長

黒木 博

先駆的事例として関心の高まる市街地再開発事業

西都市は宮崎県のほぼ中央に位置し、人口約三万八千人、農林業中心の田園都市である。来るべき21世紀に向けて、市民に憩いと安らぎの都市空間を提供し、都市機能の向上を図ることを目的とした街づくりの核として、市街地再開発事業による複合施設「コミュニティプラザ」が誕生してから四年が過ぎようとしている。この街づくり事業は、西都市のシンボルとしてだけでなく、近隣市町村からも先進的なものとして関心が寄せられている。この先駆的とも言える街づくりを行った西都市妻駅西地区商店街は、国道219号線と旧国鉄妻線とに挟まれた約四・三ヘクタールの区域で街路が狭く、木造の老朽化した店舗や住宅が密集し、歩車道の分離もない雑然とした地区であった。



コミュニティプラザ「バオ」

魅力ある商店街を望む声も、ますます強まっています

西都市では、昭和三八年の中心部で起きた大火を契機に、土地区画整理事業による都市基盤の整備を進めてきたが、災害復旧的に事業が進められたこともあり、中心商店街として魅力ある街に再整備するに至らず、駐車場も未整備な旧態依然とした商店街で商業が散漫な状況にあった。しかもモーターゼーションの発達は西都市も例外でなく、自家用車の普及が高まるにつれ、近郊とりわけ宮崎市への消費の流出は、年々増加し、一方地元にも大型店を望む声も強まり、大型店の進出計画によって地元商業店舗との競合が、さらに小規模小売業者の死活問題へと発展する可能性を秘めていた。

このような状況の中で消費の外部流出を防ぎ需要と供給を市内で満足させるためにも地元業者として、これら消費者の期待に応える必要に迫られていた。このことは商業者のみならず、西都市としても重要な課題となっていた。

こうした折、妻駅西地区では昭和四九年に土地区画整理事業の促進を西都市に対し陳情したことを契機にして、自分たちの街づくりにさまざまな取り組みがなされたのである。

当時、直面していた課題として先にもふれたように駐車場の問題である。地元関係者の間では、用地を出し合っても共同駐車場を設置し

ようという機運が盛り上がり、土地区画整理事業による換地計画を利用して用地を確保したい。しかし問題は駐車場の設置場所、個々の店舗の配置、なかでも最大の関心事は、いかにして消費者を集めるかなど課題も山積していた。

具体的な街づくり方策に

ついでにの提言を得て

そこで、昭和五四年宮崎県に対し広域商業診断の実施を依頼し、妻地区商店街の未来像と併せて、駅西地区など区画整理事業未施行地区を重点に大型店進出の動きなど環境変化を踏まえて、具体的な街づくり方策についての提言を得たいとしたのである。この時期に地元のリーダーも独自に街づくり構想を立案、関係者の説得に努められていた。

その診断の結果、当地区商業の課題と今後の方策について次のような提言が得られたのである。

- 一、西都市の顔としての機能づけをする。
- 二、確固たるショッピングゾーンを創出するため大胆な商業集積をはかるための共同店舗を設置する。
- 三、商業集積効果を出すため、バスターミナル、駐車場、ショッピングセンター、専門店街、買物広場など回遊性を重視する。
- 四、駐車場の整備、文化施設を併設することなど八項目にわたる内容であった。

これらを具体化するということは、まず用地を区画整理事業によって更地にする。それに都市空間を創出するという大事業であり、土地の換地調整をどう進めるかが大きな問題になった。そこで、昭和五五年に設立された商店街振興組合では理事長以下幹部、それに商工会議所、西都市が一体となり各権利者との連日連夜の折衝の結果、一応全員同意による換地計画ができた。

一方、西都市では土地区画整理事業を進めるかたわら、核施設づくりの手段として昭和五六年市街地再開発事業基本計画を作成、地元と調整の結果、地元振興組合を中心に区画整理事業に伴う商店街近代化事業を全員同意で行い、市街地再開発事業により核施設を建設する。その中に、中小企業者による共同店舗を設置する計画がまとまったのである。

共同店舗、大型店、専門店街が、共存共栄を図る

次に、大型店の問題については郊外型でなく駅西地区が決められている商店街近代化事業の中の核店舗として、地元の共同店舗とドッキングする形で決着し、共同店舗、大型店、専門店街が共存共栄を図るという理想的な計画となった。

この計画も発足当初はその実現を疑問視する向きもあったが、地元振興組合の努力が実り、



西都市妻駅西地区商店街（開発前）



開発後



権利者の同意で昭和五八年十月に土地区画整理事業と商店街近代化事業の合併施行で第一期工事が着工され、翌年四月にオープンの運びとなった。

生まれ変わった商業空間で

豊かな暮らしを

こうして街づくりが進む中で、市街地再開発事業は大型店と調整を図りながら、一、二階を共同店舗とし三階と屋上を駐車場に。公益施設については最終的に二階の一部を働く婦人の家、三階には西都市文化ホールを併設する。

なお、共同店舗は通産省の店舗共同化事業を生かし、キーテナント大型店は賃貸入店をはかることで昭和五九年十二月第一種市街地再開発事業は着工、翌六〇年十月完成した。このように、土地区画整理事業を契機に時代の流れに対応すべく、駐車場づくりを目的に出発した街づくりも、買物広場を中心に専門店街、飲食店街、核施設で構成するショッピングゾーンとして生まれ変わった。

当地区ではその後、ショッピングモールのカラー舗装、駐車場、アーケード、街路灯の整備と十三年の歳月を経て昭和六二年度に全ての事業が完了した。この商業空間の実現はここを訪れる多くの人達に憩いと安らぎを与え、暮らしの広場としての役割を果たすこととなったのである。

連載◆建設企業の研修は今………21

会社の発展は、社員ひとりひとりの 向上から

——三井建設の教育研修のあらまし——

三井建設株式会社
人事部 人材開発室長

裏地 脩悟

一、はじめに

昭和三十五年十一月に合理化実施要綱が実施され、この要綱の中で教育訓練実施基準が示された。当社の企業目的は、建設を通じて社会に奉仕し「良い仕事を早く安く」提供することであるとされている。この目的を達成するためには、全社員の完全な協力のもとに科学的管理を行なうて、企業全般にわたるムダ・ムラ・ムリを排除して、各人が最大の能力を発揮できるようにするとともに、誠意を尽くして信頼を受け社会に貢献すること

が必要であると思われる。「企業は人なり」といわれるように、人材の育成はいつの時代でも必要欠くことができない。

この実施基準は

。ラインにおける教育訓練

。教育訓練の援助

。教育訓練と人事制度

を主眼としており、当面は課長

代理以上の管理者に対し、必須科目として管理者訓練（MTP）を

実施することとした。

昭和三十五年十二月に第一回目の

管理者訓練（現在は初級管理者研修と名称変更）が実施され、現在

までに三千名以上の社員が受講し

ている。その他監督者訓練（TW I）安全・技術・資材・営業などの管理者訓練および技能訓練が実施された。

昭和五〇年代になると経済的、

社会的情勢が著しく変化し、これ

ら諸情勢に対応するには、社員の

能力開発と向上を図りかつ、企業

体質の改善に資することが必要と

なり、昭和五二年六月に「教育訓練基本方針」が示された。

この基本方針は、

。業務遂行上における教育訓練

。教育訓練の援助

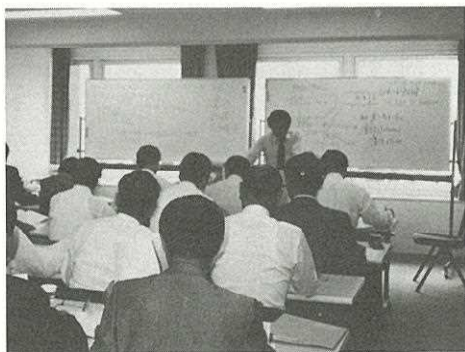
。自己啓発の重要性

が示され、能力開発に必要な教

育訓練を積極的に推進し充実することが強調された。内容は、通信教育の開始や、教育研修後のフォローのため、レポート提出などを義務づけている。

その後円高、貿易摩擦などの経済情勢の変化への対応と、社内体制の整備を図るため、今まで実施されていなかった中級・上級管理者を中心とした教育研修が急務となり、昭和六一年五月に教育研修推進要綱を改定・実施された。

この要綱が実施されたことにより、各部署でそれぞれ行なっていた研修を体系づけたこと更にまだ実施していなかった研修を実施し



上級管理者研修風景

人材の育成に積極的に取り組んだことに大きな意義がある。

人事管理の原則は、エラビ（採用）↓ソダテ（教育）↓イカシ（配置・異動）↓ヒョウカ（評価）↓ムクイル（報酬・処遇）といわれている。評価には、経過の評価と結果の評価の両面がある。経過の評価に教育の要素はあるが、今回はソダテ（教育）に焦点を当てていくことにする。

一、教育研修推進要綱

教育研修の目的は、本来社員自ら努力すべき自己啓発の意欲を喚起し、更に助成促進することによって、社員としての資質（人格・知識・技能等）を向上させ、会社の発展に貢献しうる有為な人材を育成することにある。

社是としての社訓と基本方針並びに三カ年計画の社長方針に基づき、各支店教育担当者が、部署の教育研修年度計画をまとめる。その後人材開発委員会において、教育方針の検討並びに各支店ですまめられた年度計画が審議され、

年度計画が決められる。

教育研修推進要綱は別図のように、集合教育研修・職場内教育・自己啓発の援助と三つの柱で構成されている。更に集合教育研修には、階層別教育・職種別教育・特別教育に分かれている。

三、教育研修体系

(一)、集合教育研修の階層別教育

。新入社員研修

新入社員研修では、男子社員は、総合研修・職種別研修を経て、自衛隊に生活体験入隊をする。基本教練、体力検定・築城、野外行進を通じて規律およびチームワークの大切さを身につけ、学生生活から会社生活への転換を図る。時間の貴重さを学ぶよい研修である。その後、CA教育研修をうける。

各職場へ配属され、四ヶ月間のOJTを通じて実習レポートを作成し提出することが義務づけられる。語学力の把握のため、入社時に英語テスト(TOEIC)が行われる。秋から通信教育が開始され、一年後のフォロー研修に備える。

フォロー研修では、経営幹部と実習報告後懇談を行う。夜は先輩社員とコミュニケーションを図る。

現場見学、技術研究所見学後、技術研究所の若手社員と技術開発についてディスカッションを行う。

女子社員は、総合研修を経て、接遇を中心とした研修をうける。

現場見学、技術研究所見学、OA教育研修をうける。フォロー研修では、接遇訓練の見直しと幹部との懇談を行う。

今後労働人口の減少に伴い、女子社員の戦力化は急務となる。女子社員の職務の拡大に伴う職制の変更さらに職種別教育研修(同一職種の全店の研修)が必要となる。

。中堅社員研修

中堅社員研修は、入社五年生を対象として主体的行動の実践、モラルの向上をはかることを目的として、講義・討議形式による一泊二日の研修が進められる。

。初級管理者研修

初級管理者研修は、副参事に昇格した社員を対象として行う。管理の基本的事項を取得し管理能力の向上を図ることを目的としてい

る。対象者の大部分の社員は、人員構成上、現在は使われる側にいるが、今後採用人員の増加に伴い部下の育成を行う必要がある。その心構えを養ってもらおう。

二泊三日の研修終了に際し、課題に対し、グループ討議を行い、その結果につき、所属部の幹部と話し合いの機会をもつ。

。中級管理者研修

中級管理者研修は、副参事に昇格した社員に対し研修を行う。この研修の特色は、経営幹部の講話・懇談を研修中に二回設ける。当社の現状の問題点、将来のあり方などについて話し合う。二泊三日のうち一日は、外部講師を招聘して講義・討議を行う。

。上級管理者研修

外部講師を招聘し、二泊三日として半年後に一泊二日のフォロー研修を行う。対象者は、社内試験を経て、副理事に昇格した社員である。二つの研修は、組織・戦略を主体とした講義・討議形式であり自己診断も含まれる最終日には、経営幹部と話し合いの機会をもつ。

(二)、集合教育研修の職種別教育

職種別教育は、各部署が担当して、専門的領域の知識・技能等を取得させることを目的とした研修である。

別図の研修のうち、建築技術職の研修は、昭和四〇年代から始められ、一週間の研修期間を設け、初級建築研修（入社三年目）中級建築研修（入社七年目）上級建築研修（入社一五年目）に該当する社員を対象として、毎年定期的に研修を行なっている。

その他の職種別教育研修は、単発的に行われてきたが、この要綱が実施されて、営業職土木技術職・事務職・各部支店で漸次研修が行われるようになった。営業職では、年間四〜五回、土木技術職では、土木研修・土木施工技術研修・地質研修（年間三〜四回）更に事務職では、経理・法務研修が行われている。

また海外事業の現地法人化および外国企業との事務協定に伴い、国際人として対応すべき人材の育成が必要となり、現地の大学・ビジネススクールなどへ、実務を通じて参加できる支援体制を考えて

いる。

(三) 集合教育研修の特別研修

・ステップアップ研修会

従来生涯設計研修と称し、定年後の生涯設計の研修を続けてきた。今回ステップアップ研修と名称も新たにし、内容も刷新した。自分の強みとする能力を自ら認識して、それに基づき能力開発を行う。その強みを拡充することにより、自信をとり戻し、やる気をおこす。更に家庭生活も教育にとり込み、家庭と職場を両輪と考え将来の生涯設計をたてることを目的としている。五十才以上の社員を対象とし、約十二人を一グループとし二泊三日の研修である。

・システム(OA化)関係研修会

昭和六一年から、OA推進三年計画がすすめられ、大きな成果を得て終了した。この間ワープロ、

L A N P L A N、L A N F I L Eなどをマスターした社員は、年間二千名を数える。当社関連の教育

研修センター横浜セネックスでは、最新設備のOA機器を備え一人一台のパソコンを与えて教育研修を行なっている。社団法人オフィスオートメーション協会から「OAオフィス賞」を受賞した。この賞は、建設業界では初めてである。

これからは、高度情報化社会に対応するため、OA活動を推進して、企業体質を改善し、あらゆる情報を企業活動に有効利用するよう努める。

・TQC推進研修会

TQC研修は、QC活動を中心に、全店の広がりを持ち、この研修を通じQC手法を取得し日常業務に活用している。更に品質保証活動も盛んに行われるようになった。現在では、トップ方針により方針管理が実施され、年度計画を中心として社長診断が行われている。

(四) 自己啓発援助

自己啓発の援助は、毎年十一月に全社員に対し通信教育の案内を

行う。自己啓発を通じ、個人の能力開発向上に努める。その他図書斡旋を行う。三カ年計画の基本目標であるプロ意識の徹底を図るために、国家試験など公的資格の取得を奨励している。特に今年度は、技術士、宅地建物取引主任者の資格取得に力を入れている。

四、おわりに

教育研修の目的は、受講することにより、他人から教えられるとともに、自己啓発の意欲づけを行うことにある。教育研修は、あくまでOJTを通じ、職場目標達成の過程で、上司、部下相互に資質を向上していくことにある。

特に、職務遂行に当たっては、遠近法を駆使して、木も森も見て、絶えず問題意識をもって解決の道を探る。問題解決中に遭遇する問題(障害物)にメスを入れ、あらゆる角度から眺めて、どのように処理していくかを考えることが重要となってくる。



上級管理者研修風景

欧州建設事情視察研修

6月20日から7月3日までの14日間、第2回海外建設事情視察研修は、(社)日本土木工業協会常務理事の稲見俊明氏を団長に、総務27名のメンバーが、一路ヨーロッパへと飛び立った。その詳細は、別途報告書に取りまとめることとし、以下は、その同行ルポである。

(財)全国建設研修センター
建設研修調査会事務局

セゴビア水道橋

EC市場統合に湧くヨーロッパ

そこには、欧州共同体（EC）市場統合を一九九二年に控えて、活気づくヨーロッパの鼓動が脈々と息づいていた。

サッチャー首相の大英断により、これまでのニュータウン政策を見直し、インナーシティに重点を移して市街地再開発を進めるイギリス。

片や国際金融のメッカと言われるロンドンに刺激されたように、文化を産業振興の根幹に据えて、再開発にも活気が出てきた世界都市パリ。

そのロンドンとパリも、従来、連絡船経由で六時間もかかっていたのが、現在建設中の英仏海峡トンネルを経由して、一九九〇年代末までには、仏超特急TGVでわずか三時間で結ばれることになるという。

EC統合の一九九二年という年は、スペインにとっても特別な意味を持って迎えられる。外国企業や金融機関の進出ラッシュで国中が活気づくスペインは、一九九二年のバルセロナ・オリンピック、セビリア万国博覧会の開催を踏み台にして、世界に向けたさらなる飛躍をもくろんでいる。

三億二千万人の統一市場形成を目指し、祭りの前にも似た高揚を見せる欧州、そのビッグプロジェクト等、建設事情について感じたままを以下、要約して記してみたい。

建設が進む「英仏海峡トンネル」

英仏を結ぶ「三度目の正直」なるか

イギリスとヨーロッパ大陸は、幅わずか40キロ足らずのドーバー海峡で隔てられている。このわずかな隔たりを、過去二度にわたる着工と挫折により「決して建設されることのない最大のトンネル」とまで言われて、英仏間の大きな障害としてきたのは、両国間の政治的緊張や文化的対立によるものであった。

約二〇〇年前、海底トンネルの建設が英・仏の技術者の心を捉えて以来、幾多の困難を乗り越え、一九八六年一月二十日、英仏両国の首脳が建設について合意、一九八七年七月に工期約六年、総額約一兆二〇〇〇億円の民間活力による大プロジェクトとしてスタートした。

TMLを訪問して

TML(Trans-Manche-Link)とは、英仏両国、それぞれ五社の設計業者で構成される英仏海峡トンネル建設共同企業体である。

われわれ視察団を案内・説明してくれたのはTML側の安全管理担当者であるアランサンチエント氏ほか二名。

安全面の理由から本坑内には入れなかったものの、TMLインフォメーションセンター、現場内コミュニケーションセンター、ユーロトンネルエ

視察研修訪問先リスト

月日／都市	訪問（視察）先	時間	視察研修のポイント
6月21日(木) フォークストン	英仏海峡トンネル視察	9：30～ 16：00	①トンネル工事の概要と現在の稼働状況 ②計画・施行の実態および労務、建設資・機材の調達方法 ③フォークストン市内および陸上部ヤード周辺視察、TMLビジターセンター見学
6月22日(木) ロンドン	ドックランズ開発公社	9：30～ 12：30	①開発の概要説明の後、エンタープライズ地区、アイル・オブ・ドッグズ地区、サリー・ドッグズ地区の視察 ②インナーシティ問題の解決策について
6月26日(月) バルセロナ	オリンピック施設事務所	9：30～ 12：30	①競技施設および関連施設の工事規模と概要、現在の進捗状況 ②施設建設の留意点および工事の施行管理体制と、その実態
6月28日(木) モンペリエ	グランド・モット	12：00～ 15：00	①リゾート開発の規模と概要 ②リゾートエリアにおける居住地区、レジャー活動地区、オープンスペースの開発状況 ③交通アクセス、港湾施設、文化・レジャー施設等の需要度と将来予測について
6月30日(金) パリ	サンカンタン・イーブリ再開発公社 モンティニュー市役所訪問	9：30～ 15：00	①再開発地区の規模、事業概要と運営方法 ②駅住接近等、ニュータウン建設に関して

キシビシヨンセンター、現場事務所内のTBMコントロール室や緊急対策室等にて、事業概要説明を受け、その都度、施工法や工程などについて質疑に応じてもらった。

特にその運行計画については、旅客・貨物の列車運行だけでなく、自動車の輸送を考慮した「シャトルカー」によるサービスを予定しているという。すなわちトンネル内は二本の鉄道用

トンネルから成り、その中を客車とシャトルカーを走らせるというものだ。

そのシャトル利用の場合、フェリーの約半分、三時間の短縮となり、飛行機に十分競合できるものとなるらしい。

延長約50kmと長大で海底トンネルであることから、わが国の青函トンネルと比肩されるドーバー海峡トンネルであるが、ともに土木技術の粋を集めた、後世に残す世紀の大プロジェクトとして重要な役割を演じ始めている。

欧州建設事情についてのセミナー

英仏海峡トンネルを視察したその日の夕刻より、鹿島建設ヨーロッパ統括営業所の田島副所長と英国企業留学中の門間氏をホテルちかくのバンケットルームに招き、イギリスにおける建設工事受注、施工、施工管理等についてお話をうかがう。

長旅の疲れと時差ボケで朦朧としているはずの団員諸氏であったが、質疑応答は一時間半にも及び、現地で奮闘されている生の声に耳を傾けることしばしばであった。

その内容については、報告書に委ねるとして、団員の一人、武石氏の感想を付しておきたい。

「技術的には日本のほうが上ということだが使われる身としては、工期に追われないゆとりをうらやましく感じる。日本では労働時間の短

縮が叫ばれ、ゆとりの社会に向かって一歩を踏み出したばかりだが、外国の物真似でない、日本の風俗習慣にあったゆとり社会が出来ればと思います」

再開発が進むロンドン・ドックランド

——民活で変容するウォーターフロント——
ロンドンの「ドックランド再開発」が世界の注目を集めている。かつてテムズ川添いのさびれた港湾地区を、内外の民間資金を導入し、二十一世紀までに新たな国際情報都市に変容させるビッグプロジェクトだ。

視察団が訪れたLDDC（ロンドン・ドックランド開発公社）は、民間人を多数登用し、外部コンサルタンの起用も常時行われている。特にわが国の公社・公団と異なるのは、ドックランド開発という初期の目的を達成した時点で解散する組織であるということ。

LDDCビジターセンターにて広報担当官から開発を担当している地域について説明・質疑応答を受けた視察団は、開発地区をバスで見学した後、チームズバリアー付近からウエストミンスター船着き場まで、水上バスによる視察を行う。

ゆつたりと流れるテムズ川の上、船内からながめた水辺空間は、自然の水際をフルに生かして再開発を進めていこうとする姿勢に感心さ

せられる。

また、われわれの宿泊したホテルのあるワッピング地区でも、伝統的風景をできるだけ残したり、倉庫を改造してアトリエや商店に再生している様子は、日本のウォーターフロント施設の再利用を思い起こさせはしたものの、やはりそのスケールの大きさに驚かされてしまう。

ロンドンカラーの赤と、さびれた煉瓦造りの建物、そのコントラストが洗練された落ち着きをかもしだしているのも、古い伝統と地震のない土地柄によるものか。

シテイ・オブ・ロンドン。金融街へ出勤する人々は、遅刻しそうになっても決して走ったりはしない。あくせくしてもしょうがないとするライフスタイルは、建設工期に追われたくないとするゆとりにも通じるのだろうか。

バルセロナ・オリンピックに向けて

いま、スペインがおもしろい

スペインに入ると、団員の顔が何となくホッとした様子に見えたのは、暮らしやすい温暖な気候、人なつこく明るい表情の人々、安い物価などに親しみを感ずり取ったせいであろうか。スペインで老後をと考えている日本人が多いのもうなづけるおおらかさがここにはある。

EC（欧州共同体）に加盟して先進国グループの仲間入りを果たしたスペインを称して「の



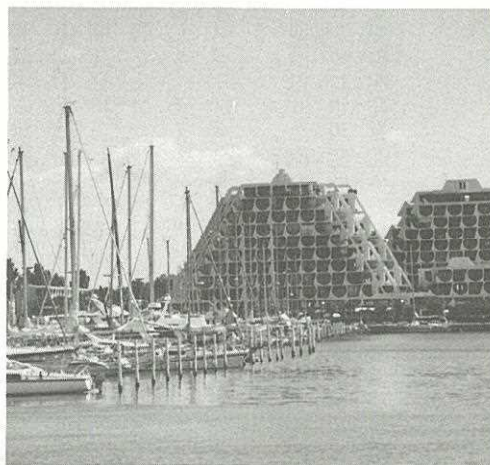
建設が進むオリンピック競技場

ろまなカメラがウザギに変身した」と、米ニューズウィーク誌が報じていたが、バルセロナ・オリンピックを経済再建への飛躍台にすべく、競技・関連施設の建設は進んでいた。

かつて一九三六年、市民戦争勃発のため、オリンピック開催を棒にふったスペインだが、そのときにつくったスタジアムなどの建物を利用して、点在する美術館や博物館、風光明媚な自然環境を大切に保存しながら、一九九一年末までには完成予定という。

地中海の海と空をあらわす青、太陽の黄、炎の赤。これは、バルセロナ・オリンピックのシンボル・マークの色である。天才建築家ガウディに代表される芸術を愛し、音楽や祭りを愛し、学術研区に熱心な都市・バルセロナ。気がかりなのは、若年層の失業者が多いことか。

建物の下から使った照明で、あやしく浮かび上がる夜のマドリッドは、見事な光の街。



リゾート基地、ラングドック・ルシオン

南欧にリゾートの模範を見る

ラングドック・ルシオン地方

名残惜しい思いでスペインを後にして、特別バスで、フランスのナシヨナルリゾート、ラングドック・ルシオン地方を行く。

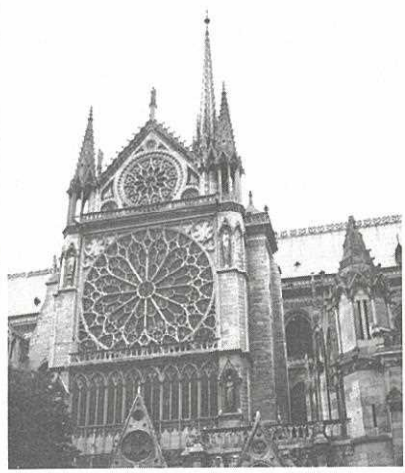
ピレネー山脈の裾野にある国境を越えると、次第に木の色、家々のたたずまいが、淡いパステルカラーに変わっていくのが心地よい。

バスは、紺碧のリヨン湾に添った海岸線を延々と走り続け、モンペリエへと向かう。その海岸線一帯に広がるラングドック・ルシオン地方の開発計画面積は二万五千ha。見るべき産業もない不毛地帯を、一九六〇年代前半から国家プロジェクトとして開発しているものである。

この海洋性リゾート開発は、世界中から余暇開発の代表的事例として注目されているわけて



モンティニュー市営幼稚園の子どもたちと



パリ・ノートルダム寺院

あるが、では昨今、わが国で脚光を浴びるリゾート開発とどう違うのか。

それは何よりも、あくまで大衆のためのリゾートであるということ。家族四人がリゾートマンションに一週間滞在して、宿泊費が平均約四万円という数字だけとってみても、それを物語っていると言えよう。

まして、年五週間の有給休暇が制度化され、一人年間平均一ヶ月弱の余暇旅行にでかけるフランスとしては、自由時間政策に費やした歴史(考え方)の違いが如実に出てしまうのは、仕方のないことであろうか。

ただ、根幹的な基盤整備は国、面整備は地方公共団体を中心とする第三セクター、上物整備は民間という、役割分担が明確な開発システムには学ぶべき点が多い。

パリのニュータウン事情

サンカンタン・イーブ리를訪ねて

六月二十九日、フランス超特急TGVでマルセイユからパリのリオン駅に向かう。

パリは小雨模様。

革命二〇〇年を機に新しく変身したといわれるパリ。文化と歴史が入れ混じって開発が進むパリ。ルーブル美術館の中庭に出現したガラスのピラミッド、バスチーユ広場に建設中の第二オペラ座、デファンス地区の超モダンな新凱旋

門……。それら新旧のモニュメントを前にして、過去・現在・未来という壮大な時間の流れを感じるほどに心が踊る。

訪問したサンカンタン・イーブリー地区は、七五〇〇ha、人口十二万人、都心部の地方拡散をねらったニュータウンである。

そこでの目標は、パリまで仕事にいかず地元で働く職住接近とのことで、駅の周辺にオフィ스가集まり、一年間は職業税が免除されるらしい。ただ、驚いたことには、区域内の農地が一㎡当たり三フラン(約六三円)で買収されたのが、工事後には㎡あたり三〇〇〜四〇〇フランにはねあがるという。

そうした強制買収に対する抵抗はなかったんですか?という質問に対し、公共事業でもあり、むしろ若い層の流入は喜ばしく受け取られた、という答えが返ってきた。国家権力の強さをも示しているのだろうか。

その後、予定外の訪問ではあったが、地区内のモンティニュー市営幼稚園に招かれる。

幼稚園児が日本に興味を抱いて勉強しているとのこと、自分達でつくった大きな絵(日本をイメージしたもの)を視察団にプレゼントされ、われわれの胸を熱くさせてくれた。

しばし外国へ行くと、日本の情報が遮断される分、近くてみえなかった日本の良さも欠点も見えてくるから不思議だ。今回の視察研修が団員諸氏の今後に反映されることと信じている。

平成元年度

米国マサチューセッツ工科大学
海外集中研修を終了して

「ウォーターフロント開発の理論と実際」

Workshop on Ideal and Actual Waterfront Development
in North America for Selected Japanese People

(財)全国建設研修センター
建設研修総合研究所

はじめに

(財)全国建設研修センターの創立25周年記念事業の一環として、スタートした海外集中研修は、本年度で第3回目を迎え、建設省の後援、米国マサチューセッツ工科大学(MIT)との共催により、全国各地から多数のウォーターフロント関係者に参加いただき、米国で最も歴史のある、ボストン・マサチューセッツ工科大学において実施され、予定どおり全日程の研修を終了した。

本年度の海外研修について、企画の段階から建設省をはじめ各関係機関の方々に御協力を賜わり、誠にありがとうございました。

併せて、研修参加者、MIT、講師及び通訳の方々に深く感謝し、厚くお礼を申し上げます。ここに、本研修実施に関する所感を述べ概要を紹介いたします。

一、研修目的

近年わが国の各地において、クローズアップされている「ウォーターフロント」に関する対応能力の向上を図るため、ウォーターフロント開発によって、「ボストンの奇跡」として、見事に都市を蘇生し、アメリカン・ドリームとして世界的に話題を呼んでいる、北米、ボストンのウォーターフロント・プロジェクトの事例を教材として、伝統的なMITの環境、キャンパ

スにおいて、ユニークな教育手法により、ウォーターフロント開発に関する新しい情報、技術知識を修得するとともに、MITの教授や関係者などと意見の交換をはかり、両国の相互理解を深めながら国際交流を推進することです。

二、研修参加者 31名 (平均年齢38才)

研修対象者は、ウォーターフロント開発又は海外事業に関心の深い者とし、全国各地からウォーターフロントに熱心な、女性2名を含む、31名がこの研修に参加された。

参加者の顔ぶれは、市役所、公園等の行政関係8名、ゼネコン7名、コンサルタント13名、大学等3名で、分野別では河川、都市、交通、建築、地理などと多岐多彩に及んだ。

三、研修期間

平成元年7月9日(日)～7月25日(火) (17日間)

四、場所

(1) 東京晴海、日本離島センター

(2) 米国マサチューセッツ工科大学

(ロサンゼルス、オーストラランド、ニューヨーク、サンフランシスコの視察を含む)

五、研修コーディネイター

MIT建築計画研究所長 マイケル・ジョ

ロフ教授

六、研修マネジメント

全国建設研修センター

七、本年度の研修カリキュラムの特徴

(1) 東京晴海における国内事前研修(2日間)

月 日	研修カリキュラム
7/9(日)	結団式：研修オリエンテーション（東京晴海——事前研修） 「我が国におけるウォーターフロント（W・F）開発」及び視察
7/11(火)	成田発→ロサンゼルス着……（日付変更線通過）…… マリナデルレイ、センチュリーシティ、チャイニーズシアター視察
7/12(水)	ロス発→オーランド着、エプロットセンター、ディズニーマワールド視察
7/14(金)	オーランド発→ボストン着 MIT研修オリエンテーション 「ボストンの開発計画とW・Fの役割」
7/15(土)	「米国、ボストンにおけるW・F開発計画システムとその応用」 ネービーヤード、ロープワーフ、クインシーマーケット、ファンピア視察
7/16(日)	「マーブルヘッド、ロックポートのWF開発」とその視察 「ファンピア：ケーススタディの紹介及び研究の進め方」—(夜)
7/17(月)	「北米及びボストンにおけるW・F開発」 ケース・グループ研究—(夜)
7/18(火)	自由行動日
7/19(水)	「ローズワーフ開発、W・Fの将来展望」 グループ研究—(夜)
7/20(木)	ケース・スタディ、グループ研究発表、ディスカッション、評価
7/21(金)	ボストン発（アムトラック）→ニューヨーク着
7/22(土)	「ニューヨークのW・F開発と展望」バッテリーパーク等視察 修了式：ニューヨーク・マンハッタン、サウスストリートにて
7/23(日)	ニューヨーク発→サンフランシスコ着、ゴールデンゲート橋、ピア39視察
7/24(月)	サンフランシスコ発……（日付変更線通過）……7/25(火) 成田着

わが国におけるウォーターフロント開発のあり方や現状を把握し、MITの研修に資するため、官、学、民のそれぞれの専門家から講義を受けるとともに東京湾の埋立地（ゴミ処理）及びウォーター開発の現地視察を行なった。

(2) 東京—ボストン間の時差、ボケ対策
11日午後6時成田発、11日午前11時50分ロサンゼルス着、米国への旅は、日付変更線をこえるところから、時差を生じる。昼と夜が逆転し、2〜3日間、調子が狂ってくる人がいる。これが時差ボケである。これがため、早く

アメリカ時間に慣れ、目的地ボストンにおいて速やかにMIT研修に対応できるように下記「時差ボケ」対策を講じた。

(1) まず、ロサンゼルスに到着（一泊）し、市内及び世界最大のマリナーとして有名な、マリナー・デル・レイ（偉大なマリナー）を視察し気分を楽にする。

(2) 次に、フロリダのオーランドに2泊し、広大なスケールのディズニーマワールド、大人の科学館エプロット・センター等のレジャー及びウォーターフロント施設を見学し、アメリカの

予備知識を得て一路ボストンへ向った。
7月14日、午後5時ボストン・MITベーカーハウス学寮に到着、落ち着く間もなく、夕方7時から夕食会、その席で自己紹介があり、引き続き、エド・ローグ元ボストン再開発局長の講演が始まり、ハードなMIT研修がここにスタートした。

(3) ファン・ピア地区事例研究（ケース・スタディ）
この事例研究は、本研修の目玉とも云える、ウォーターフロント開発の構想立案作成であり、実戦的なケース・スタディである。この地区は、扇の形をしているところから、ファン・ピアと呼ばれ、現在、殆んど土地が空地や無人の倉庫で荒廃化している。しかし、ボストン市の金



マイケル・ジョロフ教授の講義を熱心に受講する研修参加者

融中心街から僅か一・五キロメートルの近くに立地し、しかもボストン湾沿いの公園、ホテル、マリナーに隣接し、ボストンに残された最後の価値ある再開発用地として、ボストン市、民間デベロッパー、各市民団体などから注目され、永年に亘りホットな議論が戦わされてきた。

このような背景にかんがみ、ボストン再開発局は、本年4月、この地区（35エーカー）の再開発計画の基本となる都市計画設計ガイドライン（指針）を発表した。今後は、これに基づき、官民のコンサル等による開発計画のアイデア、コンペが熱く展開されることであろう。

我々の事例研究は、これに先がけて行なわれたものであり、まず、ジョロフ先生からケースの意義、進め方について、次いでMIT都市計画学部長タニー・リー先生からファンピア地区の歴史的背景、ガイドラインについて説明があり、参加者は、ジョロフ先生から名付られた架空の会社の三班に分れてグループ研究に取り組んでいった。

①ボストン・ノーマン灯台開発株式会社

②ロス・ケンドール建設開発公社

③鹿兒島不動産インターナショナル

各グループは、まず、各自が属する会社のイメージ作りから始め、グループ全員が参画するよう役割分担を決め、毎夕食後7時から討議を行ない、11時過ぎまで議論白熱し、深夜に及んだグループもあった。

ジョロフ教授、タニー・リー教授は熱心に指導アドバイスされ、それに続き、連東さんとジャネットさんの的確でさわやかな通訳、しかも日中に続き連夜、9時半頃までの仕事熱心さとアメリカン・ビジネスのタフネスには驚かされた次第です。

MIT最終日、各グループ代表（社長）から、開発計画が発表され、会社のイメージ、シンボルマーク、構想アイデアそして内容が全体の場で始めて披露された。それについて全員による全体討議、ディスカッションを行なった。アイデアに富んだ見事なプレゼンテーションに、各班のきびしい質疑がとび交い、応答のキャッチ・ボールは、ジョロフでかわす人もあり、本来このケースに引きつけ、笑いをよぶシナリオがあったのかも知れない。

最後に、タニー・リー先生からグループ研究に対する講評があり、その中で「ボストンの公聴会が、これほど活気で笑いに包れたことはありませんでした。貴方方の、このユニークなアイデアを是非ボストン市民に紹介したい」とジョーキングなコメントをいただき、ファンピア、ケース・スタディを終了した。

(4) 研修マネジメントの強化

研修の効果を高めるため、従来、海外研修においては、日本人コーディネイターの同行が一般的とされてきた。しかし、最近の受講者は、情報化時代に即応し、問題意識及び技術レベル



タニー・リー教授のアドバイスを得ながら、ケース・スタディは深夜に及ぶ。

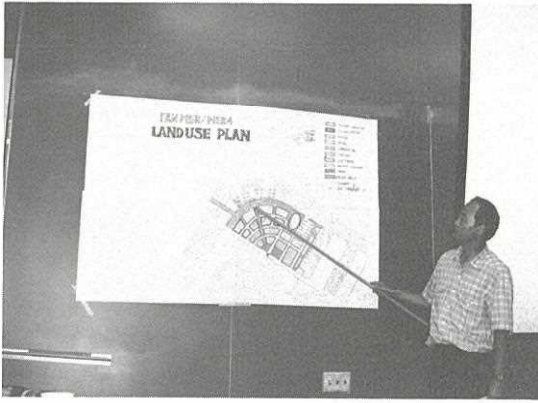
も高く、中には海外経験者もあり、また、受入側の教育手法などから、MITとも協議のうえ、本年度は、日本側のコーディネイターは置かないで研修を実施することとした。

海外研修の成功のカギの一つに、研修のマネジメントがある。MITのコーディネイターやアシスタント、通訳そして研修員との間に立つて、研修に関する問題について、注意を払い、如何に調整し、研修を運営していくかである。今回の研修は、ジョロフ先生、ボニーハフナー秘書の協力、二人の通訳、そして何よりも研修

受講者の積極的な参加があったから、研修マネジメントがうまく出来たものと思う。

研修あれこれ日記

MITにおける講義は、半日単位で、中には休憩なしで講義する先生もあり、通訳は二人とは云え大儀であった事と思う。然し、どの講師も、ジョークを巧みにとり入れ、質問を促し、アクション豊かな講義は、意外と時間を感じさせなかった。講師を目指す人は見習うべきであろう。中でもポストン再開発局長のユイル氏は、デユカキス、マサチューセッツ州知事の有力なブレインとして、多忙な日程にもかかわらず、



ケース・スタディの成果（ファンピア再開発案）をプレゼンテーションするグループ代表

半日割いての熱演、そして研修員との対話は、特に印象的であった。然し、講義が長いと、ポストン市条令により、MIT庁舎内では禁煙となっているので、スモーカーの人達にとっては、チョットこたえたのではなからうか。

今回の研修は、朝から夜までミッチリと実施されたので、殆んど外出するチャンスがなかった。研修中日の自由行動日は正に「忙中に閑あり」で市内見学、ゴルフ、洋上鯨ウォッチングに分れて、フリー・デーを楽しんだ。ゴルフは一人三千円、今にも折れそうな古い貸クラブを共用、以外と混んでいたが、陽気なアメリカ人と何よりも安い料金が救いであった。大西洋上の鯨ウォッチングは、ダイナミックで日本では仲々見られない光景で、欧米人には人気がある。然し、船酔いに強いことが必要条件とか、

ポストンからニューヨークへ、列車の旅も良しと、アムトラック（汽車）の四時間半の旅は、沿線の風物が見られて楽しいものだった。

ニューヨークは世界の都市でもあるが恐怖の都市とも云われている。以前、地下鉄に乗ろうと思っただけで、入口が暗く、また変な落書きに圧倒され、足が凍らしてしまった事があった。今回、MITの修了式はバッテリーパークの見学を兼ねて、ハドソン川沿いのレストランで行われた。マンハッタン六番街のホテルから、バスで行く予定にしていたが、手違いで一向にバスが来ない、仕方なく地下鉄に切り替えた、ジ

ョロフ先生や連東さんに案内されて、噂のニューヨーク地下鉄の客人となった。入口付近は相変わらず薄汚いが電車の中は意外にきれいだった。望外の体験に全員がニューヨークのミステイクを喜んだ次第です。

最後の訪問地、サンフランシスコは、霧に霞むゴールデンゲート橋や丘の多い美しい街として有名である。気候は肌寒い位で快適、世界一を誇るワイドな高速道路、シスコ湾沿いのウォーターフロントは、ピア39などの賑いに見られるように、「市民のためのウォーターフロント再開発」であると印象を強くした。然し、全米で最も安全で美しい街と云われながらも、最近、街角にはホモが見られ、エイズなど大都市がもつ悩みを聞かされた。

おわりに

ジョロフ先生の熱意、リー先生の事例研究、ボニー秘書の協力、連東さん、ジャネットさんの心温まる通訳、中国飯店での乾杯、大味なロブスターなど米全国各地での体験そして想い出は限りなく、本研修を通して触れ合った方々との国際交流の余韻を未だに感じます。

また、参加者は米国を各自の目で確かめられ、対話や交流により自己啓発を促すなど、有意義な研修であったと評価されたが、反省すべき点もあり、更に「海外研修」の充実に努力したい。

陝西機械学院創立四十周年 記念式典に招かれて



学校法人 明倫館 国土建設学院
理事長

上 條 勝 也

平成元年四月末、中国陝西省西安市にある陝西機械学院（土木系軍科大学）創立四十周年記念式典に招かれる機会を得た。

北京空港に降り立ったわれわれ一行四名は、北京政府の幹部をはじめ、機械学院関係者の熱烈な歓迎を受けた。

新中国建国四十周年を迎えて

今年、新中国建国四十周年を迎えるとともに、一九一九年の学生決起を記念する五・四運動七十周年に当たるといことで、市内の官公署等の主要建物には、中国現状の危機や、要求を訴える中国文字のスローガンが、真赤な垂れ幕に掲げられていた。中国の近代化を進めるための政治、経済の改革は容易ではなく、相当長期の年月を要することは、中国当局でも明言してきたところであるが、最近、一党支配による官僚の悪弊や闇商売の腐敗、インフレに苦しむ国民生活の重圧等で、社会混乱の引き金にもなるような要因が、とみに報じられていた。このような背景の中で、たまたま、この四月、開放、近代化の強力な推進論者であった元書記長、胡耀邦氏の失脚から、突然の死去という事態や、ペレストロイカを推進するソビエトのゴルバチョフ書記長の訪中予定があった。こうしたことも刺戟剤になったようで、ともかく中国最高学府とも言える北京大学の学生を中心に、全国各

地の大学生、市民らは、自由、民主化を叫んで一斉に立ち上った。そして、四月下旬頃から政府と学生代表との間で、話し合いが続いている一時平穏の合間に、われわれ一行は中国入りをしたことになった。

北京空港から市内へ向かい、長安街や天安門附近、さらに、王府井などを通ってみたが、二年前の訪中時と同じように、何の異変も見られず、丁度季節的には柳の花が舞う初夏でもあり、純白で、まろやかな真綿が空中を縦横に飛び交う光景は、まさに幻想的な感じさえして、あの忌わしい天安門事件が間もなく、ここで起ろうなど、ゆめ考えられないくらい平和なものだった。われわれ一行は、日本での報道をすっかり忘れ、安心して切って西安空港に降りた。久しぶりに機械学院側の幹部と挨拶を交し、日中友好の固い絆を再確認できたわけである。

国際色豊かな祝宴に招かれて

五月一日の式典当日は、いつもは黒煙で霞みがちの西安市の上空も、雲一つない碧空の好天に恵まれ、この記念日を万物挙げて祝福するかのようだった。われわれもまた、今日の目を心から祝い、この学院との学术交流が、未永く友好の中に発展することを希いながら、式典に参列した。

構内の広い運動場の特設の演壇には、中国政



次期計画を討議する意見交流会議

府の幹部をはじめ、日本、西ドイツ、フランス等、学術交流中の各大学の代表者ら、数十人が整然と並んだ。日本側からは、京都大学、福井大学、日本大学とともに、われわれ一行も加わることができた。演壇に面した会場が、中国全域から参集した関係来賓者、卒業生等、数千名で埋まる中で、各代表の、学院の歴史と伝統と発展を讃え、将来への飛躍を熱望する演説が延々と続く中で、その口調の抑揚に応えるかのよう、割れるような拍手が、何回となく会場の周辺に響き渡る。何百羽の鳩が飛び立ち、五色

の風船が中天高く舞い上る。中国四千年の歴史から見れば、ほんの一瞬のイベントではあっても、われわれ一行にとっては、一衣帯水という親密さも手伝って、大いなる感動を覚えた。中国の儀式の伝統らしく、厳肅な式典も、中国国歌の音楽演奏とともに無事終り、われわれは、校内施設、作品展示などを見学し、当夜の国際色豊かな祝宴に招かれ、和気藹藹の中に祝典の幕は閉じられた。

国情をこえた、相互の交流を図る

翌日、協定に基づく意見交流を行なうことができたが、正式な通訳なしで、お互いに、相手側の心を少しでも理解できたことは、何回かの交流の賜でもあり、誠に意義深く、喜ぶべきことであつたと思う。問題は、両国の国情の違いや、双方の専門的、かつ技術的な格差をいかに克服して、幾つかの検討課題を、今後円滑に処理していくかということであろう。

まず、交流協定に至った経緯を考えてみると、当初、建設省の指導で、全国建設研修センターが、土木施工管理の講義に訪中したのがきっかけで、先方から、将来とも土木及び測量等についての教育、研修の交流をしたいとの熱心な要請があつた。国際化社会に向つて、また、法人設立の目的からも、誠に時宜を得たものとの考えから、全国建設研修センターと、測量、土木



祝辞を述べる40周年記念式典演壇

等の建設技術の教育機関である、わが国土建設学院とが共同で、陝西機械学院水利水電学院と学術交流の協定に調印することになったものである。

協定の主なる柱は、学者の相互派遣と講義、共同研究及び定期学術交流会議の三つであり、その覚書調印を、昭和六十三年五月十六日に行なったものである。早速、翌平成元年三月に、学院側から測量、地図製図の講義に職員を派遣し、同年六月には、先方から土木技術者を受け入れ、主として、ダム関係の高度な技術、知識

を吸収するための実地見学と、研究討議を中心に、相互の交流を図り、今日に至っているわけである。

この度の意見交流会議では、先方は、共同研究を熱心に要請していたが、当面は検討課題とし、また、来年の計画では、土木技術者を派遣することと併せて、学術交流会議を西安市で開催することとなった。その会議では、主として、ダムの施工、管理、設計について、新しい技術の研究論文発表を要請されたので、既に関係方面に準備の手配をしているところである。



戒厳令前の天安門広場 (1989.4.30)

国づくりに寄与する建設技術交流

中国の国づくりにとって、経済社会の発展は、切っても切れない最重要であり、また、中国の現状から考えて、経済先進国の援助なくしては、その成巧のあり得ないことは申すまでもなく、特に、わが国と中国は、歴史的、地理的に考えても、どの国よりも相互協力が必要とする関係にあり、両国とも、その方向に変わりないものと思う。

建設省の建設白書を見ても、建設分野における国際協力については、経済技術協力を通じて、立ち遅れている経済社会基盤の整備を進め、雇用機会の創出、建設技術の移転をもたらず、相手国の国づくりに寄与するという、積極的な姿勢をうたっている。また、その具体策として、研修生の受入れ、要人の招へい、専門家の派遣



日中交流関係資料を並べる展示室

等を積極的に講じていく必要があるとして、既に建設省当局では、建設技術者等の派遣、受入れに対する施策を行なうなど、日中の建設技術交流の拡大に努めておられることは、誠に喜ばしいことであり、われわれ関係者としても意を強くするものである。

日中友好の懸け橋にと願って

財団法人全国建設研修センターは、寄附行為の中に、海外建設研修生の受け入れ、建設研修生等の海外派遣の事業を明確にされており、また、わが国土建設学院としては、測量、土木等の技術、知識の付与について、長年、実践的な教育方針をとって今日に至っており、卒業生の一部には、海外派遣の実績もあり、今後も引き続き国際性豊かな卒業生を内外に送り出すことは、国際化する二十一世紀へ向っての教育事業を担うものとして、大事な責務でもある。かかる意味からも、われわれ両団体が協力して、この日中学术交流がより発展し、ひいては、日中友好の懸け橋に、少しでも役立つことを心から切望するものである。

現在、北京の戒厳令は、いつ解除になるか予測はできないが、友好隣国のわれわれとしては、一日も早く中国が、国際社会の中で、信頼と友好のもと、発展の途を歩む兆しが見えることを心から希わずにはおられない。

革命200年祭を迎えたパリの都市美



パリでは、美が先行する。美は幸福の最大の条件である。パリの人達は、生活が便利だけでは幸せにならず、便利なうえに、生活が美しくなければ幸福でないという人が圧倒的に多い。パリの都市形態は、精神が、美の理想と考えたものにむかって意志的に近づこうと努めた結果に生まれたものである。(辻邦生氏「パリ」から)

フランスにおける都市計画の理念には方正 rectitude、眺望 perspective、明瞭 clarté という特性が見られる。これは、フランス人の意志的、持続的秩序感が石の文化からきているためである。しかし、このような硬質的な空間を支えている、例えば、ファサードの連続体としての街路を見ても、それは、街路に続く公園との間にリズム感を生むことによって動的な都市景観を構成しているという広がりがある。このような軸線の、最も壮大なもの、それは革命200年祭を目標として進められてきたビッグ・プロジェクトの一つであるテッド・デフアンスから東へ、エトワール広場、シャンゼリゼ、チュイルリー公園、ルーヴル宮殿、リヴォリ街、バスチユ新オペラ座に至るパリを貫く大軸線であり、壮大な都市構造を演

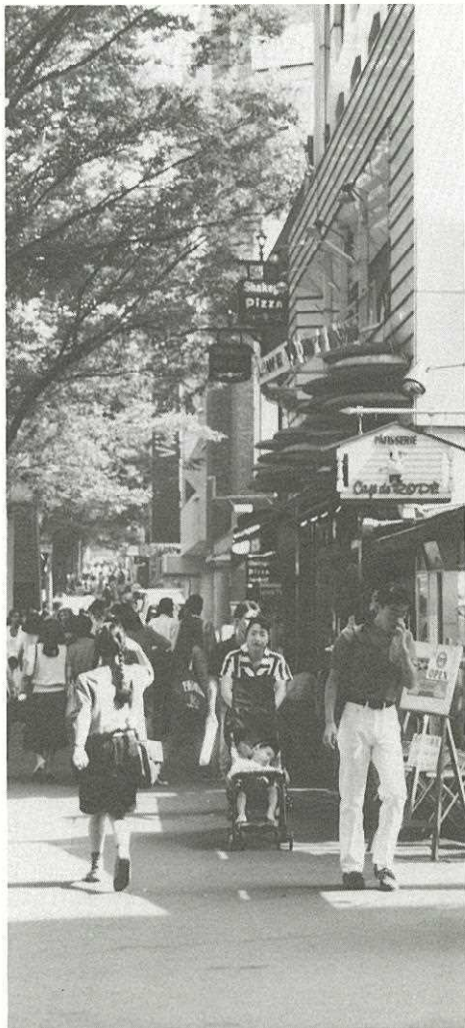
出している。

テッド・デフアンス、ポンピドゥー・センター、レ・アル、ラ・ビレット、グラン・ルーヴル等の個々のビッグ・プロジェクトには、フランス人のもう一つの特性である楽天主義を見ることができ、全体の都市構造との関係において、都市の魅力を醸し出している。

アトリウム(中庭)の存在も都市構造の一つの要素となっている。街路のファサードから裏側のアトリウムに入ると、賑やかな街路と全く異なった静穏な雰囲気味わえる。これも生活に美しさを求める表れとみることができよう。長い歴史の間に作りあげられてきたパリを愛するフランス人は、アンドレ・マルロー文化相の提唱によってパリ全市の建物を洗浄するといった壮大な意図を發揮する。また、いかにして美的な町並みを維持し再生するかについての努力が続けられる一方では幾何学的造形のニュータウンがある。

このようなフランスから、今日論議の盛んな都市デザインを実感し学ぶため、パリ・ソルボンヌ大学(写真)におけるワークショップが、来年度、全国建設研修センター研修局により実施される予定である。パリ・ソルボンヌ大学都市計画研究所側も、当センターを国際関係機関の一つとして記事にするなど協力関係が進められている。

(山内恒雄 記)



時代の推移を常に見つめつつ

船井 正孝

(株)自栄製作所

今回の研修では、商業施設の再開発、時代のニーズにあった環境づくり、ということと、街の活性化のための、コミュニティ・マートづくりなど、非常に興味を覚えた。商店街の環境整備計画を行う際は、行政との折衝と助成金の利用方法など大変勉強になった。地元商業者との問題は理解と説得、それに彼等のリーダーの素質が重要であり、地域密着ということがポイント。

そして、施設の快適性、利便性、特に快適という点では、自然を多くとり入れるべきで、

海外では、その点施設の空間演出は素晴らしい。日本と違い店主の協調性があるのだろう。SC(ショッピングセンター)にしても時代時代で変化があるが、プランニングから十年というところ、相当先を見越した計画でなければならぬ。商業空間開発という仕事は、時代の推移を、常に見つめつつあらゆることに興味を持ち、雑学と綿密な調査をモットーとして努力していきたい。

高空間活性化の必要性を深く捉えることができた

亀井 雄志

(廣容建築株)

受講している間に日頃の思い、疑問、悩み等が浮かんで来た……或るものは、スッキリ

と、又逆に迷いが深まったり……。しかし結果は非常に実りの多い研修であった。今後はさらにより深く日常の研鑽を積み重ねればと、改めて覚悟した次第です。大きなスパンで商業空間を捉え、見つめられたことは、日常、ハード・ディテール面に傾斜しがちな私にとって、大きな流れとしての高空間活性化の必要性を深く捉えることが出来、よい収穫となった。

この視点で、本来の業務を見つめる時、必ず新しい切口が我々の仕事の精度、魅力を高める結果を生み出してくれそうな確信がもてた。

今後の業務に役立つことばかす

深谷 幸夫

(南オリエンタル企画)

研修のご案内をいただき、ぜひ参加したいと思ひ、すぐに参加の申し込みをしました。店舗及び高空間は、毎年どんどんと変化して行く一方で業務上その変化に対応できるだけの勉強時間がなかなか取れなく、自分の思い付きと経験から判断しがちな点があった。今回の研修は、諸先生方の問題に対する切り込み方や解決方法等そのご苦心・ご苦労等を含めて、自分のものとし、今後の業務に役立つことばかりでした。

欲を言えば、ミクロサイズの店舗・商空間

についての話しもさらに伺いたかったと思う。

ソフト面のノウハウを求めて参加

鈴木 康之

(シミズ舞台工芸株式会社)

私はいままで、店舗及び博覧会等の内外装デザインを担当してきた、ハード面においてはそれなりの知識を持っているつもりですが、いざソフト面となると首をかしげてしまう事が多々ありました。

今回この研修会に参加する機会を得てソフト面のノウハウを少しでも体得できたらと思えました。経験豊富な講師の方々のスライドを交えた講義に、時間の経つのも忘れて聞き入ってしまいました。多少法律的・行政的アプローチの講義は難しかったが、他の講義に關してはもっと時間をかけて話していただきたい程でした。

今後の希望として、一つのテーマ設定によるディスカッション等も取りあげてほしい。

実際のまちづくりの場で生かしたい

佐々木 隆一

(株式会社フラム計画設計研究所)

講義を通して実際の事業化にあたっての苦

労、苦心については当方も、共感するところが多く、その意味で今回の研修に参加してよかったと思っている。

特に、ハード面だけでなくソフト面の開発に力を入れている点で、事業を成功させるのはやはり「人づくり」であるということ、痛感した。講義についてはさらにテーマを絞って欲しいものもあったが、今後今回の研修で学んだことを実際のまちづくりの場で生かしていきたいと思う。

自分なりに理解を深め努力したい

関野 健三

(株式会社シー・ピー・アイ)

現在、商業施設の企画を行っている関係で、今回の研修は、時代のトレンド、又そのトレンドの読み方、ライフスタイルの変化、商業施設の形態を事例紹介的によく理解できたとと思う。商業施設については、大変きびしい時代にいると思われる現在、人々、消費者の考え、好み、ほしいものを適確にとらえ、提供しなければならぬ訳だが、参加者の方々が手さぐり状態の中で、がんばっておられる様子うかがえ、自分なりに理解を深め、努力しようと感じた。

日程	午前	午後
第1日	空間演出の概念	商業空間プロデュース 戦略とコンセプト
第2日	商業企画・事業計画と地元調整及び運営管理 —地方事例を中心とし—	商業空間活性化の諸手法及び留意点
第3日	商業空間の活性化 —コミュニティ・マートづくり—	海外と日本の街づくりの比較研究
第4日	魅力ある商業空間と地域活性化事例 —これからの店舗戦略—	フィールド・ワーク (青山・原宿・渋谷地区)

(注) 感想文の標題は編集部でつけたものです。

本研修に関する問い合わせは当センター研修局まで

電話 0423 (24) 5315

新人類型土木工学百科事典開発考

第十二話



——データベース開発・はじめの一步——

建設分野では、本当にデータベースが必要なのか、需要自体が存在するのか。

というのも、現時点では建設分野におけるデータベース市場がまだ過渡期にあり、データベースの存在観が確立されていないからである。

データベースを構築していくには、需要を把握しながら進めていかなければならない。

ただし、「需要自体が存在するのか」という原点に戻って考えれば、全二回で紹介したような座談会型式により地道に、現場技術者の意見を把握していく方法のほうが、現時点では適切であろう。

それは、何割ぐらいの人が、どのようなデータベースを望んでいるかというような定量的な調査結果を検討するよりも、意義があると思われる。

しかし、このような座談会型式の聞き取り調査により、正確な需要を把握できるとは考えてはいない。

いつかの時点では、アンケート調査により定量的に需要を調査し、その結果をデータベース構築に反映させなければならない。

さて、本格的にデータベースを構築していくためには、その研究という意味からも、とにかくある形を作り上げていかなければならない。

このケーススタディを構築することにより、データベースの研究を深めるとともに、これを用いた需要調査も実施することができると、先の需要調査では、

- ① 人手のかかる調べもの
 - ② 所在のわからない調べもの
 - ③ 即時性を有する調べもの
 - ④ 法規などわかりにくいものの容易化
 - ⑤ 客観的なオール・ジャパン情報の提供
- という、一見当たり前ではあるが、基本的に重

要な要素が把握でき、一つの出発点が確認できたと考える。

この結果を踏まえ、ケーススタディの構築を試みることにした。

テーマとしては、座談会出席者の共通の意見であり、データベースの内容に対する具体的な要望であった「④法規などわかりにくいものの容易化」を取り上げることとした。

なお、座談会の資料の一つとして用いた土木技術の一般的・普遍的な知識のデータベースについても、①、②、⑤の「人手がかかり、所在がわからず、客観的なオール・ジャパン情報」に該当するとして、並行作業を進めている。後日紹介できる予定である。

さて、前号でも述べたように、法規は現場技術者にとって施工する際に関係が深い。

にもかかわらず、調べたり関与することが少なく、調べたとしても非常に分かりにくいものである。

この傾向は、建設分野だけに言えることではなく、法規類がデータベース化されることは一般的にも望まれていることである。

最近では、「建築法規コンサルテーションシステム」というように、法規をエキスパートシステムの一つのテーマとして取り上げられているのがいくつか見受けられる。

「わかりにくいものの容易化」という面から考えれば、エキスパートシステムとして構築する価値があると思われる。

すなわち、法規の条文を単に与えるのではな

スクランブル

く、条文を事細かに分解し、様々なケースに答えられるよう法規を解釈してシステムを構築するわけである。

しかし、エキスパートシステムを構築するには、現時点ではソフト・ハード両面の制約から考えて、取り扱うテーマをかなり限定しなければならぬ。

開発されたシステムを見ても、建築基準法の「構造制限・内装制限」をシステム化したものというように狭く深い対象を扱ったものがほとんどである。

ここでは、このようなエキスパートシステムではなく、土木工事全般に関係する法規をデータベース化することにより、検索が容易に行えるようなシステムを構築していくこととした。

——ケーススタディ（土木工事施工関係法規支援システム）の構築——

現場技術者が、必要なとき、必要な条文を検索でき、法令、基準等の遵守に的確に対応できるようなシステムを考える。

これは、様々な現場において、実用に耐える技術者支援型のデータベースと言える。

これを最終目標とするのであれば、大規模かつ非常に難しいシステムになる。

そこでケーススタディの第一段階として、構築の前提を次のように考えた。

- ① 工事着手から竣工までの間に関連する法規を抽出する。
- ② 対象工事の一つとする。
- ③ 詳細な分類は後で付加できるようにし、先

表-8 土木工事と関係法規

工 事	道 路	河 川	下 水 道	造 成	港 湾	ダ ム	ト ン ネ ル	橋 梁
労働安全衛生法	●	●	●	●	●	●	●	●
建設業法	●	●	●	●	●	●	●	●
道路交通法	●	○	○	○	○	○	○	○
道路法	●	○	●	○	○	○	○	●
騒音規制法	●	○	●	○	○	○	○	○
振動規制法	●	○	●	○	○	○	○	○
水質汚濁防止法	○	●	○	○	●	●	○	●
大気汚染防止法	○	○	○	○	○	○	○	○
都市計画法	○	○	○	●	△	△	○	○
河川法	○	○	○	○	○	○	○	○
．．．	．	．	．	．	．	．	．	．

●：直接関連する ○：場合により関連する △：ほとんど関連しない

に条文を入力してコンピュータ上で作業する。

④ パソコンレベルで構築する。

⑤ 市販データベースソフトを活用する。工事と法規の関係は、表-8 のよう考えることができる。

この図全体のデータベース化を最終目標とすれば、ケーススタディで捕えられる部分は一つの行か、一つの列ということになる。

一つの法規を主体として工事全般を眺めるのか、一つの工事に絞りそれに関連する法規を洗い出すのかということである。

どちらからの方法にせよ、最終的にはすべて

の工事、すべての法規を包括することになるわけである。

施工関係法規全般を調査しそのデータベース化を研究する、また構築したケーススタディにより需要調査を行いたいという意味からも、①、②に示す前提とした。

ここでは、比較的關係法規全般を眺めることができ、工事内容も容易に把握できるであろう「下水道開削工事」を取り上げる。

その工事着手から竣工までを一連の流れとし、工種・作業を細分・分類し、これに関連する法規を抽出していくこととした。

へつづく

まち 都市づくりと研修

建設大学校 計画管理部
都市計画科

巧 進 爾

一、はじめに

建設大学校は昨年創立三〇年を迎え、建設行政の歩みとともに、その時代の社会的要請に応じた研修を通じ、これらを支える人材育成の役割を担ってきた。

都市行政については、昭和三六年に「都市計画研修」として出発し、何度かの再編を経て今日の姿となり、昨年度までに約五、四〇〇名の研修生を送り出してきた。

現在の都市づくり関係の研修の概要を紹介するに当たり、研修を計画し、実施している関係者の一人として、昨今の都市問題について私なりの認識についてふれ、それらを基礎にした具体的なカリキュラム編成方針等について記し、研修の目的、内容とともに、隠されている意図、ねらいといったものの一部でもご理解いただければ幸いであると考えている。

二、社会の動きと都市

昭和六二年六月「四全総」が閣議決定された。中間報告時の「東京重視」について一部修正があったものの、「多極分散型国土の形成」を標榜し、その基本課題として①定住と交流による地域の活性化②国際化と世界都市機能の再編成③安全で質の高い国土環境の整備を掲げている。

東京について、「国際金融、情報機能の巨大な集積が予想され、世界的な交流の場としての

役割が増大する」とした四全総中間報告で残された認識は、昭和五十年代末期には顕著となり、時既に明らかな事実であった。この事実は、産業構造の変化、経済の国際化・情報化、国民生活様式の変化といった諸々の背景が秘んでいたことは周知のとおりである。

経済と文化が一体となった東京の自己増殖メカニズムは、首都圏を越え、地方にもあふれ出している。この東京の膨大な力が、日本の国際経済力を高め、円高、世界を相手にした貿易摩擦、産業の海外進出、海外不動産投資等を生み出し、国内的にも農業政策への問題提起、内需振興と民間活力の活用、事務所床の不足、地価の急騰、規制緩和の要請等を噴出させ、大きな社会問題となったところである。

これらは、必然的であった東京の力によってもたらされた新たな都市問題の底流をなすもので、東京と地方（都市）の問題そのものであり、四全総の多極分散の方向づけは、長期的な視点では適切であるとは言え、現実の対応としては極めて困難で、地方にとって妙手はない。

このような社会の動きは、格好よく新たな「地方の時代」の幕明け等とも言われているが、各地域の都市経営、都市運営を如何に進めるのか、厳しい選択（政策）を迫る生き残りの「都市間競争」の到来でもあり、それは真にゼロ・サムゲームでもある。各地域が、ユニークな経済・文化圏として発展し、より豊かな社会が構築さ

れることを期待しているところである。

三、都市づくりの研修

平成元年度では、別表(イ)のように年間八コース実施しており、その概略は表のとおりであるが概に定員を上まわって実施されている。

ここでは、高等課程都市行政科研修を頭に置き、カリキュラム編成方針、教科目設定方針について述べたい。

カリキュラム編成の一般方針については、各コースとも基本的には共通であり、①社会の動勢に応じた「特色」をもたせる②当該行政の基本課題と長期展望等を含め、国の最新の施策や情報を提供する③講師陣については、学界、民間、官界から幅広くお願いする④ゼミナール、課題討議等積極参加型の授業を極力採用する⑤授業内容を極力具体的で実践的なものとする等に留意し、知識の修得、視野の拡充、意識改革を中心にする、都市づくりの基本姿勢といったものを修得していただきたいと考えている。

また、教科目の設定方針としては、なるべく前述のような都市の新たな潮流とリンクさせることに配慮しており、(別表(ロ)を参照)

① 複雑で広範囲に亘る都市問題等の解決に向けての指針を、都市経済又は都市経営的な視点から扱えた教科目

② 円高等を背景とした産業構造の転換等を受けて地域産業のあり方等都市と産業に関する

別表(イ) 都市づくり関係研修一覧表(平成元年度計画)

研修科名	定員	実施時期 (期間)	目 的	対 象 職 員 等	
				対 象 機 関 等	対 象 職 員 等
(専門課程) 公 園	47	4月10日～ 4月28日 (19日間)	都市公園の整備に関する総合的な専門知識を修得させる。	建設省、北海道開発庁、沖縄開発庁、都道府県、市又は公園等の職員で、都市公園業務を担当し、次のいずれかに該当する者	① 係長又はこれと同等の職にあるもので、年令が43才までのもの ② ①の者と同程度の能力を有すると認められる係員で、年令が27才から40才までのもの
(専門課程) 都 市 緑 化	35	4月10日～ 4月21日 (12日間)	都市緑化に関する総合的な専門知識を修得させる。	建設省、北海道開発庁、沖縄開発庁、都道府県、市又は公園等の職員で、都市緑化に関する業務を担当し、次のいずれかに該当する者	① 係長又はこれと同等の職にあるもので、年令が43才までのもの ② ①の者と同程度の能力を有すると認められる係員で、年令が27才から40才までのもの
(専門課程) 街 路	53	5月17日～ 6月9日 (24日間)	街路に関する総合的な専門知識を修得させる。	建設省、北海道開発庁、沖縄開発庁、都道府県、市又は公園等の職員で、街路に関する業務を担当し、次のいずれかに該当する者	① 係長又はこれと同等の職にあるもので、年令が43才までのもの ② ①の者と同程度の能力を有すると認められる係員で、年令が27才から40才までのもの
(専門課程) 土地利用計画	51	6月29日～ 7月19日 (21日間)	都市の土地利用計画に関する総合的な専門知識を修得させる。	建設省、北海道開発庁、沖縄開発庁、都道府県、市又は公園等の職員で、土地利用計画に関する業務を担当し、次のいずれかに該当する者	① 係長又はこれと同等の職にあるもので、年令が43才までのもの ② ①の者と同程度の能力を有すると認められる係員で、年令が27才から40才までのもの
(専門課程) 宅地開発指導	40	9月12日～ 10月3日 (22日間)	宅地開発の許可・指導に関する総合的な専門知識を修得させる。	都道府県、市又は公園等の職員で宅地開発の企画立案又は許可・指導業務を担当し、次のいずれかに該当する者	① 係長又はこれと同等の職にあるもので、年令が43才までのもの ② ①の者と同程度の能力を有すると認められる係員で、年令が27才から40才までのもの

教科目

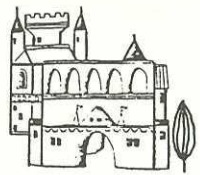
- ③ 地域の活性化の観点で必要な、総合的でないおかつ地域の発想を生かした拠点的整備に係る教科目
 - ④ 個性的で魅力のある都市づくり又は地域の文化を生かし新たな文化の醸成に資するような教科目
 - ⑤ 民間活力の活用、高度情報化社会等に対する対応等に資するための教科目
 - ⑥ 都市計画の理念、都市計画の基本論、都市計画の着実な推進に関する教科目
- 等を念頭において編成することとしている。
- 各研修コースの性格や実施期間、予算、執行体制、講師の時間的距離的制約等の現実的問題もあり、思うにまかせない部分も多いが、鋭意地方公共団体の研修員の皆様に焦点をあて、より一層の改善に努めて参りたい。
- 今年の経済白書、建設白書でも指摘があるように、資産大国への困難な道を着実に伸展させ、真の生活大国への都市政策を強力に推進する必要がある。社会資本の整備には、一層の官民分担の徹底、開発利益の吸収・還元等を強化すると共に、都市づくりの基本となる土地利用の確立と推進に関し、地域住民が積極的に発言され、合意のもとに施策が遂行し得るよう「研修」による人材という資産の蓄積を通じ、その実現に多少なりとも貢献できれば幸いであります。

前頁、別表(イ)のつづき

研修科名	定員	実施時間(期間)	目的	対象職員等	
				対象機関等	対象職員等
(高等課程) 都市行政	36	10月16日～ 10月26日 (11日間)	都市行政に関する高度の総合的な知識を修得させ、施策の策定及び実行能力の向上を図る。	1. 都市行政に関する業務を担当し次のいずれかに該当する者 ① 都道府県又は公団等の職員で本庁等の課長補佐若しくは事務所の課長又はこれらと同等以上の職にあるもの ② 市の職員で、課長又はこれと同等以上の職にあるもの ③ ①、②の者と同程度の能力を有すると認められる本庁等の係長又はこれと同等の職にあるもの	2. 建設省、北海道開発庁又は沖縄開発庁の職員で、都市行政に関する高度の総合的な知識を必要とする本庁の課長補佐若しくは事務所等の課長又はこれらと同等以上の職にある者
(専門課程) 区画整理	55	11月14日～ 12月8日 (25日間)	土地区画整理に関する総合的な専門知識を修得させる。	都道府県、市又は公団等の職員で土地区画整理業務を担当し、次のいずれかに該当する者	① 係長又はこれと同等の職にあるもので、年齢が43才までのもの ② ①の者と同程度の能力を有すると認められる係員で、年齢が27才から40才までのもの
(専門課程) 都市再開発	50	1月23日～ 2月16日 (25日間)	都市再開発に関する総合的な専門知識を修得させる。	都道府県、市又は公団等の職員で都市再開発業務を担当し、次のいずれかに該当する者	① 係長又はこれと同等の職にあるもので、年齢が43才までのもの ② ①の者と同程度の能力を有すると認められる係員で、年齢が27才から40才までのもの

別表(ロ) 平成元年度 高等課程 都市行政科研修カリキュラム (予定)

研 修 科 目		時間	講 師	概 要
政 策 一 般	講 話	1	大臣官房審議官 (都市局担当) 河原崎守彦	
	都 市 行 政 の 現 状 と 基 本 方 向	1.5	都市局都市政策課長 福田 秀文	
	都 市 政 策 の 視 点	3	東京大学名誉教授 日笠 端	都市政策としての都市計画の意義、沿革、役割等
	都 市 づ くり の す す め	1.5	都市局都市政策課 建設専門官 井上貞男	都市行政を通じ魅力あるまちづくりを進めるにあたって
	小 計	7		
政 策 各 論	地域におけるまちづくりの展開	3	㈱計画技術研究所 所 長 林 泰義	経済社会の動向、地域特性に応じたまちづくりの方策等
	都 市 経 済 と 都 市 問 題	3	東京国際大学商学部 教 授 目良 浩一	経済的視点からみた地域構造の変化と都市問題の対策等
	都 市 型 産 業 と 都 市	1.5	日本興業銀行産業調査部 副 部 長 田中 好輔	都市を舞台とする各種都市型産業の現状とその将来展望等
	地 域 創 造 と 産 業	2	多摩大学経営情報学部 教 授 望月 照彦	地域創造の視点での産業の活性化のあり方等
	都 市 開 発 と 民 間 活 力 の 活 用	1.5	都市局都市政策課民間都市開発企画室 室 長 関川紳一郎	民間活力活用の諸施策の概要と今後の動向
	都 市 空 間 と 景 観	3	東京工業大学工学部 教 授 中村 良夫	都市空間における景観の意義とその考え方等
	コンベンション都市とリゾート開発の戦略	3	㈱UG都市設計 代表取締役社長 梅澤 忠雄	都市開発におけるコンベンション、リゾートのあり方とその事例
	人 を 集 め る	3	ランド・アソシエイツ㈱ 社 長 堀 貞一郎	地域の活性化と人の集め方 (なぜ東京ディズニーランドがはやるのか)
	ま ち づ くり に の ぞ む	1.5	日本経済新聞社日本地域経済研究所 研究部長 亀地 宏	まちづくりをすすめるうえでのぞまれる視点
	事 例 紹 介	1.5	住宅・都市整備公団都市再開発部 次 長 村橋 正武	みなとみらい21のめざすもの等
ふ る さ と づ くり を め ざ し て	1.5	所沢市長 中井眞一郎	所沢市における都市整備の長期ビジョンと戦略	
小 計	24.5			
そ の 他	ゼ ミ ナ ー ル 実 地 見 学	22.0		
	合 計	53.5		



話の広場

企業家サラリーマンの条件

あなたは自分でモノを決められるか？



荒井 伸也

(サミット株
代表取締役副社長)

私はスーパーチエーンの経営者として、流通業界に多くの経営者の友人を持っています。周知のように、この業界は、わずか四分の一世紀の間にゼロから今日の大なしました。ですから、そこで勝ち抜いてきた彼らの多くは、企業家であり、真に企業家と呼ぶに値する、きわめて魅力ある人物たちです。

そのなかのある人から、こんな相談を受けました。

「縁があつて、ある大会社の部長までやった一流大学の人物を採用したんですよ。当社にも一流の人物ができたと思んだのもつかの間、実はこの男がまったく使えないものにならないことに気が付きました。驚いたことに、この男、ど

んな小さなことでも自分で決められないんです。まるでいつても逃げ支度をしているような様子で私のところに伺いを立てに来ます。私が怒って自分で考えなさいと言つても、一向に効き目がない。一体、これはどういうことなんでしよう？ どうしたら治るのか、大企業の経験もあるあなたなら分かるでしょう」

私は言いました。

「子供の頃から人間に育てられた熊を森に放したところ、一月ほど経つて元の村に戻つて来ましたが衰弱していて、一見して、その一月間何も食べていなかったと分かるように飼われた熊です。彼は長年の間ひとりではモノを決めずに生き

て来たのです。サラリーマンが会社に入って最初にしつけられることは、自分ひとりではモノを決められない」ということなのです。ですから、彼にひとりではモノを決めさせることは会社に入って最初と覚えた一番大切なことを止めるというのと同じことなのです。よほど特別な訓練でもないかぎり彼を変えることは無理です。裏書きを書かせ、根回しをさせ、決して本音を出さずに世渡りできるよ

うにして上げなさい。そうすれば、彼は『やはり世の中ってこんなものだった』とつぶやきながら、毎日安心して生きていけるでしょう」

企業家サラリーマンの条件は何かという問に対する私の答えは、このように冷たいものです。つまり、サラリーマンは一般に企業家にはなれないということなのです。

大部分の読者がサラリーマンですから、たとえば、あなたも企業家になれる」とか「どちらも基本は同じ」とか、受けの良さそうなことを書きたいのですが、私は嘘を書くのがいやです。

企業家は当然自分ひとりではモノ

を決めなければなりません。それも自分で決めたことが間違いない自分にはね返ってくる逃れようのない因果関係のなかにおいてです。実はこれはきわめて当たり前のことで、世の中はすべてそうなのです。会社という世界は異常です。会社という世界には、絶対的な孤独がないのです。あえて言えば、番近いです。

このことを言葉で分かつてもらうことは、不可能に近いことです。ですから、私は「企業家サラリーマン」という小説を書きました。そのなかで、私は、自覚しないままいつの間にかサラリーマン根性になり切つてしまった主人公のエンジニア部長の目を開くために、彼の人間存在の根本を揺るがすような体験をしてみました。

サラリーマンとはみじめなものだ。悲しいものだ。馬鹿にされたような生き方だ。それは立派な男には我慢できない屈辱だ。

そう感じている、俺も立派な会社で認められて大したものだと思



話の広場

働く女性が、増えてきたことは事実です。十五歳以上の女性の二人に一人が職場を持つようになりました。関係に女性が二人登用されたり、いつきよに二十二人もの女性参院議員が生まれたり、女性の社会進出ニュースはこのところ矢つぎばやです。

しかし、何ぶんにも働く女性の登場の歴史はまだ浅く、女性『未熟の観念はめぐい去られておりません。女性議員でもパッチをはずせばそんなに扱われることを覚悟しなければならぬのが現実です。女性せんたいが実力をたくわえ、それぞれの場で実績を積み上げて行くことが何より基本になります。が、いわれもない軽視に対しては、ひるむことなく毅然と相対することが必要です。これは、あなたの職場の内、また得意先をはじめ外部とかかわる場合でも同じことです。

ただし、毅然とするためには、自分の負っている仕事の内容やこ



増田 れい子

(毎日新聞社論説委員
「女のしんぶん」編集長)

気くばりとは何か

「サラーマンを馬鹿にするな」と、この文章を読んで腹が立つてきたあなた。よし、それを証明するために俺は立ち上がるぞ」と、

一人のままがいいでしょう。企業家になることはもう無理です。行動に移せるような珍しい方なら、あなたは企業家精神を持つ可能性があります。

でも、私は成功は保証しませんが、当然のことです。企業家は自分の成功を自分で保証するので。

なしかたを存分に把握、習熟していることが前提になります。仕事熱心↓自信を得る↓毅然とした態度がとれる、という筋道になります。

職場での気くばり、これは職場をつくっている一人ひとり、おたがいが気をくばりあうべきで、女

性だけに特別な気くばりを求めるのは誤まりです。おたがいが、仕事を大切に、おたがいの人間性を大切にしようことが、ほんとうの「気くばり」です。それは、職場での「甘え」をやめることにもつながります。



「時短元年」ともいわれた今年、フレックスタイム制を採用する企業が急増している。それも、さすがにライン方式の製造部門では例が少ないが、むずかしいと思われる営業部門などまでふくむケースが増えている。そのため、伝統的な職場の朝会が、やりにくくなっている。解決策は二つあるようだ。一つは、コアタイムを9時〜15時などとして朝会を維持すること。コアタイムが9時からなんて奇妙

昼会

なようだ、超朝型の人は、7時に出社し、15時に退社することができるわけで、理論上はありうるし、事例もある。もう一つは、朝会をやめ、昼休みの前後に昼会を開くことだ。これなら、コアタイムが10時〜15時といった常識的なフレックスタイム制度でも十分に可能である。ただし朝会と違って、社歌や社訓の斉唱などはやりにくくなるかもしれない。



現代経済の仕組みがわかる

やさしい経済予測入門

日本長期信用銀行調査部 著
PHP 研究所／七五〇円

経済予測は、変化が激しく、不透明感が増している現代経済において非常に重要味を増してきており、様々な予測が様々な形で出されている。代表的なものとしては、毎年、年末から年明けにかけて研究機関（シンクタンク）や銀行などの調査部から発表される「来年度の経済見通し」があげられる。その数は数十にも達し、さながらコンテストの観があるが、この「経済見通し」も世の中の変化が激しいせいか、出されてしまえば当たりはずれはあまり問題にされず、次の予測にすぐに焦点が移ってしまっている。もつとも、最近雑誌などでGNP、円レート予測などの当たりはずれが取り上げられるケースが出てきたが、経済予測

そのものが難しい時代となってきたためか、当てるのはなかなか難しいようである。かつて、急激な円高時に円レートを当て一世を風靡した某銀行の調査部長も以後マスコミに登場する機会は増えたものの、円レート予想の方はなかなか当てるのが難しいようである。さて、経済分析のプロが行う経済予測も、経済政策、企業活動などを行っていく上で非常に重要であるが、我々アマチュアも、常日頃、生活を行う上でも貯蓄、ローンや高額の買い物をする上で金利や賃金の予想を行ったりして、経済予測の真似ごとをしている例が数多くある。そうした際に、基礎的な知識を提供し、経済予測の羅針盤的役割を果たしてくれるのが

本書「やさしい経済予測入門」である。

本書は実際に経済の予測・分析を行っている若手銀行エコノミストの手によって書かれており、経済予測についての基礎的知識の説明から、各分野毎に経済予測の考え方や具体的方法についてわかりやすく書かれている。

経済予測はだれにでもできるものであり、難しい経済理論、モデル、統計を使ったプロの予測ばかりが経済予測ではない。それ以上

に大事なことは、まず世の中の経済現象に広く興味を持ち、それを目で見、感じることである。その

上で数字を見て、大きな流れを捉え、自分なりの判断を下すことならば一般の人でも可能である。本書は、経済予測のガイドブックとして予測の仕方、使い方がわかるだけでなく、経済そのものの仕組みが理解できるように書かれており、経済予測のみならず経済学そのものの入門書としてもお勧めしたい。

変容するハイテク化への対応

〔続〕建設業のハイテク戦略

〔新ECC化〕への挑戦

日経産業新聞 編／一、二〇〇円

今日、ハイテク技術（高度先端技術）化が産業界の隅々まで広がっていることは言うまでもない。それは、建設産業界においても例外ではない。とりわけ、社会資本を形成する担い手である建設業界

は、経済・社会のソフト化がもたらした国民の多様な欲求にも答えていくために、ハイテク化の動向に機敏に対応していかなければならない。インテリジェント（情報化）ビルや耐震・耐候性能を必要

とする長大橋、長大トンネルなど市場は時を追って多様化してきている。

本書は、60年7月に発刊された「建設業のハイテク戦略」に続いて、このような社会情勢をふまえて建設各社がハイテクに賭ける姿を紹介している。

建設業界は大きく変わろうとしている。変わらなくては生き残れない時代に入ったのだ。

たとえばデベロッパー事業への参入。その不動産投資規模は、大手生命保険並みの規模のものもある。オフィスビルの買収、新設など不動産会社とタイアップし、受注拡大の強い武器にする戦略である。

このように厳しい経営環境にあつて、新市場を切り開いていく後だてになるのは、何より技術力である。それはつまるところ、先端分野を舞台とするハイテク競争そのものである。

六一年、建設業界を代表する大手五社が、N T Tとインテリジェントビルの共同研究やプロジェクトの企画で業務提携した。インテ

リジエントビルは、オフィスビルのあり方を一変させる可能性を持った建築物である。それだけに幅広い先進的な技術を組み込んでいく必要がある。それは一方で、建設以外の業界にも主導権を握るチャンスがあることを意味する。施工能力があつても、企画・設計や完成後の管理・運営サービス面で主導権を握れなければ、新しい市場でも単なる請負に甘んじることになりかねない。N T Tとの業務提携は、ゼネコンのこうした姿勢を端的に示している。

本書では、粘着力が強く施工の簡単な水中コンクリート、地中深く垂直に埋め込んだ鋼管内で汚水を循環させながら微生物の力で有機物を分解する敷地の大幅な削減を可能にしたディープレジャフト法、レーザーを利用した高精度な作業船位置測定システム、防犯を集中管理できる情報化マンシヨン等、建設業のハイテク技術を数多く紹介している。

本書は、建設業を今だに「単なるドカチン」と思っている方に、是非御一読願いたい一冊である。

自治の時代だそうである。それも十数年ぶりのものであるらしい。たしかに、七〇年代の前半には市民会議等の市民参加の実験的摸索が展開されていだし、各地で革新自治体が生まれていった。また、地方の時代や文化の時代が唱えられたのも十年ほど前のことであつた。

でも、あのころと今とは経済社会の内容も規模も違うし、自治論や自治のシステム的位置づけや内容も異なる。また、当時は高

「都市主導の時代」

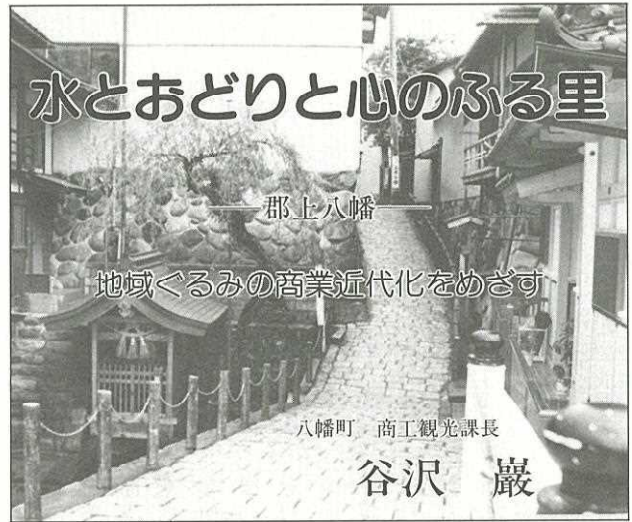
— 創立30周年記念研究 —

編集・発行
(財)日本都市センター

して、最後に「都市主導の時代の自治体経営」を全国助役に対するアンケート調査結果を踏まえてまとめである。この五課題は地方都市を共通の対象にしている以外には、実際上あまり関連付けられておらず、そのために一種の論文集になつていくといつてよい。それにもかかわらず、本書が有益なのはその底流に都市・ヒューマン・ティ・自治の連携をとる必要性の認識が全体に貫かれているからである。

にしたものであつただけに、多分に思想(理想)の先行するものであつた。それに対して現代は経済大団体の構成員として生活の意識やスタイル形式(広い意味での文化創造)を課題とするなど、まさに参加型社会の実践性が問われているといえる。それだけに昨今の自治は普通の生活の中に溶け込むものとして顕在化しているのだという。本書は自治の論点を五つの課題に分割してまとめている。第一は「戦後都

市の変遷」であつて、各種の都市データを踏まえた戦後以降の都市変遷過程の分析である。また、第二は「魅力ある都市づくりー快適な生活空間・都市美の形成」で、都市の景観やデザインを推し進める諸方策と課題がまとめられている。さらに、第三は高齢者対策を事例中心に示され、第四としては「まちづくりパートナーの提唱ー自主的都市政策主体の確立を目指して」として、民主主体のまちづくり体制のあり方が論じられている。そ



郡上八幡は、岐阜県のほぼ中央に位置し、奥美濃地方における政治経済の中心であり、古くから歴史・文化の育んで来た山紫水明、人情こまやかな城下町である。

面積二四二・六七km²、人口一八、五〇〇余人（市街地形成人口九、〇〇〇余人）で、人口の減少は最近鈍化の傾向にあるものの高齢化の進む山間の町である。

日本三大踊の一つとして自負する「郡上おどり」を観光の目玉とし「水とおどりと心のふる里」を新八幡町総合計画のキャッチフレーズに、観光の町・郡上八幡として二十一世紀を展望す

るものである。

アメニティー・マート構想策定モデル事業は、自治会、商工会、発展会、商業者及び消費者等多くの町民と真剣な討議を繰り返して行い、みんなで作りに上げたことに深い意義がある。

アメニティー・マート構想の策定目的は、地域ぐるみの商業近代化を推進し、商店街を消費者のニーズを充たすために快適性を高め、暮らしの広場へと社会的機能を高め、既存商店街の商業活動を発展させることにある。

八幡町は歴史的に人口集積以上の商業集積を誇って来たが、モータリゼーションの普及により、消費者行動が中京商圏にまで広がり、日常消費物資に至るまで地元商店で買わないという現状の中で、商圏の拡大、顧客の奪回をはからねばならない。そのためには、商業者の意識改革・経営の改善・商店街組織などの積極的な活動を促進し、小売商業振興策を講じて活性化をはかるのである。

昭和四十年代以降の自動車の普及に対して、市街地の道路網・道路構造はそれに対応出来ず、自動車、歩行者の交通に混乱が生じ、それは極限とも言える。そのため平成六年に供用開始予定の東海北陸自動車道インターチェンジの開通により大量の誘客が出来るよう駐車場等、自動車・歩行者の交通利便性の確保など市街地基盤の整備を進めている。

個々の商店街を「町並み」として魅力ある景

観に再生するためにさまざまな修復を進める。

商店街でない町内においても歴史的街並みの保存・修復をはかり、観光都市としても市街地景観を造出する。

また、市街地をとりまく山地、空地、河川、水路など自然的要素を適切に修復・修景し市街地の魅力を背後から支援・強化する。

現在進めているのがポケットパーク事業で、水に親しんでいたがための柳町の歴史的水路整備、新町商店街のやなか水小径整備、町を貫通する吉田川親水遊歩道、天の洞谷川修景事業、市街地の空地を小公園化による緑地の整備をし、便所、休憩舎、水のみ場など配し、地域住民、行楽客、観光客（消費者）ニーズの高度化・多様化に対応して快適性（アメニティー）の高い商業空間を創造していくことが急務である。

今、新町商店街では、歩行者（買物客）と自動車と共存するため、駐車場・歩行者空間・水路整備と合わせて既存店舗の二mセットバックの話し合いが積極的に進められている。

今後、アメニティー・マート構想を実現して行くためには、みんなで研究し、更にローリングをし短期・中期・長期に渡る実行あるプログラムを検討する必要がある。

この恵まれた自然と、先人達が残してくれた歴史・文化を守り、二十一世紀に向かって奥美濃の中核都市として機能させるため、活力ある快適な街づくりを進めていくものである。

業務案内

● 研修部門の業務

研修部門で行なう研修は、国および地方公共団体、公団公社等の職員を対象とした行政研修、ならびに建設業界等の職員を対象とした一般研修によって編成されております。

行政研修は、建設省建設大学の行なう研修を補完するものとして建設省により位置づけられており、一般研修も、関係機関等の協

議に基づきカリキュラム等を作成し、時代に即応した各種の研修を実施しております。

さらに、最近の研修需要の拡大に対応するため、関係機関の協力により、昭和五十八年十二月新たな研修施設（新館）が建設されたのに伴い、今後一層、研修内容の拡大強化をはかることとしております。

平成元年度 研修実施予定表

*印 行政
◇印 民間
無印 行政・民間

研修名	期日・人数	目的および対象者
建設行政管理者セミナー	八月 三〇名 五日間	国、地方公共団体本庁課長補佐以上、公団公社ならびに民間企業等の課長、その他同等の職員を対象に、管理者として必要な知識情報の交換、意思決定過程への認識をはかる。
* 用地一般（Ⅰ）（Ⅱ）	五月・十月 各〇名各士百間	地方公共団体（人口十万人以上）等の実務経験二年未満の職員を対象に、用地取得等の実務について基礎的知識の修得をはかる。
用地事務（土地）	二月 四〇名 五日間	地方公共団体（人口十万人以下）の職員または委託による用地業務にたずさわる職員を対象に、用地取得等について基礎的知識の修得をはかる。
用地事務（補償）	一月 四〇名 六日間	地方公共団体（人口十万人以下）の職員または委託による用地業務にたずさわる職員を対象に、損失補償等について基礎的知識の修得をはかる。
用地専門	九月 四〇名 五日間	起業者または委託により用地業務にたずさわる職員で、用地補償の基本的知識のある者を対象に、特殊な補償における専門的知識の修得をはかる。

研修名	期日・人数	目的および対象者
不動産鑑定	十月 五〇名 六日間	土地評価業務にたずさわる職員を対象に、不動産鑑定および公共用地等の評価にかかわる基本的知識の修得をはかる。
土地家屋調査 <small>―不動産登記実務―</small>	七月 五〇名 五日間	不動産登記、土地家屋調査にたずさわる者となる者を対象に、その業務に関し基本的に必要な知識および実務の修得をはかる。
土地・建物法規	八月 四〇名 四日間	土地・建物にかかわる業務にたずさわる職員を対象に、土地・建物に関する民法等の関連諸法規について基本的に必要な知識の修得をはかる。
不動産有効利用実務	六月 四〇名 四日間	土地に関する業務にたずさわる職員を対象に、不動産有効利用の事業手法とそれに関する税務等について、実務的な知識の修得をはかる。
中高層分譲住宅管理実務 <small>(マンション管理相談員)</small>	一月 四〇名 三日間	マンション管理等の業務にたずさわる職員を対象に、マンション管理、建替に伴い管理組合に対して行う専門的指導相談に関し必要な知識の修得をはかる。
コンフリクト <small>―紛争アセスメントと合意形成―</small>	九月 四〇名 四日間	建設事業に相応の経験を有する者に、建設事業の遂行にあたり、地域社会との合意形成に必要な対応力等の実践的な向上をはかる。
環境アセスメント	六月 六〇名 五日間	環境アセスメントに関する業務にたずさわる職員を対象に、建設事業に伴う環境アセスメントに関する専門的な技術・知識の修得をはかる。
宅地造成技術	六月 五〇名 六日間	宅地造成工事の設計施工・監督・許可事務等を担当する職員を対象に、宅地造成技術の専門的知識の修得をはかる。
* 大規模開発相談員	七月 四〇名 五日間	「大規模開発相談員」に相当する職員を対象に、審査手続の進行管理促進の方策、関係法令の調整方法等の知識の修得をはかる。
地域フォーラム／研修	十月・十一月 一〇〇名 二回各五日間	地域別に、地域振興のための最近の諸施策推進に必要な手法・情報または、建設にあたり必要な知識の修得を地域ごとのテーマに応じてはかるものとする。
* 土木工事監督者	六月 六〇名 十二日間	地方公共団体等の工事監督業務の実務経験三年程度の職員を対象に、土木工事の施工管理・監督について知識の修得をはかる。
* 土木工事積算	五月 六〇名 五日間	地方公共団体等の土木工事積算業務担当の職員を対象に、積算および設計業務委託の積算体系の知識の修得をはかる。
工事管理演習	六月 四〇名 五日間	建設業務にたずさわる職員を対象に、演習を通じて施工管理に関する必要な知識・手法の修得をはかる。
土木構造物設計 <small>(橋梁)</small>	八月 五〇名 十三日間	橋梁の設計業務にたずさわる職員で、基礎的知識を有する者を対象に、橋梁の計画・設計に必要な理論および設計手法などの専門知識の修得をはかる。
プレストレスト・コンクリート技術	十一月 四〇名 五日間	建設事業に従事する職員を対象に、プレストレスト・コンクリートに関して主としてPC橋を中心に必要な知識・技術の修得をはかる。
長大橋	九月 四〇名 五日間	橋梁の設計・施工に関して基礎的な知識のある者を対象に、長大橋に関する基本的な知識の修得をはかる。

研修名	期日・人数	目的および対象者
橋梁維持補修	十一月 四〇名 五日間	橋梁の管理業務にたずさわる者を対象に、橋梁の維持・補修について基本的な考え方から現状診断、補修方法までの知識の修得をはかる。
港湾工事	七月 五〇名 四日間	港湾工事にたずさわる実務経験五年未満の者を対象に、港湾工事に關し基本的に必要な知識の修得をはかる。
実地検査	六月 五〇名 四日間	国庫補助事業の実地検査に關し経験の浅い者を対象に、検査に必要な基本的知識の修得をはかる。
建設工事紛争処理	九月 四〇名 四日間	建設事業にたずさわる職員を対象に、建設工事請負契約にかかわる紛争処理および未然防止の対応力の向上をはかる。
建設ロボット	九月 四〇名 四日間	建設事業にたずさわる者を対象に、建設工事にかわるロボットについての最近の知識・情報の修得をはかる。
研修企画	九月 三〇名 三日間	組織における研修を企画する職員を対象に、職員研修の企画に關する基本的知識とその手順の修得をはかる。
国際協力	八月 二五名 二六日間	公団、地方公共団体ならびに民間企業の職員を対象に、国際協力活動に対応するため、英会話能力ならびに国際感覚の修得をはかる。
国際交流	一月 二四名 六日間	国際協力活動のため、これに必要な英会話ならびに国際的感覚の修得をはかる。
電気工作物	六月 四〇名 六日間	電気工作物にたずさわる者を対象に、電気工作物の工事・維持・運用に關し基本的に必要な知識の修得をはかる。
特殊無線技士 (多重無線設備)	十一月 四五名 十七日間	特殊無線技士(多重無線設備)の資格取得に必要な、郵政大臣が定める実施基準に適合した講習を行い無線従事者を養成する。
* 建築指導科(監視員)	五月 六〇名 十二日間	建築指導行政を担当する職員を対象に、建築監視員としての必要な実務知識の修得をはかる。
建築新技術	九月 四〇名 三日間	建築業務にたずさわる技術者に対し、最近の建築新技術についての基本的な知識の修得をはかる。
建築構造(RC構造)	六月 四〇名 九日間	国、地方公共団体、民間建築業界で建築構造にたずさわる者を対象に、建築構造に關する必要な知識の修得をはかる。
建築(設計)	十一月 四〇名 十日間	国、地方公共団体、民間建築業界で建築業務を担当する職員を対象に、建築設計に關する必要な知識の修得をはかる。
建築構造電算	七月 二五名 五日間	構造設計・計算の電算利用経験が少ない者を対象に、ソフトウェアの概要、アウトプットの適切な判断等に關する基本的な知識の修得をはかる。
建築防火設計	七月 四〇名 四日間	建築の計画、設計(設備設計も含む)、審査または建物の管理等に従事する者を対象に、建築物の防火設計に關する必要な知識の修得をはかる。

研修名	期日・人数	目的および対象者
* 建築（積算）	十月 四〇名 六日間	国、地方公共団体、公団・公社等の職員を対象に、建築積算の実務に必要な専門知識の修得をはかる。
建築施工監理	十一月 五〇名 六日間	国、地方公共団体、民間建築業界で建築業務を担当する職員を対象に、建築施工監理（設備工事を除く）に必要な知識・技術の修得をはかる。
建築設備（空調）	九月 四〇名 十日間	国、地方公共団体、民間建築業界で建築設備を担当する職員を対象に、建築空調設備に関する必要な知識の修得をはかる。
建築設備（電気）	一月 四〇名 十日間	国、地方公共団体、民間建築業界で建築設備を担当する職員を対象に、建築電気設備に関する必要な知識の修得をはかる。
建築保全	一月 四〇名 五日間	国、地方公共団体、民間建築業界で建築保全業務を担当する職員を対象に、建築保全に関する基本的に必要な知識の修得をはかる。
都市計画一般	六月 五〇名 十二日間	地方公共団体・都市計画コンサルタント業界等で、都市計画業務経験二年以下の者を対象に、都市計画事業の基本的知識の修得をはかる。
* 都市再開発一般	十月 五〇名 六日間	地方公共団体等の都市再開発業務にたずさわる職員を対象に、都市再開発に関する基本的に必要な知識の修得をはかる。
民活都市開発	七月 五〇名 六日間	都市開発業務にたずさわる者を対象に、民活都市開発について基本的に必要な知識の修得をはかる。
商業空間開発	九月 四〇名 四日間	都市開発または商業施設運営にかかわる職員を対象に、商業空間の開発ならびに运营管理に関する専門的知識・技術の修得をはかる。
都市デザイン	十二月 四〇名 五日間	地方公共団体・コンサルタン業界等において、都市デザイン業務にたずさわる職員を対象に、都市デザインに必要な専門的知識の修得をはかる。
都市計画街路一般	十月 五〇名 十二日間	地方公共団体・都市計画コンサルタント業界等で、都市計画街路業務経験二年以下の者を対象に、街路事業の基本的知識の修得をはかる。
花と緑	二月 四〇名 四日間	地方公共団体等の職員で「花と緑」関係の業務にたずさわる者（緑化相談員等）を対象に、植栽等に関する基本的な知識・技能の修得をはかる。
都市農地	七月 四〇名 四日間	都市農地に関する業務にたずさわる職員を対象に、都市およびその近郊における農地に関する課題について都市計画に必要な基本的知識の修得をはかる。
下水道積算実務	十二月 四〇名 五日間	下水道工事の設計・積算・契約等の業務に従事する職員を対象に、契約の基本的な考え方、積算についての施工計画、積算手法の知識の修得をはかる。
下水道	九月 五〇名 六日間	下水道に関する計画、設計、施工にたずさわる職員（日本下水道協会会員を除く）を対象に、基本的に必要な知識・情報の修得をはかる。
* ダム管理	十月 三五名 十一日間	国および地方公共団体等のダム管理業務にたずさわる中堅技術職員を対象に、ダム管理に必要な知識の修得をはかる。

* ▽ 管 理 (操作実技訓練4回)	研 修 名	期日・人数	目 的 お よ び 対 象 者
	河川一般	四月、十二月 各六名・四回 計二四名・各四日間	国および地方公共団体等のダム管理所において、ダム操作に従事している職員に対してダム操作の技術の習得をはかる。
	河川技術(演習)	四月、六月 各四名	中小流域の河川にかかわる業務にたずさわる職員を対象に、中小流域の河川に関する業務に必要な知識の修得をはかる。
	河川総合開発 ―ダム設計―	四月、六月 各六名	ダム事業にたずさわる中堅技術職員を対象に、最近のダム課題に対応するために必要な調査・設計に関する総合的な知識の修得をはかる。
	水資源	四月、六月 各四名	水資源計画に経験の浅い職員を対象に、水資源計画に関する専門的知識の修得をはかる。
	河川構造物設計一般	四月、五月 各四名	河川構造物の設計業務を担当する職員を対象に、河川構造物等の機能設計に必要な知識の修得をはかる。
	砂防一般	四月、五月 各四名	地方公共団体、公団、公社、コンサルタント等の職員を対象に、砂防にかかわる最近の課題に対応するために必要な知識の修得をはかる。
	砂防等構造物設計演習 ―砂防地すべり・急傾斜地・雪崩―	四月、七月 各四名	砂防・地すべり・急傾斜地・雪崩施設の調査設計業務に関し、実務経験二年以上程度の者を対象に、各構造物の調査・計画・設計の専門知識の修得をはかる。
	斜面安定対策工法	四月、五月 各四名	建設事業にたずさわる職員を対象に、のり面の崩壊防止、保護工等の安定対策工事についての調査・設計・施工の専門的知識の修得をはかる。
	災害復旧実務	四月、五月 各五名	地方公共団体等の災害復旧業務を担当する実務経験三年以下の職員を対象に、災害復旧の実務に必要な知識の修得をはかる。
	災害復旧実務中堅技術者	四月、五月 各五名	地方公共団体等の災害復旧業務を担当する実務経験三年以上の職員を対象に、災害復旧の実務に必要な専門的知識の修得をはかる。
	道路計画一般	四月、十一月 各五名	道路等の調査・設計業務にたずさわる経験の少ない者を対象に、道路の調査・計画および設計に関する知識の修得をはかる。
	道路舗装	四月、七月 各六名	地方公共団体等の職員で道路工事(舗装)業務にたずさわる実務経験三年程度の職員を対象に、舗装に関する知識の修得をはかる。
	道路管理	四月、九月 各六名	道路管理業務を担当する職員を対象に、道路管理に必要な知識の修得をはかる。
	市町村村道	四月、十一月 各五名	市町村道業務を担当する職員を対象に、市町村道に関する総合的な専門知識の修得をはかる。
	地価調査担当者等	四月、五月 各一〇名	都道府県ならびに指定都市の地価調査関係業務担当職員を対象に、土地評価に関する基礎知識の修得をはかる。

研修名	期日・人数	目的および対象者
* 土地調査員	八月 九〇名 六日間	都道府県ならびに指定都市の土地調査員を対象に、土地調査員に必要な基礎知識の修得をはかる。
* 価格審査担当者	十一月 九五名 六日間	都道府県および指定都市ならびに都道府県等から委任を請けた市町村の価格審査担当職員を対象に、土地評価に関する基礎的知識の修得をはかる。
◇ 補償コンサルタント (用地基礎) I・II	四月・五月 各五〇名各六日間	補償コンサルタント業務を行う者の資質の向上をはかるため、公共用地の取得に関する基礎的知識の修得をはかる。
◇ 補償コンサルタント (事業損失・物件部門)	六月・七月 各五〇名各六日間	補償コンサルタント登録部門の専任管理者または、これに準ずる者を対象に、補償に関する専門知識の修得をはかる。
土木積算体系	六月 五〇名 五日間	公団、公社および建設事業関係者で土木工事積算業務を担当する職員を対象に、土木工事積算に関する基礎知識の修得をはかる。
◇ 実行予算	六月 六〇名 三日間	建設工事の実行予算業務にたずさわる者を対象に、建設工事の実行予算にかかわる考え方とコストの基本についての修得をはかる。
◇ 建設市場開発戦略セミナー	十一月 四〇名 三日間	建設関連事業における営業・開発活動を中心に今後の需要の創出、新分野への進出等に関する諸対策に必要な知識・情報の修得をはかる。
仮設工	五月 五〇名 五日間	土木建設工事にたずさわる職員を対象に、土留、仮締切、仮棧橋、型枠、支保工の設計施工に関する知識・技術の修得をはかる。
土木構造物(くい基礎)	五月 五〇名 五日間	土木構造物の設計関連業務にたずさわる者を対象に、くい基礎の構造理論、設計手法等の専門知識の修得をはかる。
英文契約仕様	五月 四〇名 四日間	国際業務にたずさわる者を対象に、英文契約仕様に関し必要な英文知識の基本的な修得をはかる。
◇ 国際契約実務	十月 四〇名 三日間	国際業務にかかわる職員を対象に、国際契約に関し実務的な知識の修得をはかる。
◇ 海外プロジェクト実務者	五月 三〇名 十三日間	海外の建設プロジェクトにたずさわる実務者を対象に、プロジェクトマネージャーとしての人材養成をはかる。
地質調査 (土質・岩盤・地下水コース)	四月 五〇、四〇、四〇名 六、六、五日間	国・地方公共団体および業界等において地質調査業務に従事する技術職員を対象に、地質調査の専門的な知識の修得をはかる。
ソイル・リクエフィアクション (土の液状化)	一月 四〇名 四日間	国土保全ならびに建設事業にたずさわる職員を対象に、基礎地盤の液状化に関する専門的知識の修得をはかる。
補強土工法	十月 四〇名 四日間	建設事業にたずさわる者を対象に、補強土工法に関する専門的知識・技術の修得をはかる。
建設技術 (地盤処理工法)	五月 五〇名 五日間	建設技術職員で実務経験三年程度の者を対象に、土木建設工事にかかわる軟弱地盤改良工事に関する技術・知識の修得をはかる。

研修名	期日・人数	目的および対象者
地すべり防止技術	五月 五〇名 九日間	地すべり調査および防止対策に従事し一定の実務経験年数を有する技術職員を対象に、有効な災害防止を行うために必要な知識・技術の修得をはかる。
近接施工	九月 四〇名 四日間	建設事業にたずさわる技術職員を対象に、各種既設構造物に対しての近接施工について調査・設計手法・対策工法などの専門知識の修得をはかる。
工程管理 (基本)	四月 六〇名 三日間	建設事業にたずさわる職員を対象に、工程管理に必要な考え方を理解するとともに、演習を通して、その手法と利用法の修得をはかる。
電算利用 (Ⅰ)(Ⅱ)	七月・十月 各四〇名各三日間	建設分野における身近なパソコン利用、意思決定支援システムに関し、必要な知識・情報の修得をはかる。
データベース	十月 四〇名 三日間	データベースユーザーを対象に、データベースの構築と活用に関する最近の知識・情報の修得をはかる。
建設パソコン実習 (初級)	四月 二五名 五日間	建設事業にたずさわるパソコン未経験者を対象に、建設技術におけるパソコン利用について実習により初歩的知識・技術の修得をはかる。
建設パソコン実習 (中級)	七月 二五名 五日間	建設事業にたずさわる職員で、簡単なプログラミングができる者を対象に、ケーススタディと実習により知識・技術の向上をはかる。
建築計画	二月 四〇名 四日間	建築の一般計画に対して、一級建築士相応の知識を必要とする者等を対象に、建築計画に必要な基本的知識の修得をはかる。
建築基礎構造	五月 四〇名 五日間	建築構造に従事する者を対象に、建築基礎構造に関する必要な知識の修得をはかる。
ダム管理主任技術者 (学科七回・実技十二回)	学科七回、四月・六月間 実技各六回、五月・十月、 各四日間	河川法第五〇条にもとづくダム管理主任技術者またはその候補者を対象に、ダムの安全管理に必要な知識・技術の修得をはかる。
ダム管理技士 (操作実技検定)	八月・九月(四回) 各六名・各四日間	河川法第五〇条に基づく管理技士候補者を対象に、ダム管理技士の資格を取得させるため、ダム操作の技術の習得をはかる。
ダム工事技術者一般	一月 五〇名 十二日間	土木建設工事に従事するダム工事の実務経験三年以下の職員を対象に、ダム工事に関する基礎的知識の修得をはかる。
ダム工事技術者中堅	一月 四〇名 十九日間	土木建設工事に従事するダム工事の実務経験三年以上の職員を対象に、ダム工事の専門的技術・知識の修得をはかる。
道路技術一般	四月 七〇名 十七日間	道路建設工事に従事する業界技術職員で、一定の資格を有する者を対象に、主任技術者養成に必要な施工技術の修得をはかる。
道路技術専門	六月 八〇名 六日間	道路建設工事に従事する業界上級技術職員で、一定の資格を有する者を対象に、舗装に関する専門的な高度の知識の修得をはかる。
舗装技術	四月 四〇名 四日間	道路工事に従事する技術職員を対象に、舗装に関する知識の修得をはかる。

研修名	期日・人数	目的および対象者
建設技術 (透水性舗装)	八月 五〇名 三日間	建設事業にたずさわる技術職員を対象に、透水性舗装についての理論および設計・施工などの専門知識の修得をはかる。
建設技術 (シールド工法一般)	四月 四〇名 四日間	シールド工事に従事する技術職員を対象に、シールド工事の施工に関し、基本的に必要な技術・知識の修得をはかる。
建設技術 (シールド工法中級)	十月 五〇名 三日間	シールド工事に従事している者を対象に、シールド工事の施工に関する専門的な技術・知識の修得をはかる。
建設技術 (推進工法)	九月 六〇名 四日間	推進工事に従事する技術職員を対象に、推進工法の設計・施工に関する専門的な技術・知識の修得をはかる。
推進工法積算実務	四月 五〇名 四日間	下水道推進工事の設計・積算業務に経験の浅い職員を対象に、下水道推進工事の施工計画から積算についての基本的な知識の修得をはかる。
建設技術 (ナトム中級)	七月 五〇名 五日間	土木建設工事に従事する経験の少ない現場技術職員を対象に、ナトム工事の設計・施工等に関する専門的な技術・知識の修得をはかる。
建設技術 (ナトム)	六月 五〇名 五日間	土木建設工事に従事する実務経験二年以上の技術職員を対象に、ナトム工法の設計・施工等に関する専門的な技術・知識の修得をはかる。
建設技術 (ナトム)	七月 五〇名 四日間	ナトムの契約・積算、設計の業務に従事する職員に対し、契約の基本的な考え方、積算についての施工計画、積算手法についての知識の修得をはかる。

研修問合せ先

研修局 〒187 東京都小平市喜平町二の二
 ☎ 〇四二三(二四)五三一五

●試験業務部門の業務《技術検定》

試験業務部門で行っており、ます技術検定試験は、建設業法（昭和二四年法律一〇〇号）第二七条の二第一項の規定に基づき、建設大臣の指定試験機関として試験事務を行うものです。

また、建設省告示により二級土木施工管理技術研修及び土地区画整理法（昭和二九年法律一一九号）第七五条第二項に基づき当センターが建設大臣の指定をうけて実施するものです。

この試験及び研修の合格者は国の行う技術検定試験の全部又は一部が免除されます。

浄化槽法に基づくものとして、昭和六〇年から実施することになった浄化槽設備士に係る試験は、(財)浄化槽設備士センターが行う浄化槽設備士試験の実施事務の一部を当センターが受託して実施するものです。

そのほか、建設業法の改正に伴う経過措置としての大臣認定「特別認定講習及び考査」を実施します。

平成元年度 技術検定関連試験・研修実施予定

試験名	受験資格	試験実施日	試験地	受付期間
一級土木施工管理 技術検定 学科試験	<p>高専卒以上の学歴で、学歴により所定の実務経験年数を有する者。</p> <p>二級土木施工管理技士で、所定の実務経験年数を有する者。</p> <p>〔昭和63年度及び平成元年度に限り〕 高校の指定学科卒業後15年（指導監督的実務1年以上含む）以上の実務経験年数を有する者。</p> <p>20年（指導監督的実務1年以上含む）以上の実務経験年数を有する者。</p> <p>〔平成元年度及び2年度に限り〕 所定の条件を備える特定建設業の専任技術者ならびに監理技術者。</p>	7月2日(日)	<p>札幌 釧路、旭川、函館、 仙台、東京、新潟、名古屋、 大阪、広島、松江、高松、 高知、福岡、鹿児島、那覇</p>	3月17日から 3月31日まで

試験名	受験資格	試験実施日	試験地	受付期間
一級土木施工管理 技術検定 実地試験	当年度学科試験合格者。 その他の該当者。	10月1日(日)	札幌、釧路、仙台、東京、 新潟、名古屋、大阪、広島、 高松、福岡、那覇	当年度合格者 8月18日～9月1日 その他の該当者 8月7日～8月21日
二級土木施工管理 技術検定 学科・実地試験 (土木・鋼構造物塗装・薬液注入)	学歴により所定の実務経験年数を有する者。	7月16日(日)	右記に同じ ただし、種別「鋼構造物塗 装・薬液注入については、 札幌、東京、大阪、福岡	3月17日から 3月31日まで
一級管工事施工管理 技術検定 学科試験	高専卒以上の学歴で、学歴により所定の実務経験年数を有する者。 二級管工事施工管理技士で、所定の実務経験年数を有する者。 職業能力開発促進法による管工事関係の一級技能検定合格者。 〔昭和63年度及び平成元年度に限り〕 高校の指定学科卒業後15年(指導監督の実務1年以上含む)以上の実務経験年数を有する者。 20年(指導監督の実務1年以上含む)以上の実務経験年数を有する者。 〔平成元年度及び2年度に限り〕 所定の条件を備える特定建設業の専任技術者ならびに監理技術者。	9月3日(日)	札幌、仙台、東京、新潟、 名古屋、大阪、広島、高松、 福岡、那覇	5月18日から 6月1日まで
一級管工事施工管理 技術検定・実地試験	当年度学科試験合格者。 その他の該当者。	12月3日(日)	札幌、東京、名古屋、大阪、 福岡	10月19日から 11月2日まで
二級管工事施工管理 技術検定 学科・実地試験	学歴により所定の实務経験年数を有する者。 職業能力開発促進法による管工事関係の一級または二級の技能検定合格者。	9月17日(日)	札幌、仙台、東京、新潟、 名古屋、大阪、広島、高松、 福岡、那覇	5月18日から 6月1日まで
一級造園施工管理 技術検定 学科試験	高専卒以上の学歴で、学歴により所定の実務経験年数を有する者。 二級造園施工管理技士で、所定の実務経験年数を有する者。 職業能力開発促進法による造園の一級技能検定合格者。	9月3日(日)	札幌、仙台、東京、名古屋、 大阪、広島、福岡	6月2日から 6月16日まで

種 目	受 講 資 格	実 施 内 容
土木技術者 ・管工事技術者 特別認定講習 管工事業に係る 大臣認定考査	次の(1)、(2)のすべてに該当する者。 (1)昭和63年6月6日時点で指定建設業者に関して、特定建設業者の営業所に置く専任の技術者であった人。 (2)昭和62年6月6日から昭和63年6月5日までの間に指定建設業に関して、監理技術者の実績のある人。 職業能力開発促進法による技能検定のうち、検定職種を一級の配管、空気調和設備配管、給配水設備配管又は配管工とするものに合格した者。	申込受付期間、受講料、実施時期、実施場所等詳細については平成元年5月中(子定)に発表します。 申込受付期間、考査料、実施場所等は未定です。

技術検定関連試験・研修問合せ先

●土木施工管理技術検定(一・二級学科及び実地試験)(土木試験課)

●二級土木施工管理技術研修(土木研修課)

☎〇三(五八一)〇一三八(代表)

●管工事施工管理技術検定(一・二級学科及び実地試験)(管工事試験課)

●造園施工管理技術検定(一・二級学科及び実地試験)(造園試験課)

●土地区画整理技術者試験(区画整理試験課)

●浄化槽設備士試験(浄化槽試験課)

☎〇三(五八一)〇八四七(代表)

試験業務局 〒100 東京都千代田区永田町の十一の三〇 サウスヒル永田町ビル



本学院は、創立者上條勝久名誉理事長の信念「明倫」を教育の基本理念として、国土建設事業の推進に役立つ実践的専門技術者の育成に努力を重ねています。

開校以来27年、約15,000名にのぼる卒業生は確かな技術をもって各方面で活躍中であり、他にみない独自の教育は高く評価されています。

工業専門課程(昼間・高卒男女)

◎測量科(1年制)
(4月生・10月生)

測量技術者として現場第一線で独立任務を遂行できる実践的技術者を養成する。

製図科(1年制)

地図製図技術を軸に、土木、建築等を含む広範な製図技術をもつ専門技術者を養成する。

◎測量工学科(2年制)
(測量調査専攻)
(地図専攻)

第1年次では建設大臣指定基準に従い基礎から専門へと各種測量について幅広く学習し、第2年次では学生各人の選択により測量調査専攻、地図専攻の専攻別に、さらに濃度の高い専門性を付与し、多様化・高度化の進む測量界で活躍できる専門技術者を養成する。

◎測量土木技術科(2年制)

測量、土木の両分野にわたり現地作業に役立つ最新技術を修得し、測量士または土木施工管理技士として現場第一線で活躍できる専門技術者を養成する。

◎都市工学科(2年制)

都市の建設に必要な十分な測量技術と都市計画、土地区画整理の専門知識を修得した技術者を養成する。

◎土木工学科(2年制)

しっかりした幅広い測量技術の素養の上に土木工学を専攻させ、土木工事に係る測量・調査・設計を担当し、また土木工事の現場主任技術者として活躍できる専門技術者を養成する。

◎土木地質工学科(2年制)

土木工学、測量技術の素養の上に土木地質工学に関する幅広い知識と技術を身につけた新時代に生きる土木地質調査の専門技術者を養成する。

造園緑地工学科(2年制)

現代造園に関する理論と造園の計画・設計・施工・管理の専門技術を修得させ、新時代に即した実践的技術者を養成する。

上下水道工学科(2年制)

上下水道工学に関する専門学科ならびに施設の設計・施工・維持管理についての知識と技術を修得させ、実際に役立つ専門技術者を養成する。

設備工学科(2年制)

給排水衛生・空気調和等建築設備とその周辺技術について、その知識と技術を修得させ、給水装置技術者、排水設備技術者、管工事技術者等として活躍できる専門技術者を養成する。

研修課程(昼間)

測量専科(10月入学)
(6ヵ月間)

法務省の指定研修コースで、毎年50名の登記官等が派遣されるほか、一般からの受講者も引き受けている。

土地区画整理専科(5月入学)
(2ヵ月間)

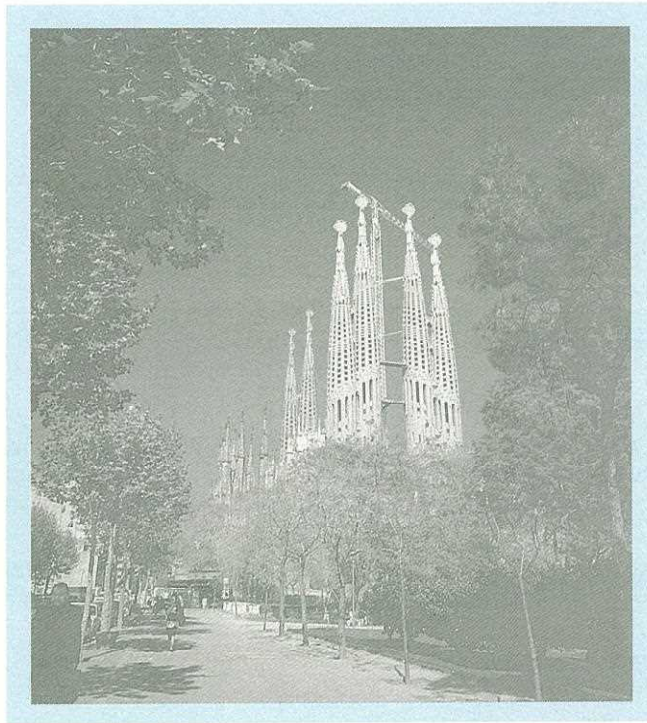
地方公共団体や民間企業等から職員研修の場として好評をうけている。

卒業生の特典

◎印の科は卒業時測量士補(無試験)の資格が取得できる。このほか科により土木、管工事、造園各施工管理技士の受験資格、地図製図士(2級)の資格付与等特典がある。

◆詳細は下記にお問合せください。

〔〒187〕東京都小平市喜平町2-1-1 TEL 0423-21-6909(代)



国づくりの研修